Ⅲ 学校評価自己評価

京丹後市立幼稚園・学校評価自己評価報告一覧

学校名	学校・園教育目標
1　峰山幼稚園	“笑顔でつなごう。みんなの　てとて!!” ―　はなそう・つたえよう・みんなのおもい　― （1）生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 （2）主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 （3）身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。
2　大宮幼稚園	“笑顔　いっぱい　げんきななかま!!” ―　かんじて　かんがえて　みんなでつながろう。― （1）生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 （2）主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。
3　網野幼稚園	（1）　幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 （2）　自分の思いや考えを表現し、行動できる力を養う。 （3）　幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的生活習慣や態度を育てる。 （4）　常に園内外の安全指導・安全対策に留意する。 （5）　地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。
4　丹後幼稚園	一人一人が生き生きと活動し、「楽しんで広がれ！つながれ！みんなえがお！」をテーマに、人とのかかわりや様々な体験を通して心豊かでたくましく、やさしさがあふれ、「生きる力」をもつ幼児を育成する。
5　弥栄幼稚園	「自然に親しみ　丈夫な体と　豊かな心を持った　明るい子どもの育成」 ○健康で生き生きと活動する子どもの育成 ○友達と関わり合って遊びを創り出す子どもの育成 ○人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えが言える子どもの育成 ○素直で思いやりのある子どもの育成
6　かぶと山幼稚園	「元気な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」 ≪元気　勇気　笑顔　つながれ仲間≫～一人ひとりが輝いてみんなとつながる喜びを感じよう～ 1 幼児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。 2 人とのかかわりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現できる力を育てる。
7　峰山小学校	1　就学前から中学校卒業までの10年間を見通した一貫性のある教育を推進する。 2　授業力の向上に全力を尽くす。 3　子どもたちが笑顔で楽しい学校生活が過ごせるよう全力を尽くす。 4　地域に貢献し地域とともにある学校づくりに全力を尽くす。
8　いさなご小学校	峰山学園の教育目標である「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」を目指して教育活動を展開する。 学校再配置による開校１年目として、見通しを持ち計画的な学校経営に努めることで、それぞれの学級経営を安定させて保護者・地域の信頼を得る。 京都府小学校教育研究会研究協力校として、算数科の授業研究を進めていく。
9　新山小学校	1　一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2　「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3　保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】
10　丹波小学校	1　一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】】 2　「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3　保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】
11　長岡小学校	「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に努める。 〈目指す子ども像〉 ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども
12　大宮第一小学校	1 意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 2 自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 3 心身を鍛え、活動的な子どもの育成 4 組織的・効率的・機能的な学校経営による信頼される学校づくりの推進
13　大宮南小学校	「自他を尊重し、自ら学ぶ子どもの育成」 上記教育目標を達成するために、教職員が組織の一員として協働意識をもって自己の役割と責任を果たし、再配置校として地域・保護者から信頼され、児童にとって行きたくなる学校づくりを目指す。
14　網野北小学校	1　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2　すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3　思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
15　網野南小学校	網野町域小中一貫教育の目標から 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」 目指す子ども像 ・あかるく元気に進んで学ぶ子 ・みんななかよく支え合う子 ・のびのび生き生きやりぬく子
16　島津小学校	1　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2　すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3　思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
17　橘小学校	【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子（知） み：みんななかよく支え合う子（徳） の：のびのび生き生きやりぬく子（体） ＊「たくましく　力と心を合わせ　はきはき　何でも進んで取り組む学校」～元気・笑顔・挑戦～　の具現化を目指す。

学校名	学校・園教育目標
18 豊栄小学校	「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて生きる子どもの育成」丹後中学校区学校教育目標の具現化を図るための学校づくりを進める。 ・「学ぶ意欲があふれる学校」をテーマに学習の楽しさを実感させ確かな学力を定着させる。その学びを活かし、考え方や見方を広げ人間的豊かな社会性を身に付けていく教育を行う。
19 間人小学校	1　人権感覚を磨き、人を思いやる心を育てる。 2　読み書き、話す、計算する基本的な力を身に付ける。 3　規範意識を高め、安全安心な学校生活をさせる。 4　保護者、地域と連携・協働し信頼関係を築く。
20 宇川小学校	1　夢と希望と創造性あふれる豊かな心をもち、未来に向けて主体的に生きる子どもを育成する。 2　宇川の地を愛し、地域の未来を広げる力をつけた、主体性ある児童を育てる。
21 吉野小学校	小中一貫モデルカリキュラムの活用を図り、地域の特色を生かした教育課程の編成を行い、日常の教育活動を充実させていくことで、児童が安心して主体的に学び、活動できる学校づくりと保護者・地域、関係機関との連携を大切にし、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。
22 弥栄小学校	かしこく やさしく たくましく ～自主・自立～ （1）言語活動の充実 （2）自己肯定感の醸成
23 久美浜小学校	学校教育目標の達成に向け、校訓「一生懸命」を取り入れた教育活動を推進する。 1　質の高い学力をつけるための学習指導及び学習環境整備を進める。 2　質の高い学力を培う基盤として、児童同士の好ましい友人関係の構築を一層進めるとともに、社会的なマナーの確立や規範意識の醸成を図る。
24 高龍小学校	「意欲的な児童の育成」 1　3年目の学校課題を整理し解決する。 2　組織的対応のための校内委員会と教育相談等の充実 3　地域と連携した教育活動
25 かぶと山小学校	久美浜学園教育目標 ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成 目指す児童像 （知）意欲的に、質の高い学力を身につけようとする子 （徳）自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ （体）心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子
26 峰山中学校	【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす学校像】 ・生徒にとっては魅力ある学校 ・家庭、地域社会にとっては開かれた学校 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】 ・確かな学力の充実・向上 ・豊かな人間性の育成 ・信頼を高める学校づくり
27 大宮中学校	1　学習意欲を高める授業づくりの充実と家庭学習の定着 2　夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 3　健康な体と豊かな心の教育の充実 4　信頼される学校づくり 5　教職員の資質能力の向上
28 網野中学校	将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進 1　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2　すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3　思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
29 丹後中学校	丹後中学校の開校3年目の教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校にする。 生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。
30 弥栄中学校	1　基礎学力の定着・活用力の育成と主体的な学習態度の養成 2　心の教育の充実による不登校の未然防止と解消 3　小中一貫教育の推進による指導の円滑な接続の実現 4　生徒指導の3機能を生かした積極的な生徒指導の展開 5　安心・安全で信頼される開かれた学校づくりの推進
31 久美浜中学校	○規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。 ○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に活かし、教職員間の共通理解を丁寧に図りながら系統的に実践を積み上げる。 1生徒の自尊感情を高め、望ましい人間関係を構築する。 2基礎基本の定着を中心に据えた総合的な学力向上策を共通理解させ、職員みんなで取り組む。 ◇授業規律の確立 ◇小中共通の授業構造による授業改善と言語活動の充実 3「学校・地域連携推進協議会」を立ち上げ、新たな仕組みを機能化させることで久美中教育全体を充実させる。

（別紙様式２）

平成28年度学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立峰山幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
“笑顔でつなごう。みんなの　てとて!!” ―　はなそう・つたえよう・みんなのおもい　― (1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 (3)身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。	○幼児が主体的に遊ぶことができるように登園後、すぐに活動ができるように環境を整えたことで登園が早くなった。 ○新園舎・新生活のため、一人一人が安全に安心して生活ができるよう話し合いを重ねていった。 △保護者・地域に開かれた園として信頼関係に努める。 △職員間の報告・連絡・相談の徹底と研修を深める。 △保幼からの小中一貫教育を通してスムーズな連携・接続について研修を重ねる。	(1) 幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2) 自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 (3) 幼児の実態や発達に合わせ支援し、共に育ち合う集団をつくる。 (4) 保護者の子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。 (5) 峰中校区（保幼から小中一貫教育）の連携を進める。

評価目標	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程	○幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 ○自分の思いや考えを表現したり行動したりできる力を養う。 ○幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的生活習慣や態度を育てる。 ○常に園内外の安全指導・安全対策に留意する。	(1) 園内外の自然の中で発見や感動を持つ。 (園内)・砂.泥遊び・プール遊び・遊具であそぶ ・園内の草木・野菜.花つくり・小動物の飼育 (園外)・遠足:牧場・かぶと山公園 ・散歩:花見見学・農道を歩く・よもぎ摘み公園で遊ぶ・小動物捕り ・田んぼ:泥んこあそび・田植え・稲刈りなど (2) あいさつ運動:玄関で元気に挨拶を交わし一日を始める。 (3) 登園時間や子ども達の実態を把握し、個々に合った助言や指導を行う。 (4) 活動に合わせ、話し合いの時間や場を持つ。 ・自分を知り、友だちの良さに気づける生活や遊びを進める。 ・朝の会や終わりの会などで思いや考えを伝える。 (5) 散歩や集団登降園などで交通ルール・集団でのルールを共に考え知らせる。また、保護者会で交通安全・危機管理について学び合う。	○園舎の周りは、田畑に囲まれ、小西川や就学先５校の内２校が近くにあり交流ができること、公共の施設があることなどによって、年齢に合った言葉かけの中、自然に感動体験や言葉などの表現活動を進めていくことができた。 ○地域の方の協力もあり、田んぼでの泥の感触遊びを存分経験し、農家の方の仕事・機械・かかわりなどから知識を広げることができた。 ○『目と目を合わせ、元気にあいさつをする。』を登降園時行うことで“相手を見る・知る”“話を聞く・聞いてもらう”を感じ、ことばと表現の大切さを感じてきた。また、基本的な生活習慣を身につけるために時間を決めて朝マラソンや体操を行うことで体の目覚めから行動面や時間への意識ができる子が増えてきた。 △大集団の中で、一人一人を見つめ、保育内容をどのように教育保育につなげていくか職員研修を繰り返し行う。

子育て支援	○家庭での子育ての不安に寄り添い安心して子育てができるように支援する。	(1) 子育て相談（随時） (2) 園庭開放(毎週金曜日) (3) 園開放（月２回） (4) 預かり保育 (5) 支援センターの利用 (6) 一時預かり制度の利用	○送迎時・家庭訪問・個人面談・懇談会などで園での様子を伝えることができた。 ○個々の家庭状況や園児の状況に合わせ、保護者との話し合いや支援を進めていくことができた。 △保護者が安心安定の中で子育てが楽しめるように話ができる場と時間をつくる。
小中一貫教育への推進（保幼小連携）	○『峰山学園』峰山中校区の連携 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成 (1)意欲を持って自ら学ぶ子ども（知） ・遊びや生活を発展する。 (2)思いやりのある子ども（徳） ・あいさつをする。 ・保育者や友だちと話をする。 (3)進んで心と体を鍛える子ども（体） ・保育者や友だちといろいろな運動遊びに挑戦する。	(1) 峰中校区校園長会・経営会議を通して子ども達の実態から課題点を見つけ、共通の目標を持つ。(ことば力・聞く力・話す力からのコミュニケーション能力) (2) 中学校との連携 ・福祉体験での交流・参観交流 (3) 小学校との連携 ・発表会（生活・音楽）鑑賞・連絡会・運動会見学 ・体験入学・保育参観・小１スタートカリキュラム検討 (4) 保育所との連携 ・保育交流・５歳児交流会・担任会 (5) 高校生との連携　・花の苗植えと交流	○峰山学園として共通の課題『ことばの力の育成』を基本に個々の状況に合ったかかわりや保育を進めていくことで年齢なりに個々の力をつけてきた。 ○保育参観や事後の研修で幼児教育の捉え・進めてきていることや幼児期は大切な時期であることを伝えることができた。 ○異校種交流を進めていく中で、あこがれの気持ちを育て生活や学びへの興味を持つようになった。 △幼児教育の捉えや就学前の教育保育と小学校の教育課程との接続の仕方を学び合う。
家庭・地域との連携	○自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 ○人とのかかわりを持つ力を育む。	(1) 登園時間を 9 時までとし、集団で行動することの楽しさを知る。 (2) 保護者・地域・社会人講師を迎えて様々な体験をする。 ・絵本の読み聞かせ・野菜の苗植と定植・稲作り ・琴の演奏に合わせての読み聞かせ・運動あそび ・防災訓練・交通教室・ALT との交流 (3) 高齢者との交流	○生活リズムや集団生活を行うにあたり、時間の大切さが理解できるように活動内容を子ども達と相談しながら進めていくことができた。 ○保護者や地域の方の絵本の読み聞かせやいろいろな人とのかかわる体験からことばの使い方を知り、心の広がりを感じる。 △個々の状況を把握し、様々な体験を進めていく。
次年度に向けた改善の方向性	○登降園時、自ら挨拶ができる親子にする。 ○個々の発達や状況を把握し、それぞれに合った保護者対応を進める。 ○クラス・学年の様子が分かるよう工夫をする。		○思いや考えがそれぞれの言葉や表現で表せるようにする。 ○保幼からの小中一貫教育につながる 0～5 歳児の保育教育を学び合う。 ○職員間の報告・連絡・相談の徹底

（別紙様式２）

平成28年度　学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立大宮幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
“笑顔　いっぱい　げんきななかま!!” ―かんじて　かんがえて みんなでつながろう。― (1) 生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2) 主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。	○自ら挨拶のできる子どもが増えた。 ○自分のことばで思いや考えを表現し、人の話を聞く態度が身についてきた。 ○身近な物(教材)で工夫、発想するなど自ら考え主体的に遊べるようになった。 △園での活動内容や様子を保護者に知らせる工夫、話をする場と時間の確保が必要である。 △職員間の報告・連絡・相談の徹底と子どもの発達と教育・保育の研修を重ねる。	(1) 幼児自らが環境に関わり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2) 自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 (3) 保護者の子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。 (4) 大宮中校区(小中一貫教育)の連携を進める。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程	○幼児自らが環境に関わり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 ○自分の思いや考えを表現したり行動したり力を養う。 ○幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的生活習慣や態度を育てる。 ○常に園内外の安全指導・安全対策に留意する。	(1) 園内外の自然の中で発見や感動を持つ。 (園内)・砂、泥遊び・プール遊び ・園内の草木・花、野菜作り ・クッキング活動 ・虫捕り・小動物の飼育 (園外)・遠足・散歩：花畑・神社・農道を歩く ・蓬摘み･公園で遊ぶ・小動物捕り・酒蔵見学 (2) 挨拶運動：玄関で元気に挨拶を交わし一日を始める。 (3) 登園時間や子ども達の実態を把握し、個々にあった助言、指導を行う。 (4) 活動に合わせ、話し合いの時間や場を持つ。 ・朝の会や終わりの会などで思いや考えを伝える。 (5) 散歩や集団行動などで交通ルール・集団でのルールを共に考え、知らせる。	○自然に恵まれた環境に目が向けられるように園外へ出て、季節の木々や草花、虫など様々な生き物を発見したり、感動したりすることで、その思いを言葉で伝えられるようになった。 ○保育者や子ども達が玄関で登園を迎え、挨拶を交わすことで自然と挨拶できるようになり、異年齢の関わりも持てた。また子ども達の状況を視覚から感じ、保護者との連携で個に合った対応をすることができた。 ○警察官による防犯訓練・交通指導や消防士による防火訓練により、危機管理意識が高まり、行動確認ができた。 △園児・保護者・職員共にルールや決まりを守ることの大切さを繰り返し指導する。 △豊かな人間関係を築けるように、異年齢活動を進めていく。

子育て支援	○家庭での子育ての不安に寄り添い安心して子育てができるように支援する。	(1) 子育て相談(随時) (2) 園開放(月２回) (3) 預かり保育 (4) 子育て支援センターの利用 (5) 一時預かり制度の利用	○園庭開放を行い、普段の子ども達の様子を感じてもらうことができた。 ○△園や家庭での様子を送迎時・家庭訪問・電話連絡・懇談などで伝え合うことができた。しかし、不十分な点もあり、保護者と話ができる時間や場を確保し、情報連携していく方法を考える。
小中一貫教育の推進（保幼小接続）	○大宮中校区の連携 (1) 学びの“基礎力” ・遊びを通して、人とかかわることの楽しさを知り、思いや考えを言葉で表現する子どもを育てる。 (2)学びの“発展力” ・いろいろな人とかかわり行動する中で、自分の良さや友だちの良さに気づき、思いやりのある豊かな心を養う。	(1) 大中校区校園長会・経営会議を通して子ども達の実態から課題点を見つけ、共通の目標を持つ(ことば力・聞く力・話す力) (2) 中学校との連携 ・地震津波合同訓練・体育祭見学 ・作品の交流･参観交流・福祉体験の交流 (3) 小学校との連携 ・発表会(生活･音楽)鑑賞・連絡会 ・運動会見学・マラソン大会見学・体験入学 ・保育参観・小１スタートプログラム検討 (4) 保育所との連携 ・５歳児交流会・担任会・参観交流 (5) 高校生との連携　・花の苗植えと交流	○大宮学園経営会議で共通の目的を持ち、『ことばの力』を中心に環境を整え、教育保育を進めていくことで、年齢に合った発達を促すことができてきた。 ○25 日『にこにこの日』をふれあい給食の日として同じ気持ちで取り組むことができた。 ○異校種交流を行う中で、園児が生活や学びの見通しを持ったり、憧れの気持ちが育ったりするなど、心を豊かにすることができた。 ○アプローチプログラム・スタートカリキュラムの検討など、担任会に参加し交流することで同じ目標を共有することができた。 △公開保育を利用するなど、職員の研修や交流等を通して学び、連携を深める。
家庭・地域との連携	○自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 ○人とのかかわりを持つ力を育む。	(1) 登園時間を 9 時までとし、集団で行動することの楽しさを知る。(朝マラソン・体操・生活点検カードの実施) (2) 社会人講師を迎えて様々な体験をする。 ・本の読み聞かせ・お茶会・サッカー教室 ・琴の演奏に合わせての読み聞かせ ・ALT との交流・看護学生との交流 (3) 高齢者との交流 ・グループホームおおみやとの交流(随時) ・おおみや苑との交流	○生活点検カードの実施を多くすることで、生活リズム作りへの意識が高まった。 ○朝マラソンやリズム運動を通して、体を動かすことの楽しさを経験し、健康な生活・体作りに関心がもてた。 ○様々な講師を迎えたり、高齢者の方とふれあったりする中で、年齢なりの挨拶や言葉の使い方、関わりがもてた。 △地域に出かけ、交流を深め、地域を大切に思う心を育てる。
次年度に向けた改善の方向性	○思いや考えを年齢なりの言葉で伝え、話を聞く態度を身につける。 ○園での活動や様子を家庭や地域に情報発信していく。 ○保幼からの小中一貫教育につながる 0～5 歳児までの発達や教育保育の充実に努める。 ○特別支援教育の充実に向けて、一人一人を大切にした保育、支援に努める。 ○職員間の報告･連絡・相談を徹底すると共に、園内での研修の時間を確保し、職員の資質向上に努める。		

（別紙様式２）

平成28年度　学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔　京丹後市立網野幼稚園　〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
（１）幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 （２）自分の思いや考えを表現し、行動できる力を養う。 （３）幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的生活習慣や態度を育てる。 （４）常に園内外の安全指導・安全対策に留意する。 （５）地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。	・一人一人を受け止め、寄り添うことを前提に様々な取組を進めてきたことで、幼児が達成感や成就感などを味わい、自己肯定感を育むことにつながった。 ・「網野学園」のリーフレットを活用し、職員間で共通理解したり、保護者へも啓発したりしていくことができた。今後はアプローチプログラムを組み入れた計画や実践をしていくことが大切である。 ・京都府公立幼稚園教育研究会研究発表は、課題も残るが、２年間の取組の成果を発表することができた。 ・園開放を年11回開催することにより、地域の子育て支援の場としての役目が果たせたが、さらに広めていく必要がある。	「どきどき　わくわく　きらっ！」 ～自分らしさを発揮して 仲間とともに遊び込める子どもをめざして～ ・楽しい幼稚園生活を過ごす ・主体的な活動をくり広げる ・人とつながり合うことの喜びを味わう

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程	「どきどき　わくわく　きらっ！」 ～自分らしさを発揮して仲間とともに遊び込める子どもをめざして～ ・楽しい幼稚園生活が過ごせるようにする。 ・主体的な活動をくり広げられる環境づくりをする。 ・人とつながり合うことの喜びが味わえるようにする。	・一人一人の幼児と心をつなぎ、個々が安定できる幼稚園生活の創造をする。 ・自らが健康や生活に関心をもち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 ・集団でなければできないこと、大勢ですると楽しいことに気付かせ、他人に関心をもたせる。	○　小規模園のよさを生かし、“全児に全職員でかかわっていく”という観点から、できるだけ幼児に寄り添い内面理解に努めた。園だよりに日常生活のほんの一コマエピソードを載せることで、保護者にも伝えることができた。 ○　「早寝早起き朝ごはん」の習慣はもちろんのこと、登園時間（8：30～8：45）もほぼ安定し、生活習慣には意識してもらえた。日頃の習慣と意識により感染症も流行しなかった。 ○　年齢なりの発達過程を基盤とし、協同性や社会性の育みを大切にした保育をしたことで、友達のよさや頑張りを認めたり、一緒に活動することの喜びにつなげたりすることができた。

子育て支援	・園開放により、就園前の親子の保育参加を行い、子育ての安定を図る。 ・園だより、クラスだより、懇談会等で保護者に幼児の様子を知らせ家庭と連携し、共に育てる。	・月１回「なかよしスクール」を開催する。園児と交流をもったり、楽しく遊べる雰囲気や環境を設定したりする。 ・子育て講演会を開催し、子育てに関することを考える場とする。 ・保護者の話や相談に丁寧に耳を傾け、一緒に問題解決に向けて進めていく。	○　ボランティアや講師にお世話になり、子育てに関する話を聞いたり、気軽に話したりする機会がもてた。 △　要支援児についての保護者連携が充実せず、課題が残った。
小中一貫教育の推進 (保幼小連携)	・『網野学園』の教育目標を踏まえ、学園の基本方針に基づき取組を進める。 ・幼小の円滑な接続の為、幼児と児童の交流の機会や、教師同士の合同の研修の場を設け、相互理解を深める。 ・アプローチプログラムを取り入れ、計画し、実践していく。	・小中一貫教育に関する諸会議や公開授業等に出席参加し、内容を全職員で確認する。 ・保幼連絡会や幼小連絡会を設け、参観・懇談をする中で早い段階で課題などを見つけ就園や就学に向けてスムーズな接続につなげる。 ・運動会やマラソン大会、学習発表会などの学校行事を見学させて貰うことにより、幼児の就学に対する意欲や憧れをもたせる。また日頃から保幼、幼小の交流がもてるよう内容を検討していく。	○　「網野学園」での連携・学習会・会議等の頻度は多くなり、意識向上につながった。また、園内では特にアプローチプログラムに関する理解と実践について話し合う場をもつことができた。 △　保護者にも機会あるごとに小中一貫教育に関する話をしてきたが、そのような場に参加しにくい方にとっては、理解してもらえていなかったようである。
研修(職員の資質向上)	・全職員の資質向上と人材育成をめざし、園内研修の充実を図る。 ・職員全体で全園児を捉え、共通理解の下で課題を明確にし、対応する。	・月一回、エピソードを持ち寄り実践交流をしたり、重点目標に向かっていくための道筋やポイントなどを学び合ったりする。 ・ワークショップやマンダラ（KJ 法）を取り入れるなど、全職員が参加しやすい研修の仕方を工夫する。 ・京丹後市の指導の重点や京都府の学校教育の重点、京都府教育振興プランなど身近な冊子やリーフレットを活用し、幼稚園教育の基本や方向性などを共通理解する。	△　エピソード研修の回数は学期に１回程度と少なくなった。日々の実践や教材研究、会議や行事への準備などに時間を費やしていたように思う。 ○　身近なリーフレットや指導の重点などを参考に、全職員で幼稚園教育に関する研修を行った。ワークショップでは多様な意見の交流ができた。
次年度に向けた改善の方向性	・小規模園のメリットとデメリットを分析し、PTA も含め幼稚園の特色を生かした活動や取組を見直していく。 ・「網野学園」のアプローチプログラムと、網野幼稚園の教育計画との整合性を全職員で共通理解する場を設け、実践につなげられるようにする。 ・日々の労務の整理と園内研修の充実を目指したい。		

（別紙様式２）

平成28年度　学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔　京丹後市立丹後幼稚園　〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
一人一人が生き生きと活動し、 「楽しんで広がれ！つながれ！みんなえがお！」 をテーマに、人とのかかわりや様々な体験を通して心豊かでたくましく、やさしさがあふれ、「生きる力」をもつ幼児を育成する。	・継続的な異年齢交流の取組により、生活のいろいろな場面でいたわりや優しさ、思いやりの心が育ってきた。 ・色々な活動を進めたり相談し合う中で、自分の思いを表現したり、待つ・聞く・挑戦しようとしたりする姿が増えた。 ・人の話を聞く、思いを話す等繰り返しの指導により聞いたり話したりする姿が多くなった。 ・読み聞かせを通して絵本好きの幼児が増え、言葉力の向上につながった。 ・農業従事者の方との農園活動は、感動を伴う体験が多く、心身ともに豊かになった。食育活動の推進にもつながった。 ・挨拶運動、特に“ハイタッチ”の取組により成果があった。しかし進んで挨拶をする雰囲気や環境づくりは引き続き必要で月１回は保護者に協力を求めていく。 ・様々な体験を通して開放感や満足感を獲得させながら自信や意欲を育てる体験や環境の工夫を大切に取り組んだが、幼児が自主的に取り組む姿は少なかった。	合言葉「きらきら笑顔とやさしいはーと 広がろう！つながろう！たんごのわ！！」 ・様々な活動を通して人と人のつながり、いたわりややさしさ、思いやりの心を育み、心豊かな人間性、社会性をもった幼児を育成する。 ・聞く力や話す力が身に付くよう、計画的に取り組み、自分の思いを言葉で表現するなど言葉力の向上を図る。 ・保護者や地域との連携、また、保幼小中連携を深め、様々な体験や活動を積極的に取り入れ、たくましく健やかな体と心をもった幼児の育成に努める。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程	・多くの体験を通して心身ともにたくましく、創造的、意欲的に遊ぶ幼児を育成する。 ・遊びを通していたわりや優しさ、思いやりの心を育む。 ・言葉力の向上 人の話を聞く、自分の思いを伝えることができる力を養う。 自分から進んで挨拶や返事ができるような環境をつくる。	・体を使った遊び（体操・リズム運動・散歩・なわとび・竹馬・固定遊具等）を積極的に取り入れる。 ・小動物の飼育、栽培物の世話を一緒に行う。 ・異年齢活動（チーム活動、クッキング、運動会に向けての活動等）を通して年少児へのいたわりの気持ちをもったり、年長児に対して憧れの気持ちをもったりできる環境設定を考える。 ・絵本や物語などに親しむことで、言語力を豊かにする。 ・教師が幼児の話にしっかりと耳を傾ける。	○体操は全学年、年間通して続けられよかった。また、雨天時は室内においてリズム運動を取り入れたり、様々な遊具にも積極的に挑戦したりして、体力づくりはできた。 ○同年齢で、また、異年齢での様々な活動を通して思いやりや憧れの気持ちをもち、運動会から“やさしいハート”を合言葉に更に優しさやいたわりを意識するようになった。 △言語力を意識しながら挨拶運動等を進めてきたが、話を聞く、自分の思いを伝えることに課題が残る。

子育て支援	・保護者や未就園児の保護者のコミュニケーションの場をつくり、子育ての安定を図る。 ・支援を要する幼児に対しての支援策を園全体で考える。	・ママのおしゃべり会など子育てについての悩みなどを出し合える場をつくる。 ・子育て支援センターや園開放、園庭開放により未就園児との交流をもつ。 ・子育て講演会への参加をよびかける。 ・預かり保育、一時預かり保育制度の活用 ・支援を要する幼児に対して保健師さんや他機関とも連携をとり園全体で支援していく。	△毎月１回ママの読み聞かせ会をし、同時におしゃべり会も開催したが、行事の検討等に時間を取られ、子育ての悩みなどを話す機会がもてなかった。 △園開放は利用者がなかった。また、園庭開放については利用があったが、ほとんどが降園後の幼稚園児の遊びの場となっていた。 ○要支援児についての検討をし、他機関の先生や保健師さんのアドバイスをいただき、その都度、支援の仕方を考えることができた。
小中一貫教育への推進 (保幼小連携)	・『丹後学園』の教育目標を踏まえ、学園の基本方針に基づき、取組を進める。 ・保幼小中の連携を密にし、スムーズな接続を図る。	・『丹後学園』小中一貫教育に関する諸会議や公開授業等に出席参加し内容を全職員で確認する。 ・保幼小連絡会を設け、参観・懇談をする中で早い段階で課題などを見つけ就学に向けてスムーズな接続につなげる。 ・学校行事の見学や体験入学等により、子ども達の就学に対する意欲や憧れをもたせる。 又日頃から幼小の交流がもてるよう内容を検討していく。 ・近隣にある丹後中学校との合同避難訓練等の連携も引き続き行う。	○丹後学園の研修等には全職員が積極的に参加できるように配慮した。 △保幼小連絡会により参観・懇談は行ったが、もっと日頃から教師同士の交流連携が取れることが望ましい。 ○給食体験により一年生の量や時間等を体験し、弁当のご飯量を増やすなど就学までの意識につながった。 ○丹後中学校との合同避難訓練は近隣の良さを生かし、事前・事後交流もできよかった。引き続き行う方向がよい。
家庭・地域との連携	・栽培を通して地域の方々から様々なことを学ぶ。 ・園の様子や活動などを地域の方々に知ってもらう。 ・園だよりやクラスだより、また家庭訪問や懇談会などにより、家庭と連携し、家庭の教育力の向上を図る。	・農業従事者の方々に栽培についての話をしていただき親子で一緒に栽培について考える機会を設けたり、自分達で育てていく楽しみを味わったりできる体験をさせてもらいながら一緒に進めていく。 ・園内外で保護者の方や地域の方に挨拶をする『挨拶運動』などの取組も進めていく。 ・保護者の話や相談に丁寧に耳を傾け、一緒に問題解決に向けて進めていく。	○△今年度も農業従事者の方々に栽培活動の支援をしていただいたり、保育のお手伝いをしていただいたりしてたくさんのことを学んだ。今後は保護者も一緒に関われるように考えていってもよい。 ○丹後学園の“にこちゃんハッピーデー”も取り入れた。また園独自の５歳児による挨拶運動も定着してきた。 ○丹後学園保幼小連携の接続を意識した「かがや木」の手紙を全保護者に配布し、幼児期に育てたい力、家庭における子育ての大切さを啓発していった。
次年度に向けた改善の方向性	・幼児期に育てたい力として、基本的生活習慣、人の話を聞く、自分の思いを言葉で伝える、人を思いやる心、やさしさ、元気な体は、遊びの中から日常的にまた意識的に育んでいきたい。その為には、生き生きと生活でき、心わくわくする環境構成を常に考えていかなければならないと考える。 ・挨拶運動は丹後学園の“にこちゃんハッピーデー”とあわせて引き続き取り組んでいきたいと思う。しかし、挨拶もマンネリ化せず且つ受動的にならず、自主的に声が出せるよう配慮していかなければならないと考える。 ・「言語力」を意識し、保育全般に子どもの自主性を引き出す工夫をしていかなければならない。		

（別紙様式２）

平成28年度　学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔　京丹後市立弥栄幼稚園　〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
「自然に親しみ　丈夫な体と　豊かな心を持った　明るい子どもの育成」 ○健康で生き生きと活動する子どもの育成 ○友達と関わり合って遊びを創り出す子どもの育成 ○人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えが言える子どもの育成 ○素直で思いやりのある子どもの育成	○主体的な活動・体験活動の充実により、生きる力の基礎基本の育成、心の教育の充実を図ることができた。 ○新生「弥栄こども園」の教育活動への理解を広げ、子育て支援の充実や家庭の教育力の向上を目指して、教育活動・丁寧な発信の充実を図ることができた。 ○弥栄中学校区小中一貫教育の実施に向けて、弥栄小学校との「「もうすぐ一年生」体験入学推進事業」を通して、幼小連携教育活動の充実を図ることができた。 △バス通等により、保護者と直接会話をする機会が減った事に対して、より効果的な情報連携の工夫を図る。	○生き生きと遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協同する力を育成するための日常の教育活動・異年齢活動の充実を図る。 ○計画的に事例研修・公開保育等園内研修を充実させ、指導力・教育活動の向上を図る。 ○園開設２年目に当たり、家庭・地域との連携の仕組みを改善し、教育活動、子育て支援の充実を図る。 ○弥栄中学校区小中一貫教育の実施に当たり、保幼小の効果的接続の在り方について、園教育活動の充実、隣接弥栄小学校との連携教育活動・共同研究の充実を図る。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程	○明るく伸び伸びとした行動力、健康・安全な生活に必要な習慣や態度を育成する。 ○園生活での身近な人と親しみ、関わりを深め、豊かな人間関係を結ぶ力を育成する。 ○身近な環境や自然に自ら関わり、発見や考えたことを生活に取り入れる力を育成する。 ○自ら思いや考えを伝えたり、人の話を聞いたりする、豊かなコミュニケーション力を育成する。 ○五感を磨き、豊かな感性や表現力を育成する。	○主体的な活動、体験活動を充実させる。 ・主体的に活動する中で、生活に必要な習慣や規律を自ら取り入れる力を育むための健康・安全・生活指導の充実を図る。 ・楽しみながら体力づくり、友達づくりを行う力を育むために、体を目一杯使う運動・遊びの充実を図る。 ・園内外の自然・自然物へ主体的に働きかけ、発見や感動を体験させるための体験活動の充実を図る。 ・豊かな人間関係を結ぶ力を身に付けさせるために、異年齢活動の充実、地域連携教育活動の充実を図る。 ○生きる力の基礎基本の徹底を図る。 ・衛生指導、食育指導、園内事故防止指導、交通安全指導等、自分の命を守る指導・教育活動の充実を図る。 ・豊かなコミュニケーション力を育むため、読み聞かせ・絵本等言葉の表現を楽しむ場面、保育士の指示・教えを聞く場面、友達の思いや考えを聞く場面、自分の思いを伝える場面、話し合い活動等、全ての園生活を通して言葉を介した教育活動の充実を図る。 ○心の教育を充実させる。 ・当番活動、飼育栽培活動、異年齢活動等を通して、思いやる心や自尊感情を育むための体験活動、指導の充実を図る。 ・人権意識、豊かな感性を育むため、園生活の中で触れる悲しみ、喜び、温かさ等、人の心を豊かに感じる場面を共有する機会を大切にする指導の充実を図る。	○主体的な活動、体験活動を充実させることができた。 ○日常的・主体的に、生活習慣・規律を身に付けさせるための健康・安全・生活指導の充実を図ることができた。 ○子ども達が作り出すどろんこ遊び、自然物を使った制作・色水遊び、サーキット等を取り組み、楽しみながら体力や友達を作る力を育むことができた。 ○計画的に園外活動に取り組み、自ら自然に働きかけ、発見や感動を体験させる活動の充実を図ることができた。 ○異年齢活動や小学生・高校生との交流、地域連携活動を充実させ、豊かな人間関係を結ぶ力を育むことができた。 △さらに、様々な異年齢活動・体験活動の充実を図る。 ○生きる力の基礎基本の徹底を図ることができた。 ○きめ細かな日常指導や行事(クッキング、交通安全啓発事業)により衛生・園内事故防止・食育・交通安全・自分の命を守る指導・教育活動の充実を図ることができた。 ○園生活の全ての聞く場面・思いを伝える場面や創作劇の取組を通して、言葉を介した教育活動を充実させ、表現力の育成を図ることができた。 △さらに、絵本活用、話し合い活動の充実を図る。 ○心の教育を充実させることができた。 ○当番・生き物飼育・野菜栽培・異年齢活動等を充実させ、思いやりの心や自尊感情を育むことに努めた。 ○園生活の中で喜び、悲しみ、温かさ等、人の心を感じる場面を共有する機会や地区サロン訪問などを通して、豊かな感性や人権意識の醸成に努めた。 △さらに、豊かに関わりあう活動の充実を図る。

子育て支援	○発達年齢に応じた家庭教育目標について、計画的に発信し、家庭の教育力を向上させる。 ○保護者の子育て不安や悩みに寄り添い、安心して子育てができるように、子育て支援を充実させる。	○各家庭へ「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」に関わる家庭教育指標を、園・担任より「たより」「子育て相談」「懇談会」「保護者会（ＰＴＡ）」等を通して発信し、年齢相応の生きる力の育成を図るための子育て支援を充実させ、家庭の教育力の向上を図る。 ○日常的な子育て相談の場、園行事による親子体験活動や保護者同士の交流・研修の場を工夫し、子育て支援を充実させる。 ○保護者と毎日直接会話をする機会が減った事に対し、より効果的な子育て支援のための情報連携の工夫を図る。	○年間を通して、家庭教育指標について「園・クラスたより」「園ＨＰ」「子育て相談」「個人懇談」「保護者会（ＰＴＡ）」等により、子育て支援の充実や家庭の教育力の向上を目指して、発信・取組を充実させることができた。 ○園庭開放、日常的な子育て相談、園行事による親子体験活動や保護者同士の交流の場を工夫し、子育て支援の充実を図ることができた。 △バス通所、多様な降園時刻対応のための降園方法により、保護者と毎日直接会話をする機会が減ったことに対して、各種たより、電話による家庭連絡など工夫を行ってきたが、さらに懇談会、参観等、効果的な子育て支援の工夫を図る。
小中一貫教育の推進（保幼小接続）	○弥栄中学校区小中一貫教育の実施に当たり、保幼小中の連携教育活動を充実させる。 ○弥栄小学校との「もうすぐ１年生」体験入学推進事業の取組を充実させる。	○弥栄中学校区小中一貫教育の取り組みを通して、１０年間の一貫した教育を実現するための基盤となる力の育成を図る。 ○年間を通して計画的に幼小連携教育活動を充実させ、小１プロブレムの解消を図る。 ○教職員の合同研修会・研究協議を通して、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を具現化するためのアプローチプログラム、指導方法について研究する。	○弥栄中学校区小中一貫教育の取組を通して、経営会議で明らかになった、10 年間の一貫した教育を実現するための基盤となる「聞く力」「折り合いを付ける力」を育成するための園教育の充実に努めた。 ○弥栄小学校との「「もうすぐ一年生」体験入学推進事業」を通して、年間を通して計画的に幼小連携教育活動を充実させ、小１プロブレムの解消に努めた。 ○隣接施設の強みを生かし、弥栄小学校と日常的に交流を深める、保幼小連携の基盤づくりを充実させることができた。 △さらに、教職員の合同研修会・研究協議を通して、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を具現化するためのアプローチプログラムの開発、指導方法研究を充実させる。
家庭地域との連携	○園開設２年目に当たり、園・家庭・地域との連携を充実させる。 ○地域の環境・人材を活用し、子ども達の豊かな体験活動を充実させる。	○開設２年目に当たり、３保育所の保護者会から引き継いだ弥栄こども園の特色ある保護者会活動を充実させ、さらに園と家庭・保護者同士の連携を密にし、子ども達への教育効果、家庭の教育力を高めていくための組織運営・活動を充実させる。 ○弥栄こども園ならではの園周辺環境・施設を活用した園外教育活動の充実、地域ボランティアの活用による園内教育活動の充実を図る。 ○園だより、各クラスだより等、園からの丁寧な発信により、「弥栄こども園」の教育活動への理解を広げ、家庭・地域との連携の充実を図る。	○弥栄こども園と家庭、保護者同士を融合させ、連携を密にし、子どもたちへの教育効果、家庭の教育力を高めていくための保護者会組織運営・活動の充実を図ることができた。 ○弥栄こども園ならではの周辺環境（野間川・田んぼ・農道等）・施設（社会体育館周辺・弥栄小運動場等）を活用した園外教育活動・地域連携活動の充実、地域ボランティアの活用による園内教育活動の充実を図ることができた。 ○園からの丁寧な発信により、「弥栄こども園」の教育活動への理解を広げ、家庭・地域との連携の充実に努めた。 △保護者と毎日直接会話をする機会が減ったことに対して、さらに、各種たより、ＨＰ、電話による家庭連絡、懇談会、参観等、家庭との効果的な連携の工夫を図る。
次年度に向けた改善の方向性	○生き生きと遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協同する力を育成するための日常の教育活動・異年齢活動の充実を図る。 ○計画的に事例研修・公開保育等園内研修を充実させ、指導力・教育活動の向上を図る。 ○園開設３年目に当たり、さらに家庭・地域との連携の仕組みを改善し、教育活動、子育て支援の充実を図る。 ○保幼小の効果的接続の在り方について、今年度の研究成果を引き継ぎ、アプローチプログラム開発、幼小連携教育活動・共同研修の充実を図る。 ○全ての園生活をとおして、弥栄学園で進める基盤となる「聞く力」「折り合いを付ける力」の育成を図る。		

（別紙様式２）

平成28年度　学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔　京丹後市立かぶと山幼稚園　〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
幼稚園教育目標 「元気な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」 ≪元気　勇気　笑顔　つながれ仲間≫ ～一人ひとりが輝いてみんなとつながる喜びを感じよう～ 1　幼児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。 2　人とのかかわりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 3　相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現できる力を育てる。	○園庭の環境を整え遊び込むことができた。戸外活動を多く取り入れることにより、体幹・足腰がしっかりしてきた。 ○幼稚園ができ、高校生・老人クラブ・各ボランティア・指導主事等多くの人とかかわり、たくさん体験ができた。 ○保育者が幼児の気持ちを汲み取り、気長に待つことで、思いを自分の言葉で表現できる幼児が増えてきた。 △挨拶が自然にできる雰囲気作りや方法を工夫していく。 △配慮を要する幼児について、定期的に保護者と懇談し、園と家庭との連携を深めて一緒に子育てをしていく。 △職員一同が同じ目標・目的に向かい、同じ意識を持って教育・保育にあたることのできる集団作りをしていく。	○様々な体験や遊びの場を意図的・計画的に取り入れ、主体的で協同的な活動ができるよう環境構成に努める。 ○自分の思いや考えを言葉で表現できる力を育む。 ○協同的な遊びや生活を通してルールや他人を大切にする心を育てる。また、家庭や地域と連携して規範意識や道徳性・社会性の芽生えを育む。 ○保幼小中連携を深める。 ○特別な配慮を必要とする幼児に対し、適切な支援が受けられるよう支援体制と支援システムを整え、保護者や関係機関、小学校との連携に努める。 ○子育て支援に努めると共に、家庭教育力向上を図る。

評価項目	重　点　目　標	具　体　的　方　策	成果と課題（自己評価）
教育課程	○主体的・協同的に活動する力を育てる。 ○自己肯定感を育む。 ○自分の思いや考えを表現し、人とかかわる力を養う。 ○自らの健康やリズムある生活に関心を持ち、基本的生活習慣や態度を身につける。 ○人権尊重・規範意識や道徳性・社会性の芽生えを培う。	（1）様々な体験や様々な人との出会いの機会や場を設定する。 ○丹後の自然の中で、五感を通して遊ぶ。 ・砂、泥、土、粘土、水　・草木、花、野菜等自然物 ・虫、魚、飼育物等　生き物 ・山、森、海、果樹畑、田んぼ、神社、久美浜高校農場、牧場、かぶと山公園、展望台等 ○幼児が遊びや生活の中で主体となるような環境構成を工夫する。 ○異年齢交流をする。 （2）感動体験の機会を設定したり、言葉で思いを発表する機会を設定したりする。 （3）挨拶を奨励する。 （4）絵本や物語に親しむ機会を設定する。	○園外保育を通して久美浜の恵まれた自然にかかわり、心も体もたくましくなった。また社会性、規範意識も育ってきた。 ○５歳児が果樹畑コースをマラソンコースとして活用し、体力を増進した。就学に向けて自己肯定感を育む活動にもなった。 ○泥んこ遊びや水遊びを通して、開放感溢れる活動を大事にし、思いを言葉で表現する力もついてきた。 ○生活や遊びの中で自然に異年齢で交流したり、やさしい言葉をかけたりする姿が多く見られるようになった。 ○特性を持った幼児に対して、幼児理解と援助方法を探った。幼児と保護者の気持ちに寄り添うことが信頼関係に繋がった。 ○春から全年齢で親子読み聞かせに取り組んだ。「親子読み聞かせカード」の取組協力もしてもらい、親子のスキンシップに繋がった。 △「目と目を合わせて」話したり、自分から進んで挨拶したりできるよう、保護者と連携しながら取り組んでいきたい。

子育て支援	○家庭での子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。 ○家庭の教育力向上を図る。	（1）子育て相談（随時・毎月） （2）園開放 （3）預かり保育、一時預かり保育の活用 （4）支援センターの利用 （5）子育て講演会 （6）懇談会	○「こども園でおしゃべり会＆子育て相談」を設定し、園の保育の近況を話したり家庭での近況や悩み等を気軽に話したりすることができた。 ○「親子ふれあいデー（園庭開放）」を月１回設定し、親子で体を動かして触れ合える場を設けた。鬼ごっこ等で一緒に遊ぶ親子の姿が見られて良かった。 ○特性を持った幼児の保護者の気持ちに寄り添ったり、発達促進のための連携を取ったりすることができた。
小中一貫教育の推進（保幼小接続）	○小中学校との連携を密にし、小学校へのスムーズな接続を図る。 ○共通の「目指す子ども像」「教育目標」に向けて教育内容の相互理解を深め、一貫性のある指導を行う。	（1）久美浜学園を通して子どもの実態を交流し、共通の「目指す子ども像」や「教育目標」に向けて一貫性のある指導をしていく。 （2）園児と小学生・中学生の交流を行う。 （3）小学校との連携 ・運動会見学・体験入学・授業体験・クラブ発表見学等	○久美浜学園では、子どもの実態を交流したり学んだりする機会が多くあり、将来を展望しながら保育や教育を行うことを意識することができた。 ○５歳児が小学校を身近に感じるような活動を多く取り入れ、就学に際しての段差が滑らかになるように工夫した。特に小学校での「チャレンジプール」は、自信をつける良い活動だった。 ○職場体験やブラスバンド部演奏会を通して、中学生と触れ合う機会があった。中学生のやさしさに触れることができた。 ○年長児交流会でかぶと山登山をしたことは良い体験だった。
研修	○園内研修の充実を図る。 ○保育者の資質向上に努める。	（1） 研修計画により園内研修の充実を図る。 （2） 幼児の「遊びの仕掛け人」となるべく園内外の環境の充実に努める。 （3）保育者一人一人が資質向上の意識を持ち、学び合う機会や時間の工夫に努める。	○６月には、京丹後市保育所幼稚園５歳児担任会の公開保育研修会、丹後公立幼稚園・こども園教育研究会の公開保育研修会が当たり、月の前半と後半に公開保育を行った。一年の初めに職員全員で研修する機会を持つことができて良かった。 ○幼児一人一人の実態を知るとともに援助の仕方や保護者との連携の仕方を勉強し合い、職員の連携を深めた。 △全職員が幼児に対して最適な援助や環境構成の仕方を考えていけるよう、資質の向上に向けて取組が必要である。
次年度に向けた改善の方向性	・保護者の就労状況を考慮しながらも、将来を見据えて「今、幼児期に大切な親子関係」や「生活習慣の基礎作り」について取組を探っていきたい。 ・幼児一人一人の理解や保護者理解に努め、親身になって相談に応じたり保護者同士が繋がれる機会を作ったりしていくと共に、幼児が安心して自己発揮していけるような保護者との連携に努める。 ・「久美浜学園」の中で保小中と連携し、常に保育・教育の質の向上と実践に努める。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立峰山小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1　就学前から中学校卒業までの10年間を見通した一貫性のある教育を推進する。 2　授業力の向上に全力を尽くす。 3　子どもたちが笑顔で楽しい学校生活が過ごせるよう全力を尽くす。 4　地域に貢献し地域とともにある学校づくりに全力を尽くす。	○教職員の時間と労力を授業づくりに集中させ、学力の充実・向上と豊かな人間性をはぐくむ教育活動の工夫・改善を進めることができた。 ○エジソン学級設置を契機に特別な支援を必要とする児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導を充実させることができた。 △互いを尊重し、望ましい人間関係をはぐくむ学級経営を充実させる必要がある。	1　ことばの力を高める授業を工夫し、「授業が楽しい」と感じる子を限りなく増やす。 2　児童が安心して学べる学級経営を充実させ、「学校が楽しい」と感じる子を限りなく増やす。 3　教育的ニーズに応じた特別支援教育を進める。 4　地域社会の一員として地域に貢献しようとする子を限りなく増やす。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	○学習意欲を高め、思考力、判断力、表現力をはぐくむ魅力ある学習指導を行い、学習内容を確実に定着させる。	○保護者の協力も得ながら「授業づくり・家庭学習習慣強化月間」を各学期に約３～４週間、年間約３カ月間設定し集中的に取り組む。 ○教材研究に十分な時間をかけ、指導目標と学習のめあて、評価計画を事前に準備する。 ○基礎的・基本的な学力を定着させるため、チャレンジタイム、放課後補習の指導体制を整える。 ○学習に関する児童アンケートをもとに検証し、指導方法の改善・開発を進める。	○児童アンケートでは、先生はわかるまで、できるまで教えてくれる（99%）、授業はわかりやすい（98%）と肯定的回答の割合が極めて高い。 ○児童アンケートの学習に関する質問８項目すべてにおいて、肯定的回答が３年連続で上昇し最高値となっている。「意見を発表する」「わからないところは先生に聞く」等、学習への積極性を問う項目では上昇傾向が顕著である。 △勉強の時間が来るのが楽しい（76%）と感じる、知的好奇心と学習意欲の高い児童の割合を増やす。
生徒指導	○自ら考え判断して生活上の諸問題を解決する力を培うとともに、人を思いやり礼儀を重んじる心をはぐくむ。	○自らの意志で主体的に問題を解決する態度を育てるため、共感的に理解したり自己決定をしたりする場を増やした指導を行う。 ○相手の立場に立つなど立場を変えてものごとを考える力をはぐくむため、学習活動において、視点を変えて考える学習活動の時間を増やす。 ○学校不適応や不登校を起こさせないため、早期発見、早期対応と情報共有に努める。	○児童アンケートでは、学校は楽しい（98%）と肯定的回答が３年連続で上昇し最高値となっている。 ○児童アンケートでは、担任のほかにも気軽に相談できる先生がいる（92%）と肯定的な回答の割合が高い。 △問題の早期発見・早期対応、児童にとって安心感のある場所の提供にとどまらず、学校不適応の未然防止に力点を移した主体的で協同の学習活動のある授業づくりをさらに進める。

健康（体育）・安全	○楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら、体力・運動能力の向上を図るとともに、早寝早起きなど基本的な生活習慣を確立する。	○取組期間を設けて、朝マラソン、鉄棒、縄跳びなど、朝の体力づくりに取り組む。 ○家庭との連携を図りながら、特に早寝早起きができるようにするための点検活動を行い、生活を改善する取組を強める。 ○新型感染症等リスクが相対的に高まっていることから、予防対策の基本である手洗いを生活習慣として定着させる。	○体力づくりの学級での取組目標を設定することにより目標を持って体力づくりに取り組む児童が増えた。 ○新型感染症等の予防の観点から手洗いを習慣化したことによりインフルエンザ罹患率は３％未満にとどめることができた。 △早寝早起きにはなお課題あり家庭と連携した生活習慣を確立する取組を充実する。
小中一貫教育の推進	○保・幼、小、中学校の一層の連携を進め小学校への入学や中学校への進学の不安を限りなく減らす。 ○授業における生徒指導を充実させ、学びの場をとおして子どもを育てる。 ○小中一貫教育モデルカリキュラムを検証する。	○京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラム、峰山学園の「自己肯定感を高め『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」を活用し、小中９年間一貫性のある言語活動や学び方の指導を行う。 ○自己決定の場があり、共感的な人間関係をはぐくみ、自己存在感のある授業づくりを行い、その指導方法を学園全体で交流・検証する。 ○特に６年生については中学校の授業や生活を体験する取組を充実させる。	○「わかる・できる」にとどまらず思考力、判断力、表現力など質の高い学力を育成するための教育評価を改善する取組を進めることで小中一貫教育の推進に貢献した。 ○中学校での授業体験、合唱祭への参加、部活動体験等の中学校生活体験活動や交流活動を行うことで、６年生児童の中学校生活への期待が大きく膨らんだ。 △小中一貫教育モデルカリキュラムの趣旨を生かし、引き続き「ことばの力」をはぐくむ指導を充実させる。
特別支援教育	○一人一人の教育的ニーズに応じたすべての子どもを支援する教育を推進する。	○通常の学級に在籍する特別な支援を必要としている児童に対して、過剰な刺激を減らし整然とした学習環境、教室環境を整えるとともに、特性に配慮した指導を進める。 ○特別な支援を必要とする児童一人一人の教育的ニーズに対応するため、保護者との定期的な懇談の場をもち、保護者との合意形成を図りながら支援を進める。 ○得意分野を伸ばす指導を積極的に取り入れる。	○学校行事における集団活動では、すべての児童が参加しやすい行事設計になっており、特別な支援を必要としている児童も含め、充実感、連帯感のある取組ができた。 ○保護者と定期的に懇談し合意形成を図りながらニーズに応じた特別な支援を要する教育を進めることができた。 △指導については、ルールを明確にした一斉指導を基本に、必要に応じて個別配慮、個別対応を工夫する。
研修（資質向上の取組）	○授業研究を充実させ実践的指導力の向上を図る。	○峰山学園の取組とリンクさせ、授業における生徒指導のあり方について実践的に研修する。 ○指導案を準備しない普段の授業から学び合う研修会を増やす。	○峰山学園としての指導方法の工夫・改善を進めるため、学び方を視点にして授業づくりを進めることができた。 △認識の力を高める授業づくりを引き続き推進し、普段の授業から検証する。
次年度に向けた改善の方向性	1　学習意欲の高い児童を育成するため、ことばの力をはぐくみ学習能力を高める指導の工夫・改善に努める。 2　児童にとって安心感のある場所の提供にとどまらず、学校不適応の未然防止に力点を移し、主体的で協同の学習活動のある授業づくりを推進する。 3　教育的ニーズに応じた支援を充実させ、保護者との合意形成に基づく特別支援教育の充実に努める。 4　峰山学園の他校と切磋琢磨し、互いの指導のよいところを取り入れ、小中一貫教育の質を高める。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立いさなご小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
峰山学園の教育目標である「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」を目指して教育活動を展開する。 学校再配置による開校１年目として、見通しを持ち計画的な学校経営に努めることで、それぞれの学級経営を安定させて保護者・地域の信頼を得る。 京都府小学校教育研究会研究協力校として、算数科の授業研究を進めていく。	○　挑戦する心を持ち、粘り強く課題に取り組もうとする意欲を高めることができた。 ○　漢字・計算力を高める取組を継続的に行うことにより、児童の意欲を高めると共に漢字・計算力の向上を図ることができた。 △　引き続き、自分の思いや考え表現する力を高める取組を計画・継続的に進めていく必要がある。 △　家庭学習・読書など保護者との連携を深め、取組をさらに進める必要性がある。	今年度の達成目標の実現に向けた実践を進める。 「進んで学び、心優しく、主体的に行動する子どもたちを、家庭・地域とともに育てる学校」 （１）すべての学びに根気よく向かい、よく考え学び合う学校 （２）人との温かなつながりを大切に、互いのよさを認め合い豊かな心をはぐくむ学校 （３）心身ともに健やかで、粘り強くみがき合う学校 （４）家庭・地域の豊かなつながりを生かし、知恵の輪を広げ合う学校

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	１　ねらいが明確で、児童が「わかる授業」・「できる授業」を計画的に進める。 ２　組織的で個に応じた指導・補習体制を確立させ、基礎学力の定着と発展学習の進展を図る。 ３　知識・技能を用いて活用する力を育成する授業を積極的に進める。	１　府小研の算数科研究協力校として、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れ、ねらいが明確で児童が「わかる授業」・「できる授業」づくりに全職員で取り組む。また、 家庭学習を含む学力充実の実践研究を進める。 ２　授業の振り返りとして適応問題のみならず、発展問題の作成に向けて研究を進める。 ３　放課後の補習・発展学習等により、授業だけでなく、学級での活動全体を通して、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。	○府小研研究協力校として、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れ、ねらいが明確で「目標と指導と評価」を一体とした授業研究を進めることができた。 ○△適用問題、発展問題のみならず家庭学習についても実践研究を進めることができた。家庭学習については課題克服のために引き続き努力する必要がある。 ○△学力補習は３学期より支援ボランティアにきて頂き充実させることができた。しかし、学力に課題のある児童が多い学級もあり、補習や個別指導の充実など今後さらなる取組を進める必要がある。
生徒指導	１　学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 ２　児童の良さを伝え合い、互いに認め合うことで、児童個々の自己肯定感を高める。 ３　異年齢集団による活動を工夫し互いに思いやる心を育てる。	１　教育相談部を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援方策を明確にしながら、担任・保護者と連携した指導を進める。 ２　自己肯定感を高める取組を生徒指導や特別活動の取組の中に位置付け、継続的に進める。 ３　行事や取組では、高学年にはリーダーとしての役割を持たせる。特に６年生には「あこがれの６年生」として積極的に他の学年の児童と関わる場を設定する。	○生徒指導上の配慮を要する児童については、生徒指導部を中心に支援の方向性を明確にしながら、担任・保護者と連携した指導に努め改善を図ることができた。 ○児童会や各クラスでよいところ見付けなどを行い、自己肯定感を高めることができた。 ○児童朝会や行事等で高学年らしい態度や挨拶をすることで、下級生からの信頼を得て学校全体に規律があって楽しい学校風土を醸成することができた。

健康（体育）・安全	1　全校的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、学校を休まない強い体を作る。 2　困難なことにも最後までねばり強く挑戦していこうとする態度を育成する。	1　集中的に朝マラソンや朝縄跳びの取組等を行い、体育の授業と連動することと、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発により、体力（特に持久力）向上と休まず学校に来ようとする意欲を高める。 2　個々のめざす目標を明確にし、個々の発達段階に応じた取組の中で、達成感を持たせねばり強く挑戦する態度を育成する。	○１０分間の朝マラソンや朝縄跳びを体育部が中心になって全校で取り組み、児童の体力面の向上と粘り強く取り組む態度を育成することができた。結果として、京丹後市駅伝競走大会では５位入賞を果たすことができた。 △病欠児童が多く休まずに学校に来る体力面や精神面のたくましさには課題が残った。
小中一貫教育の推進	1　峰山学園の教育目標に迫るため、本校の今年度の達成目標を設定しその実現を図る。 2　１０年間を見通した一貫性・系統性のある指導を進める。 3　峰山学園の取組を積極的に保護者・地域に発信する。	1　峰山学園の教育目標に迫るため、本校の児童の実態をもとに具体的な達成目標を設定し、全教育活動の指針とする。 2　指導法の研究、児童生徒理解等、小中の連携を密にとりながら一貫性・系統性のある指導を進める。 3　ホームページや学校だより、学級通信を活用した積極的な情報発信を行う。	○峰山学園の教育目標達成に向けて、いさなご小学校の目指す学校像を作成し、学力などそれぞれの分野で目標をたて、成果を上げることができた。 ○保護者地域アンケートでは、「積極的な保護者・地域への情報発信及び学校公開」について、当てはまるとの回答が100％をいただくことができた。
研修（資質向上の取組）	1　職員の指導力向上に向けた研修を行い積極的に進める。 2　個に応じた指導の推進と指導法について研修を進める。 3　峰山学園が目指す１０年間の連続した学びと育成を目指した研修を進める。	1　京都府小学校教育研究会の算数科教育研究協力校として、丹後教育局、京丹後市教育委員会の指導助言を受けながら、職員の指導力向上に向けた研修を行う。 2　職員会議や校内研修の校長通信を活用して、個に応じた指導法についての研修を行う。 3　峰山学園の目指す児童像を共有し、その実現に向けた取組のあり方について研修を進める。	○府小研の算数科研究協力校としての１年目を終え、図形領域における授業研究を行い、研究成果をまとめることができた。 ○職員会議や校内研修の校長通信を活用して、学級経営や個に応じた指導法などを共通確認させることができた。
開かれた学校づくり	1　丁寧で分かりやすい双方向の情報発信を行う。 2　ＰＴＡ・地域の関係諸機関等と連携した取組を強化する。 3　地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図る。 4　再配置による開校１年目として、保護者・地域との情報の共有・双方向での発信を行う。	1　学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子を積極的に発信する。 2　ＰＴＡをはじめ関係諸機関等との連絡を密に取り、協力を得る。 3　地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。 4　再配置による開校１年目として、保護者・地域の思いを吸い上げながら情報の共有を図り、よりスムーズに学校経営を進めていく。	○開校１年目で、保護者地域の方々が不安に感じていることを配慮して、ホームページの検索が可能になった２学期より、毎日更新し学校の様子を伝えた。目標の２万アクセスを超えることができた。 ○朝マラソンの学校支援ボランティアや外部講師を有効に活用し、教育活動の活性化と充実を図ることができた。 ○ＰＴＡ、いさなごっ子見守り隊を含め関係諸機関との連携を図り、協力して教育活動を進めることができた。
次年度に向けた改善の方向性	・再配置１年目ということで、吉原・五箇地区大運動会などいろいろな課題を乗り越えてきたが、さらに、研究協力校としての発表も控えており教職員の加重勤務とならにように常に配慮をしながら、最大の効果がでる教育実践を行う必要があると考える。 ・旧吉原小学校の時から児童の病欠が多いので休まない体力づくりなど、粘り強くがんばる児童の育成と、保護者の啓発活動を進めていく必要があると考える。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立新山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
１一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 ２「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 ３保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】	○分かる楽しさ出来る喜びの実感を伴った授業改善に取り組むことが出来た。 ○学校事故件数が更に減少した。 ○教員の課題意識が向上し、協働して教育課題の解消に取り組もうとする意欲が顕著になってきた。 △組織の効率化・機能化の改善を進める。 △「分かる楽しさ出来る喜びの実感を伴った学習の創造」「分かりやすく伝える力の習得」「学び合う集団」の実現に向けた学級づくり・授業づくりを目指す。 △児童自らが正しく主体的に判断し、行動できる力を培う。 △教育課題克服のため、発達段階と指導の系統性を明らかにする。 △家庭・地域との連携を充実させ、家庭の教育力の向上を図る。	１確かな学力の育成 ２コミュニケーション能力の育成 ３評価を見通した取組の充実

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	１　児童の学力実態や学習状況を的確に把握し、指導方法や授業改善し、学習意欲を高める魅力ある学習指導を行う。 ２　自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決する力、豊かな表現力、豊かな人間関係を生み出す力の育成に努める。 ３　豊かな人間関係を背景に将来に渡って、自ら学び続けようとする意欲と態度を醸成する。	１　学力診断テストや学力・学習状況調査等の結果分析に基づき、学習意欲の向上、基礎学力の定着を図るための学習形態の工夫・授業改善に取り組む。 ２　目標と指導と評価の一体化を進めるに当たり、総括テストの実践と授業改善を進める。 ３　算数科の授業研究を核として、自分の考えを伝え・共に考える力の向上を目指し、課題解決を楽しみ、継続して学習しようとする意欲を育成する。 ４　全教育活動で言語活動を充実し、的確に伝えることのできる能力の向上を図る。 ５　授業と家庭学習を関連付け、学力の向上を図る。 ６　家庭訪問・連絡ノート・懇談会・たより等で家庭との連携を図り、生活習慣等の課題の改善に取り組む。	○「学習意欲の向上」を意識して、「学び合い」「ユニバーサルデザイン」「試行錯誤」の３つの切り口から授業改善を試みた結果、「興味を促す課題の設定」「思考を促す授業展開の工夫」「全ての児童が活動し易い学習環境」等の視点が、それぞれ関連し合いながら「分かる・できる」授業が成り立つことを教員が実感として掴むことができ、授業改善が進んだ。 ○「目標と指導と評価の一体化」の具体化をスタートさせることができた。 △授業の構造化を進め、授業の中での学習活動の無駄を省き、時間を有効に活用する授業づくりを進めたい。 △授業と家庭学習を有効に関連付ける指導計画の作成を進めたい。
生徒指導	１　人権尊重、規範意識の醸成という観点に立ち、教育活動全体を通じて、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り、より良い人格の形成を促す。 ２　自らの課題を解決する意欲と実践力を育成する。 ３　「いじめ」「不登校」等の諸問	１　生徒指導の３機能を生かした学級経営に努め、子ども同士を適切に繋ぎ、児童一人一人が有用感を持って活動できる学級を基盤に据え、学習指導はもとより多様な活動に取り組む。 ２　児童が自己決定をしていく場を充実させ、主体的に問題を解決する態度を育てる指導を行う。 ３　学級経営評価にアンケート等のデータに基づく児童の意識の変容の視点を加味する。 ４　学級経営評価と共に、学級経営のアセスメントを作成	○Ｑ－Ｕアンケートを実施し、教員が児童の規範意識や学級集団への帰属意識を把握し、児童個々の課題を児童の意識から捉えることで、教員自らの指導課題を明確にすることが出来た。 △学級を人格を陶冶させる集団と考えた場合、担任個々の学級経営の手段が十分でなく、課題に対して適切に迫り切れていない部分があった。 △保護者と共に問題行動の原因と改善方策を考えられるように、指導にゆとりを持たせたい。

	題は、未然防止に向けて早期発見・早期対応並びに日常的な教育相談活動を行い「心の教育」の充実を図る。	し、学級個々の課題にアプローチする改善方策を提示する等、学級経営の充実を図る。 5　生徒指導部会を充実させ、問題行動事象対応、いじめ・不登校未然防止、規範意識の高揚、日常的課題事象に対するセンター的機能の充実と共に、生徒指導の３機能を生かした指導の在り方に迫る活動を充実させる。 6　生徒指導上個別な支援が必要な児童について、支援内容・方策・体制・家庭との連携内容等について組織的な対応を充実させる。	△「不登校」について、関係機関との連携でＳＣの支援も受けながら対応を進めているが、保護者と共に課題を共有し、短期・中期・長期の目標を整理しながら状況の改善を図っていきたい。 △行為者不明の事象への対応が不十分であった。行為者の特定をはじめ、行為が発生する背景や行為者自身が自らの行為を振り返る指導が必要である。
健康（体育）・安全	1　体を動かす習慣を身に付けさせ、体育・スポーツ活動に親しむ能力や態度を育成し、体育・運動能力の向上・充実を図る。 2　早寝早起きなど基本的な生活習慣を確立し、健康で安全な生活を営むたくましい実践力を育成する。	1　校内事故の防止指導の充実、登下校の安全指導・体制を更に充実させる。 2　体育の授業の中だけでなく、遊び・朝マラソン・朝縄跳び等の体を動かす機会での指導を充実させ、児童の基礎体力の向上を図る。 3　計画的に食育・保健指導に取り組む。 4　生活点検の取り組みで保護者と連携して生活改善に取り組む。 5　体・心・命の教育、薬物乱用防止教育に取り組む。 6　施設点検・管理を徹底し、安全指導に取り組む。 7　多様な状況を想定した実践的な避難訓練に取り組む。 8　登下校の安全を守るため地域・ＰＴＡと連携する。	○薬物乱用防止教室を開催し、児童だけでなく保護者にも学習の機会を持つことが出来た。 ○登下校では、校外指導担当を中心にきめ細かに指導を行うことが出来た。 ○定期的に学校施設の安全点検を全教職員で行い、安全な教育環境の具体化が出来た。 △食育・保健指導の取組が一時的なものとなり、計画的な実践とならなかった。指導計画に沿った取組の充実を進めたい。
小中一貫教育の推進	1　本格実施３年目として「中学卒業時を見通す」の視点で、教育活動に取り組む。 2　小小・小中連携を進める。	1　Ⅰ期の最終学年までに付けるべき学力や社会性等について系統性を明らかにし、Ⅱ期への円滑な移行についての実践を追究する。 2　Ⅱ期のカリキュラムの充実・改善を進める。 3　小小連携を充実させ、「目標と指導と評価の一体化」の実践を進める。	○「目標と指導と評価の一体化」の具体化が進み、一部ではあるが、考える力・説明する力・表す力を測る総括テストの作成が出来た。 △Ⅰ期からⅡ期への学習面・生徒指導面での円滑な移行を進めるために、Ⅰ期での指導課題を明らかにした取組の充実が必要である。
危機管理	1　事件や事故自然災害から児童や教職員を守る取組を進める。 2　学校教育への保護者・地域の信頼を高める実践を推進する。	1　教職員に、「危機管理マニュアル」を徹底し、事故・災害等発生時の行動が的確に行えるよう訓練を行う。 2　問題事象等への対応では、早期発見・早期対応を基本とし管理職への報連相はもとより、保護者に不信や不安を招かないように丁寧な連携に努める。	○予防的な危機管理の意識を持たせることで、事前の準備連絡の励行が進んだ。 △全治 2～3 カ月の校内事故が発生する等、上半期に昨年度よりも校内事故の発生件数が増加した。学校全体での危機管理意識の徹底を図らなければならない。
研修（資質向上の取組）	自らの使命と責任を自覚し、豊かな人間性、広い社会性、高い専門性をめざした研修を行い、実践的指導力の向上を図る。	1　教科指導力、生徒指導力の向上、課題対応力の向上、配慮児童への支援の充実を目指した理論研修・事例研修を充実させる。 2　教師自らが自己課題と向き合い、積極的に課題解消に努め、自らの指導力を高められる組織的・協働的な研修を進める。	○教員自らが、主体的に教育活動に取り組むことを意識させたことで、授業づくり・集団づくりに指導工夫しようとする意識の向上が見られた。 △仕事(任務)として課題と解消の方策を指摘し合える協働意識の向上を目指したい。
次年度に向けた改善の方向性	・今年度手掛けた、教員自らが主体的に指導課題に向き合い解消に向けて研鑽を積み上げようとする経営スタイルを継続させたい。 ・教員個々の教師力の向上を大きなテーマとし、「危機管理意識の向上」「自らの授業力・生徒指導力の向上」「教育課題の共通理解と対応の徹底」を主たる課題と位置付け、小中一貫教育をはじめとした様々な教育の改善方策を通して学校経営の改善を進めたい。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立丹波小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
１一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 ２「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 ３保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】	○研究授業等を通して言語活動の重視や生徒指導の三機能を生かした授業改善が推進できた。また、基礎・基本の定着も図られてきた。 ○組織的な取組により、児童は互いの良さを認め合い、自己肯定感も高まってきた。 ○保護者や地域と連携した取組を進めることができた。 △児童の自主性・主体性を高め、更なる学力向上、基本的な生活習慣の確立をめざす。	１確かな学力の育成 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」授業を推進するため、共通した視点を踏まえ、小学校から中学校までの一貫した実践を進める。目標と指導と評価の一体化を進める。 ２コミュニケーション能力の育成 生徒指導の三機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫した積極的な生徒指導を進める。 ３評価を見通した取組の充実

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	１　児童にとって「わかる」「できる」授業、身に付けた知識・技能を用いて活用する力を育成する授業を進める。 ２　個に応じた指導や家庭学習・読書の習慣化を図り、基礎・基本の力を定着させる。 ３　多様な人と関わる学習活動を設定し、児童の学びを深める。	１　A層・C層への具体的手立てを考え、全員の児童が分かる授業づくりをするとともに、目標と指導と評価の一体化、生徒指導の三機能を生かした授業、言語活動を重視し、主体的・協働的な学習活動について研究を行う。 ２　ドリルタイム・言語タイム・放課後補習・４年ふりスタ等による未定着内容の回復や個に応じた指導により、基礎学力の定着を図る。また読書活動の充実や家庭と連携した家庭学習頑張り週間等の取組を年間通じて行う。 ３　外部人材の活用や他校との交流、校外学習・体験活動等、様々な人と意欲的に学習できる場の設定を行う。	○重点の算数科を中心に学園共通の視点や先進校から学んだ理論を実践・研究に生かし、全学級で授業改善が進んだ。児童アンケートでほぼ全員が「授業がわかる」と答え、ＣＲＴ・学力調査等の結果では国語・算数とも全学年で平均を大きく上回った。 ○ドリルタイムや放課後補習で基礎学力の定着や個に応じた指導を行った。家庭学習習慣化の取組も年６回実施し、自主勉強を継続して取り組む力が付いてきた。 ○多様な外部人材の活用、合同授業等、学習形態の工夫で、「意欲的に取り組んだ」という児童が大幅に増加した。 △応用力やＡ層の児童への指導をより充実させる。
生徒指導	１　達成感を味わう経験や互いの良さを認め合い、伝え合う活動を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高める。 ２　発達段階に応じた「思いやり」の心と態度を育成する指導を進める。	１目標を持たせ、達成させる指導を行う。また授業、学級活動、異年齢集団活動の中で、生徒指導の三機能を意識した指導を行い、自他の良さを認め合い、伝え合う場を設定する。 ２　「思いやり・親切」にかかわることについて、道徳の時間を中心に全教育活動を通して日常的に指導するとともに、人権月間等の取組を活用し、計画的な指導を行う。また、いじめ調査に関わり、必要に応じ具体的な指導を行う。	○月目標の設定と具体化、評価を行い、実践への達成感を持たせた。また様々な異年齢活動や話し合い活動を重視し、互いの良さを認め合う場を設定することで、良好な人間関係や自己肯定感も高まってきた。 ○道徳、人権学習や日々の具体的指導の中で思いやりの心を育み、児童アンケートでは「友達の良さを見つけ、仲良くする」が、昨年よりも良い結果となった。 ○気になる児童は、家庭状況を把握し情報共有しながら組織的な対応や指導で安定した学校生活が送れた。 △自己肯定感のまだ低い児童へ指導を継続して行う。

健康（体育）・安全	1　全校的な体力づくりの取組を充実させ、基本的な生活習慣の確立により、強い体を作る。 2　困難なことにも粘り強く挑戦していこうとする態度を育成する。	1全校での朝の体力作りや体育的行事と体育の授業を連動させ、運動への意欲を高め、体力向上を図る。またＰＴＡと連携した元気貯金の取組で、基本的な生活習慣の確立を目指す。 2　学校、学級での取組において個々の目指す目標を発達段階に応じて明確にする。粘り強く挑戦する態度を継続させるための手立てや指導を体育・道徳の時間や学級活動、学校行事を中心に計画的に行う。	○全校朝マラソンや縄跳びは、行事や体育授業とも関連付けて取り組み、陸上の出前授業等も実施できた。 ○縄跳び大会は全校が意欲的に取り組み、技術も伸びた。 △基本的な生活習慣は家庭の協力で取組中は良い結果となるが、継続しどの児童も定着することが課題である。 △「粘り強く」「挑戦する」ともに全校児童ができていると回答しているが、どんな場でもやり切る態度をさらに身に付ける必要がある。
小中一貫教育の推進	1　保育所・幼稚園・子ども園・中学校との連携した取組により、一貫した教育を強化する。	1　峰山学園教育目標の実現に向けて、保育所・幼稚園・子ども園・中学校との研修、取組のねらいを明確にし、教育課程に位置付け、一貫教育を推進する。	○学園の目標、重点を大事に本校の研究や学力充実期間等の取組を進め、授業力や児童の学力向上にも繋がった。 ○保育所訪問、合同校外学習・中学校体験等、他校・園との取組で、子ども同士の交流や連携が深まった。 △保護者への情報発信と啓発はさらに必要である。
特別支援教育	1　学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。	1　教育支援部会を中心に、支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援の手立てを明確にしながら、組織的に指導を進める。また、年間を通した家庭との連携も重視して進める。	○定例の教育支援部会で、児童の実態把握と対応を組織的に検討し、関係機関とも連携し具体的な指導を進めることで効果が見られた。（巡回相談・臨床心理士・医療等） ○面談や連絡を密にし、保護者の協力を得て指導できた。 △全校の障害者理解教育を更に充実させることが必要。
開かれた学校づくり	1　丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。 2　ＰＴＡ・地域の関係機関等との連携を強化する。	1　学級・学校とも、たよりやＨＰで常時、児童の肯定的な評価、保護者等からの意見の反映等、双方向を意識した誌面作りを行う。また学校公開日を設け、保護者や地域住民の学校参観を促進する。 2　ＰＴＡと連携し、「読書」「早寝」「褒めて育てる家庭教育」の取組を進める。また安全パトロール隊や学習支援ボランティア、ゲストティチャーを活用した授業等、地域一体となった教育活動を進める。	○たよりや通信、ＨＰ等で情報発信に努め、学校公開・参観の感想も知らせることができた。 △ＨＰは緊急時の連絡等も載せ内容を充実する。 ○親子読書、元気貯金や家庭学習、安全の見守り等、ＰＴＡと連携した取組が年間通して実施できた。 ○地域や外部の人材・団体の活用で学習内容が深まり、様々な文化に触れ、体験することができた。 △次年度は保護者・地域の方と更に連携を深め、丹波や自校の良さを感じる教育活動を一層推進したい。
次年度に向けた改善の方向性	（1）丹波小学校最後の１年として、閉校・開校に向けた取組を推進する。 ・どんな集団の中でも自信を持って考え、判断し、表現できる確かな学力と人間関係構築力を身に付けさせる。 ・丹波小学校や丹波地域の良さを知り、誇りや愛着を持つ教育活動や地域・保護者と連携した思い出に残る行事の充実を図る。 ・新山小学校との合同学習等、児童や保護者が安心して開校が迎えられる教育活動を計画的に進める。 （2）特別支援教育の充実や教育相談等、個に応じた丁寧な指導を進める。 （3）協働体制をしっかりと組み、全校体制で児童の指導にあたり、教育目標である自己肯定感の向上を目指す。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立長岡小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して「自己肯定感を持ち自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に努める。 〈目指す子ども像〉 ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども	○課題のある児童はあるが、全体として落ち着いた学習環境の中で教育活動が進められ、大きな生徒指導上のトラブルや不登校に関わる事例もなく、ほとんどの児童は、安定した学校生活を送ることができた。 ○授業研究や各取組に中堅の教員が中心となって関わり、内容の充実とともにそれぞれが教育実践力量を上げることができた。 △コミュニケーション力や表現力の弱さからくる望ましい人間関係づくりへの課題に対する取組の充実 △基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた組織的・計画的取組 △教職員の指導力量の向上	・基礎基本の定着を図り、思考･表現･判断力を充実させる学習活動の推進 ＜確かな学力の育成＞ ・生徒指導の三つの機能を活かした学級経営（居心地のよい学級づくり）の推進による、望ましい人間関係の育成 ・工夫ある研修による、授業力・指導力の向上 ＜コミュニケーション能力の育成＞ ・家庭や地域と協働する学校づくりの推進 ・健やかな心身を育み、たくましく生きる力の育成

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	○確かな学力の育成 (1) 自己肯定感を高め、わかる・できる授業を推進するため共通した指導の視点を踏まえ、小学校から中学校までの一貫した指導を進める。 (2) 目標と指導と評価の一体化を進める。	(1) 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」授業推進 ○ ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝを意識し多様な学習形態を導入した授業 ○ ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞの視点を意識し、主体的な活動の場のある授業 ○ 児童も教師も楽しむ授業の工夫改善と学ぶ意欲の育成 ○ 小小連携、小中連携による９年間を見通した指導の工夫 (2) 目標と指導と評価の一体化 ○ 実態に応じた目標設定と評価まで見通した指導の充実 ○ スキルの工夫・充実、家庭学習の習慣化による基礎学力の定着・向上 ○ 朝読書、読み聞かせ等による読書活動の充実	○外部講師を招きﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ、ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞの視点等の研修を実施することで、校内の授業研究会でそれを意識した授業作りについて研究を深められた。 ○峰山学園の授業研究会で他校との交流を進める中で、９年間を意識した指導について考えられた。 ○学力課題に基づいた達成目標を設定して全校スキルを実施し繰り返し練習させることで、児童に力が付いたと実感させられた。 △放課後補習等に取り組んだが、基礎学力の確実な定着までには至らなかった児童がいる。
生徒指導	(1) 生徒指導の３機能を取り入れた学級経営と授業づくり（安心して自己表現できる居心地のよい学級・学校づくり） (2) 自己肯定感を高める生徒指導の取組	(1) 生徒指導の３機能を取り入れた学級経営と授業づくり ○ 研修の工夫による教師の指導力向上 ○児童と教職員、児童相互の協働的活動を通し、温かい人間関係の構築 (2) 自己肯定感を高める生徒指導の取組 ○ 肯定的評価を大切に、互いに認め合える関係づくりを進め、一人一人をかけがえのない存在として大切にする安心して自己表現ができる学級・学校づくりを進める。 ○ 豊かな体験活動や読書活動を生かした道徳的実践力の育成（教育活動全体を通した道徳的な学習） (3) 不登校未然防止にむけ教育相談体制の充実と取組推進	△授業研究は全員実施したが、生徒指導の３機能を活かすという点では課題が残った。 ○道徳教育の研修や人権学習の授業公開を実施し、児童の道徳的実践力の育成に努めた。 △全体として自己肯定感は高まった。しかし、教職員の更なる学び合いが必要である。 ○児童会を中心に、充実した異年齢活動ができ、児童が生き生きと活動する様子がみられた。 ○関係機関との連携を図り、教育相談活動の充実により、不登校の未然防止につなげられた。

健康（体育）・安全	(1) 健やかな心身をはぐくみ、たくましく生きる力の育成 (2) 危機管理の充実と安心・安全な学校作り、環境の整備	(1) 薬物乱用防止等、体や健康課題への組織的な対応と指導や取組の充実 (2) 教育活動全体を通した食に関する指導の充実 (3) 目標を明確にした継続的な体力づくりの取組の推進 (4) 生命やからだ、健康に関する正しい知識と実践的な態度の育成 (5) 安全点検や避難訓練の実施と安全体制・防犯体制の確立	○心・体・命の学習を全学年計画的に実施し、保護者に公開し理解を得ることができた。 △薬物乱用防止教育は全学年で実施したが、指導計画について来年度見直しが必要である。 ○朝マラソン・縄跳びを実施し体力向上に努めた。児童は意欲的に取り組むことができた。 △通学路、安全・防犯体制の一層の充実が必要である。
小中一貫教育の推進	○峰山学園の一員として、学園経営方針に基づいた教育課題改善 ・確かな学力の育成 ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の育成 ・評価を見通した取組の充実	(1) 学園共通の教育目標及び目指す児童像達成に向けた取組を進める。 (2) 小中一貫教育推進に向けた幼小連携、小小連携、小中連携の取組の意義を全教職員で共通理解し、各取組の推進を図る。 (3) 小一スタートカリキュラム、モデルカリキュラムの自校化に向けた研修や取組を進める。	○全教職員に学園の教育目標や目指す児童像を意識させ、指導を進めることができた。 ○学園で決められた事にしっかり取り組むことで、小中連携、小小連携を推進できた。保幼小の連携についても進められてきた。 △モデルカリキュラムについては研修が不十分で、自校化を図るところまで進められなかった。
特別支援教育	○児童の特性を踏まえて、合理的配慮の観点に基づいた必要な指導・支援の推進	(1) 児童一人一人の的確なアセスメント、個別の指導計画等の作成と活用を推進する。 (2) 個々の子どもの教育的ニーズに応じて校内委員会を組織し充実を図る。 (3) 発達障害等のある子どもを含めてどの子にもわかる授業づくりを進める。〈ユニバーサルデザイン授業〉 (4) コーディネーターを中心に機能する校内体制の構築 (5) 研修会を実施し、特別支援教育についての理解を図る。	○配慮を要する児童のアセスメント票や個別の指導計画を学期ごとに交流し共通理解を図ることで、ぶれのない指導を進める努力ができた。 ○保護者との丁寧な面談・連絡帳交流により、児童の課題を共有し、適切な就学指導に向けて努力した。 ○関係機関との連携を図り、適切な指導・支援を工夫した。 △研修会の工夫により教員の児童理解や児童対応力を更に向上させる必要がある。
特色ある学校づくり	○地域・保護者と連携を図り、教育活動の向上と信頼される学校づくりの推進	(1) 総合的な学習の時間等において、地域人材や学校支援ボランティアを活用し、児童の体験活動を充実させる。 (2) 学級通信、電話連絡、家庭訪問、参観日の設定等、保護者との連携を日常的に進め、児童の状況を共有する。 (3) 学校便りやホームページを活用して情報発信をすることで開かれた学校づくりに努める。 (4) 学校評価、児童・保護者アンケート等で挙げられた課題を全教職員で共有し、学校改善を具体的に進める。	○総合的な学習の時間において地域との連携を進め、充実した体験活動ができた。 ○ホームページのまめな更新等、情報発信に努めた。 ○地域と連携し、安全ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの日の取組ができた。 ○保護者アンケートの結果を受け、28年度教育活動中間報告会やまとめの報告、授業参観の設定等、保護者の声を生かした取組を進めた。 ○学校支援ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱを活用した取組を充実させた。 △学校評価やアンケート等の活用については、時期、内容等、更に工夫が必要である。
次年度に向けた改善の方向性	○学級づくりを基盤とした授業づくりについて研修を深め、教員の指導力向上を図り、児童にとって学びのある居心地の良い学級・学校づくりをする。 ○特別支援教育の視点を大切に、ユニバーサルデザインの良さを取り入れた指導のあり方について研究を深め、児童の基礎学力定着、学力向上に努める。 ○地域・保護者との連携を一層深める中で、安心・安全な学校づくりを進めたり、体験的な学習を充実させたりする。 ○峰山学園の保幼小連携、小小連携、小中連携を充実させることで、児童のスムーズな学校生活を支える。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮第一小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1　意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 2　自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 3　心身を鍛え、活動的な子どもの育成 4　組織的・効率的・機能的な学校経営による信頼される学校づくりの推進	○組織的授業研究のよる授業改善、全校体制による早期回復指導により、基礎学力が向上してきた。 ○学校運営システムの充実推進により、問題行動事象や不登校課題が着実に改善してきた。 △個別な児童課題の改善に向けた、子育て支援の強化を図る。 △全教育活動で「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を育成するための教育活動の充実を図る。 △大宮学園経営の充実を図るため、校内組織推進の強化を図る。	○「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成 ○課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力の育成 ○授業研究の充実、授業改善による基礎学力の向上 ○教科指導力・生徒指導力・対応力の向上 ○突発的事象に対する、組織的支援力・対応力の向上 ○改編・改善大宮学園の組織運営・教育活動の充実 ○懇談、家庭・地域との連携強化による家庭教育支援の充実 ○改善学校運営システムによる、経営機能の強化

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	○自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決する力、豊かな表現力を育成する。 ○児童の学力実態や学習状況を的確に把握し、基礎的・基本的事項の定着を図るべき授業改善を推進する。 ○算数科を重点教科とし、小小連携、小中連携により指導法の改善に取り組む。 ○小中一貫関係モデルカリキュラム、大宮学園３カリキュラムを生かした学習指導を推進する。	・全教育活動で思考力・言語力（書く．読む．表現）の向上を図る。 ・各学力診断テスト結果分析に基づき、学習意欲・基礎学力の向上のための授業改善を図る。 ・算数科を重点研究教科とし、指導法改善を進め、算数科学力課題の改善を図る。 ・組織的指導体制を整え、全校放課後算数補習、朝ドリル、長期休業中補習の充実を図る。 ・形成評価、単元末評価等、計画的な効果測定により、個に応じた即時回復指導、早期回復指導の工夫・徹底を図る。 ・年間指導計画に各カリキュラムを位置づけ、定期的に検証を行いながら学習指導の充実を図る。 ・家庭との連携による「家庭学習のやくそく」の活用や、生活習慣確立の取組を通して家庭学習習慣の定着を図る。	○全教育活動で思考力・言語力の向上を図ることができた。 ○各基礎学力診断テスト結果分析、学期毎の基礎学力達成状況分析を踏まえ、授業改善、全校体制による早期の回復指導に取り組み、基礎学力の定着を図ることができた。 ○指導法の工夫・改善により、個に応じたきめ細かい指導が充実でき、基礎学力の向上を図ることができた。 ○全学年放課後回復指導の充実を図ることができた。 ○年間を通した学習指導部の提起により、家庭と連携して家庭学習習慣、家庭学習の充実を図ることができた。 △算数科重点研究をさらに充実させ、授業改善を図る。 △形成評価を工夫した効果測定に基づく、個に応じた即時回復指導についての工夫、徹底を図る。
生徒指導	○「いじめ」「不登校」等の諸課題に対し、未然防止に向け日常的な生徒指導・教育相談活動を充実させるとともに、「心の教育」を推進する。 ○全教育活動を通して、人権尊重、規範意識・自尊感情の醸成、児童の個性・社会的資質・能力の伸長を図り、自ら課題を解決する意欲と実践力を育成する。	・生徒指導部会、いじめ対策委員会、教育相談部会のセンター機能を強化し、問題行動事象対応、いじめ・不登校未然防止、規範意識の高揚を目指した指導の充実を図る。 ・支援会議により、個別な支援が必要な児童の支援方策を検討し、組織的支援の充実を図る。 ・読書活動を充実させ、豊かな感性や言語力の育成を図る。 ・道徳の時間、全ての教育活動を通して人権教育を推進し、自分や友達を大切にできる児童の育成を図る。 ・思いやる心と豊かな人間関係を育むため、異年齢活動、自然体験・社会体験活動の充実を図る。 ・自らの意志で主体的に問題を解決する態度を育てるため、児童の自己決定場面の充実を図る。 ・学級経営力の向上を目指し、学習集団の育成・人間関係づくり・自治的活動に取り組み、学級経営力の向上を図る。 ・家庭教育支援、心の教育の充実、下校後の問題行動事象解消に向け、家庭支援・地域との連携の強化を図る。	○生徒指導部・教育相談部・支援会議等のセンター機能が発揮され、問題行動事象、不登校、個別支援課題等の児童課題について組織的に改善を図ることができた。 ○道徳、人権学習の充実により、自他を尊重する児童の育成を図ることができた。 ○年間を通した多様な異年齢活動・体験活動を工夫し、豊かな人間関係の育成を図ることができた。 ○全教育活動を通し自己決定場面を工夫・充実させ、「自ら考え、課題を解決していく力」の育成を図ることができた。 ○学級経営評価を基にした実践研修により学級経営力を高め、豊かな人間関係の育成を図ることができた。 △学級・学年・児童会の自治的な活動を充実させる。 △登下校・地域での安全、家庭での基本的生活習慣の確立、心の教育など、家庭・地域との連携の強化を図る。 △日常的に全校体制による読書指導の工夫を行う。

健康（体育）・安全	○教科体育、遊び、体力づくりを通して、楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら、体力・運動能力を向上させる。 ○安心・安全な生活を営むための危機管理力、危機対応力を育成する。 ○健康な心と体に成長するため、たくましく生きる実践力を育成する。	・教科体育の充実、日常的な活発な遊び、継続的な朝マラソン・朝縄跳びの取組を充実させ、基礎体力の向上を図る。 ・年間を通して、計画的に食育・保健指導の充実を図る。 ・安心・安全な学校生活が送れるよう、教職員の日常的な危機管理意識・対応能力の向上、施設点検・安全管理の徹底を図るとともに、実践的な避難訓練の充実を図る。 ・校内事故防止指導、登下校安全指導・体制の充実を図る。 ・生活点検の取組を充実させ、基本的生活習慣の改善を図る。 ・より良く生きるため体・心・命の教育の充実を図る。 ・登下校の安全を守るための地域・ＰＴＡ連携の充実を図る。	○年間を通して教科体育、体力づくり、外遊びを充実させることができ、基礎体力の向上を図ることができた。 ○きめ細かな日々・月ごと・特設の食育・保健指導の成果により、保健意識の高揚を図ることができた。 ○危機管理意識・対応力を高めるための連携・訓練、施設管理を行い、危機管理力の向上を図ることができた ○校内安全指導、保護者・地域連携により校内事故防止、登下校・地域での事故防止の徹底を図ることができた。 △生活点検の取組を活用し、基本的生活習慣の改善を図る。 △校内生活安全に関わる環境整備・施設整備に取り組む。
小中一貫教育の推進	○大宮中学校区小中一貫校教育目標の達成に向けて、大宮学園経営計画に基づく小中一貫校実践を充実させる。	・一貫と接続を充実させるため、改編・改善した大宮学園組織運営・教育活動の充実を図る。 ・大宮学園運営システムの機能化・効率化を図る。 ・「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を高める授業づくり・連携教育活動づくりに向けて研修の充実を図る。 ・汽水域を中心に小小連携・小中連携教育活動の充実を図る。 ・中学校卒業までを見通した教育課程編成の充実を図る。 ・引き継ぎシート活用、各カリキュラム推進、保幼小連携教育活動により保幼小の一貫と接続の充実を図る。	○大宮学園の改編組織による運営・教育活動により、児童生徒連携教育活動、職員合同研修、自己肯定感を高める授業づくり等、小中一貫教育の充実を図ることができた。 ○今年度学園評価により、さらに学力充実・不登校解消に焦点化した次年度に向けての重点目標、重点活動の策定を行うことができた。 △効率的で実効性の高い学園経営システム推進により、組織運営・教育活動の充実を図り学力充実・不登校解消に取り組む。
特別支援教育	○人間尊重の精神を基盤にした「共に生きる心豊かな児童」を育成する。 ○心身の障害特性に基づく、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進する。	・特別支援教育コーディネータの機能を充実させ、職員研修・特別支援教育実践力の向上を図る。 ・定例支援会議による児童実態の把握、指導・支援方法の策定により、全校体制による指導の充実を図る。 ・発達障害理解・指導についての理論的研修を充実させ、その成果を学級経営・学習指導場面で具現化させる。 ・保護者・関係機関との丁寧な連携、個別の指導計画に基づき、個別な配慮が必要な児童への組織的支援の充実を図る。 ・年間を通した丁寧な就学指導を行い、障害の状況に応じた適切・適確な個別指導の充実を図る。 ・障害を正しく理解するため、理解教育の充実を図る。	○発達障害理解・特別支援教育体制の充実に関わる研修を行い、個に応じた支援を充実させることができた。 ○定例支援会議により丁寧な児童実態把握を行い、関係機関、保護者との連携により、共通理解を深めながら個に応じた個別の支援・対応を図ることができた。 ○様々な個別な事情による突発的不適応状況に対し、状況に応じた組織的支援力・対応力を高めることができた。 △さらに、保護者・関係機関との連携を充実させ、個別の指導計画に基づく個に応じた支援の充実に努める。
開かれた学校づくり	○学校・家庭・地域社会の教育環境を整え、子ども達が大切に包み込まれ、育まれていることを実感することができる開かれた学校づくりを推進する。	・迅速、的確、誠実で丁寧な家庭との連携を行い、子育て課題克服に向けた家庭連携・支援の充実を図る。 ・子育て課題を共有し、子ども達に生きる力を育んでいくために、多数の保護者の参加による懇談会の充実を図る。 ・地域の教育素材・人材を学校教育に有効に活用するため、地域・保護者との連携の充実を図る。	○迅速で丁寧な家庭との連携を行い、児童の個々の課題に対する改善に向けた連携を充実させることができた。 ○地域の教育素材・人材を活用した教育活動の充実を図ることができた。 △子育て課題を共有し、子ども達に生きる力を育んでいくための全員参加による学級・学年懇談会の開催を目指す。
次年度に向けた改善の方向性	【組織的推進】 ①経営的会議としての学年主任会、教育課程推進会議としての企画委員会について、機能の強化、推進の効率化を図る。 【教育・研修】 ①大宮学園目標である「ことばの力」「思いやる力」「つながる力」を育むための教育活動の充実を図る。 ②人権意識・規範意識の高揚を図り、自ら考え判断して生活上の諸問題を解決する力を培うための学級経営・学校運営の充実を図る。 ③課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力を育むための教育活動の充実を図る。突発的不適応状況に対する、組織的支援力・対応力を高める。 ④理論的研修・実践的研修の充実を図る。（算数科授業改善、生徒指導力・対応力の向上、新学習指導要領準備） 【連携】 ①大宮学園３会議・３部会と、校内小中一貫教育推進部の接続の強化を図る。 ②学級懇談会、家庭・地域との連携を充実させ、家庭の教育力の向上、学校教育の充実に向けた地域の教育力の活用を図る。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立大宮南小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「自他を尊重し、自ら学ぶ子どもの育成」 上記教育目標を達成するために、教職員が組織の一員として協働意識をもって自己の役割と責任を果たし、再配置校として地域・保護者から信頼され、児童にとって行きたくなる学校づくりを目指す。	○教師の授業力が向上するとともに、児童は落ち着いて学習にのぞむことができ、学力向上が進んだ。 ○人権の取組を継続的に行い、互いの違いや良さや認め合おうという人権意識が高まった。 △不登校傾向の児童もあり、発達障害等様々な個別課題に対応するための一層の手だての追究が必要である。 △小中を接続させるための授業づくり、授業計画の策定は課題である。	大宮学園小中一貫教育を推進し、「目指す子ども像」に迫る。 ＜大宮学園　目指す子ども像＞ (1)意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 (2)自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 (3)心身を鍛え、活動的な子どもの育成

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	(1) 質の高い学習態度と授業規律をもった学習集団の育成 (2) 中学校との接続を意識した連続性のある指導の充実 (3) 家庭との連携による家庭学習の質・量の向上	(1) 安定した学級経営のもと落ち着いて学習にのぞめる学習集団をつくる。（大宮学園人材育成担当との連携） (2) 国語科・算数科を中心に大宮学園研究授業や校内研究授業で小中一貫教育の視点を大切にした研修を進める。 (3) 小小連携加配、小中連携加配、小中一貫教育 SS の活用を図り、小中接続を意識した授業づくりを推進する。 (4) 大宮学園「学習の手引き」を活用し、学園全体としての家庭と連携した家庭学習習慣の強化を推進する。	○安定した学級づくり、学習規律の定着に向け月目標を決め、学校朝会で振り返りの発表を行う等継続した指導で児童の変容が見られた。 ○中学校への接続を意識した国語の授業づくりを行い、表現力（話す・書く）を高めた。 ○習熟度別授業、ティームティーチング等、児童実態に応じたきめ細かな指導で学力が向上した。 ○△家庭学習旬間の取組を展開し、その時期には成果が上がったが、日常的な自主学習に課題が見られた。
生徒指導	(1)人権教育の理念に基づく「自他を大切にする心」を育成するための教育活動の充実 (2)規範意識の高揚 (3)学級経営の充実を基盤として特別活動等を通して豊かな心の育成	(1) 人権教育カリキュラムに基づいた人権学習を進め、互いの違いやよさを認め合える学級づくりを行う。 (2) 児童の状況を的確に把握し、非行防止の取組等を家庭・地域と連携して行うとともに日頃より積極的な生徒指導を展開する。 (3) 児童課題に応じた目標設定を行い、PDCA サイクルで実践を行うことで児童を鍛え、高める異年齢活動、学級活動を通して人間関係の形成と規範意識を高める。	○人権旬間・人権意見発表会と年間を通した学校全体の取組を進め、違いや良さを認め合える学級づくりができた。 ○４年生以上に非行防止教室を実施するとともに、学級懇談会、家庭訪問等、日頃より家庭との連携を大切にした生徒指導を行い、児童は安定している。 ○△学校体制で取り組んで改善に向かっているが、不登校傾向児童、発達障害等、様々な個別課題に対応する教員の指導力・対応力が課題である。

健康（体育）・安全	(1)体力づくりの推進 (2)基本的な生活習慣の定着 (3)学校内外の安全指導の徹底	(1) 楽しく体力の向上が図れる、工夫した体力づくりの取組を行う。 (2) 計画的・重点的な保健指導とともに生活改善の取組を実施する。 (3)PTA、大宮南小子ども見守り隊、防犯ステーションと連携を図り、安全指導を徹底する。	○△マラソン・縄とび等、全校的な取組を行うとともに中学校体育教員と連携し、中学進学を意識した体力づくりが図れたが、柔軟性・巧緻性と課題が見られる。 ○安全ボランティアによる見守り、付き添い登校、PTAによるニコニコカーパトロール等、安心安全の取組を進め、無事故で１年を終えることができた。
小中一貫教育の推進	(1)確かな学力の育成 (2)人権意識の育成 (3)キャリア教育の充実 ～「ことばの力カリキュラム」「人権教育カリキュラム」「キャリア教育カリキュラム」の実践と検証～	(1) 確かな学力の育成 ・小中接続を充実させるための授業づくり～小小・小中連携加配、小中一貫教育 SS の効果的な活用 ・「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を目指した授業づくり ・小１スタート・アプローチプログラム、小４ふりスタ、 (2) 人権意識の育成 ・「自他を大切にする心」を育成するための人権の取組 ・人権学習(予防教育含む)の充実 (3) キャリア教育の充実 ・汽水域を中心とした連携教育活動、幼児児童生徒交流学習の充実 ・学校のきまりの策定と効果的な指導（学習規律・生徒指導・PTA 家庭の約束）・小４夢・未来式	○連携教育活動（合唱祭、地域清掃、部活動体験等）を行うことで、中１ギャップの解消に繋がっている。 ○△大宮学園研修会で学力課題、指導課題を共有し、「小学校で身に付けたい力」を意識しながら指導を積み上げている。定着には課題がある。 ○節目の１年、４年、６年で連携プログラム、小中一貫取組を充実させ、児童の成長が図れた。（１年：スタートカリキュラム、４年：夢未来式、振り返りスタディ・６年：共通課題等） △体験授業や小学校同士の交流等は不十分であり、大きな集団になじむ機会が必要である。
開かれた学校づくり	(1) 学校の情報を積極的に発信し、信頼される学校づくりにつなげる。 (2) 保護者・地域の声を学校改善に活かす。	(1)授業・行事参観、家庭訪問、学級懇談会・地区懇談会を実施する。 (2)学校便り、学級通信、ホームページによる教育活動や情報の積極的発信を行う。 (3)評価アンケートを行い、学校改善に活かす。	○ホームページや学校便りで積極的に情報発信を行った。 ○地域人材や学校支援ボランティア、高校出前授業等、多くの外部人材に学校に入っていただき、教育活動の活性化に繋げることができた。
特別支援教育	(1) 通常学級における特別支援を要する児童に対して適切な支援を進める。 (2) 職員研修を進め、指導力量を高める。	(1)きめ細かな学級経営と一人一人の課題に応じた指導支援を行う。 (2)定期的な部会を開催し、実態把握と指導計画の策定を行う。 (3)外部と連携した研修を実施し、教員の指導力の向上を図る。	○適切な支援ができるよう外部機関と連携し、課題に応じた指導や家庭との連携を行うことで、配慮児童も落ち着いて学校生活を送ることができている。 ○△学校体制で指導支援にあたってきたが、教職員の指導力向上を図っていく必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	(1) 人権教育を基盤とし、互いの違いや良さを認め合える学級、仲間はずれやいじめのない学級や学校づくりを一層進める。 (2) すべての教育活動で「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を図り、特にことばの力は、全教科・教科外指導で充実させる。 (3) 家庭・地域社会と連携し（大宮学園教育支援協議会）、小中一貫教育を推進する。より児童の中 1 ギャップをなくすための連携教育活動の内容の充実に努める。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野北小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
１　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 ２　すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 ３　思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 ４　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	○　全校的に落ち着いた学習態度で授業充実を図ることができた。 ○　社会科・生活科の授業研究を通して、自分の考えを表現することができる児童が増えてきている。 △　５年生・３年生では、昨年度の府学力診断テスト・ＣＲＴ・ＤＲＴ等で課題が見られた。教科の基礎・基本の力を付けなければならない。	「自分なりの考えを持つことができる児童の育成」 １　自分の考えを表現することができる。 ２　自分や友だちのよいところを見つけることができる。 ３　いろんなことに挑戦することができる。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	１　ねらいが明確で「わかる」「できる」授業を進める。 ２　全校体制で個に応じた指導・学力補充体制を確立し、基礎・基本の定着を図る。 ３　身に付けた知識・技能を用いて活用する力を育成する授業を進める。 ４　児童が意欲的に学習できる場の設定を進める。	１　研究推進部・少人数指導を中心に、ねらいが明確で「わかる授業」「できる授業」の実践研究を行い、学び合う。 ２　学力補充・家庭学習等により、授業だけでなく、家庭と連携し、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 ３　身に付けた知識・技能を活用して思考する力・判断する力・表現する力を育成することを研究授業の視点として意識しながら授業充実を進める。 ４　児童が意欲的に学習できる多様な学習形態を取り入れた授業・環境づくりの設定を進める。	○　教職員アンケートで、「ねらいが明確で『わかる』『できる』授業を進めることができた」の問いに100％当てはまると回答している。 ○　児童アンケートで「学校の授業は分かりますか」の問いに96％が分かると回答している。 ○　児童アンケートで「自分なりの考えを発表したり書いたりしていますか」の問いに87％がしていると回答している。 ○　漢字検定45名数学検定47名が挑戦することができている。山陰海岸ジオパーク研究作品コンテストでも入賞者を出した。 △　今後も授業研究を通して活用する力を身に付けさせ、Ａ層をつくる取組を進めていき、学力の向上を図っていきたい。
生徒指導	１　よさを認め合い、伝え合える活動を積極的に取り入れる。 ２　発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する指導を進める。	１　教師が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。 ２　道徳の時間を中心に、特別活動・学級活動等、全ての教育活動を通して道徳教育・人権教育を推進する。特に「他の人とのかかわりに関すること」２－（２）について指導を重視する。	○　生徒指導部・特別活動部が連携して積極的な生徒指導を行うことで、運動会・異年齢児童会行事・大縄大会・人権月間等で、児童が相互によさを評価したり、全校集会等で評価したりすることができた。また、相手の立場を考えて自分なりの考えを持ち行動することもできるようになった。 ○　保護者アンケートで約90％が、よさを認め合い伝え合っているとの回答が得られた。 △　授業、学級活動、学校行事、児童会の取組等で生徒指導の３機能（自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場）を意識した指導を行っていきたい。

健康（体育）・安全	1　全校的な体力にかかわる取組の充実により、体力向上を図ったり、基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、学校を休まない強い体を作る。 2　困難なことにも粘り強く挑戦していこうとする態度を育成する。	1　期間を決め、体力づくりの取組を行い、体育の授業と連動することで、体力（特に持久力）向上を図ったり、ＰＴＡと連携して基本的な生活習慣の確立を目指したりして、休まず学校に登校できる意欲を高める。 2　学校、学級での取組において個々の目指す目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」１－（２）についての指導を重視し、粘り強く挑戦する態度を高める。	○　体力づくりに取り組み、駅伝大会では、三位の結果を得ることができた。 ○　学期に１回定期的に生活点検を実施し、児童・保護者の意識を向上させた。また、ＰＴＡと連携し「ハイタッチ運動」「親子ガッツ＆パワー見つけキャンペーン」にも取り組み、明るく元気に登校することができるようになった。 ○　児童アンケートで「『はやね』をしていますか」の問いに85％がしていると回答している。 △　生活習慣が身に付いていない児童に対して、今後も家庭と連携して取組を進めていきたい。
小中一貫教育の推進	1　保育所・保育園・幼稚園・中学校との取組を進め、一貫した教育を強化する。	1　保育所・保育園・幼稚園・中学校との研修、取組のねらいを明確にして、一貫教育を実施する。	○　網野中学校合唱祭への参加・体育祭見学・部活動体験・中学校授業体験等を通して、６年生児童が、中学校への不安がなくなるだけでなく、期待が膨らんだ。 ○　保幼小連携として、５歳児を運動会・マラソン大会・学習発表会等に招待し、小学校へのあこがれを持てるような取組となった。
特別支援教育	1　学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。	1　教育相談部会を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援・手立てを明確にしながら、担任と連携した指導を進める。	○　特別支援校内委員会を定期的に開催し、個のニーズに応じた指導方法を検討し、あすなろ・つばめ食堂等の取組も保護者の理解を得ながら取り組むことができた。 ○　年間を通して保護者と懇談することができ、保護者の願いを取り入れた教育支援計画を作成することができた。
開かれた学校づくり	1　丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。 2　ＰＴＡ・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。	1　学校だよりや学級・学年通信、ホームページ等で、学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 2　ＰＴＡとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。	○　授業公開・学校公開・各種たよりの発行・ＨＰの更新を通して、学校の取組を発信できた。授業参観・学校行事のアンケート結果のまとめを発行することにより、学校の方針の理解につながり、保護者との連携が一層進んだ。ホームページのアクセス数一日 100～150（１月 22 日現在 215,363） ○　稲作・そろばん・ミシン・読み聞かせ・通訳・コンピュータ等の学習支援ボランティア、ゲストティーチャーを活用し、地域と一体となった学習を行うことができた。
次年度に向けた改善の方向性	網野学園の教育目標・目指す子ども像を基に学校経営を行ってきた。短期の達成目標「自分なりの考えを持つことができる児童の育成」と「12 の具体的方策」で、更に成果の見える取組を行う。 1　児童に自分なりの考えを持って表現できる力を身に付けさせるとともに、教科の基礎・基本を身に付けさせ、見える学力の充実を図る。 2　活用する力の育成、学習意欲の向上を図るための取組を行い、学力の安定・充実を図る。 3　学校評価から教育実践を取り組むことができるよう、評価の視点・方法を年度の早い時期に明らかにする。 4　家庭と連携し、生活習慣を確立させると共に、家庭での学習を定着・充実させる。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立網野南小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
網野町域小中一貫教育の目標から 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」 目指す子ども像 ・(あ)かるく元気に進んで学ぶ子 ・(み)んななかよく支え合う子 ・(の)びのび生き生きやりぬく子	○網野学園学力向上システムに従って、計画的に取組を進めることで、全校の学力向上につながった。 ○組織的に不登校に対する早期対応を図ることで、不登校傾向児童の登校を促すことができた。 △再配置の取組からうまれた「きずなづくり」「つなげる」取組を更に積極的に進める。 △小中一貫教育を自校の課題解決、活性化の為に利用する。	1　学校再配置３年目。児童が安心して学校生活を送れる「いごこちのよい」学校づくり 2　網野町域小中一貫教育の「目指す子ども像」の具体化を図るため、他の小中学校と一体化した教育推進 3　「学ぶ」「つながる」「信頼」をキーワードとした学校経営を進める。 4　状況を共有化するために「見える化」に努め、ＰＤＣＡによる地道な改善を積み上げる。

評価項目	重　点　目　標	具　体　的　方　策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	基礎的・基本的な学習内容の習熟と、思考力・判断力・表現力の向上。 「あかるく元気に進んで学ぶ子」	・「みんなで分かり、ひとりでできる」を合言葉に重点研究や日常の教職員の交流により学び合う。 ・算数科を重点研究とし、「内容」「学び方」「学び合い」を授業づくりの視点とした研究を進め、授業力向上に努める。 ・網野学園の「これだけは（授業編）」に基づく授業を、組織的・継続的に進める。 ・網野学園学力向上システムを計画的に回し、目に見える学力向上を目指す。(年度初めの診断テスト等の結果より年度末に実施するＤＲＴテストでは、平均比においてすべての項目で向上を目指す。)	○授業研究会を計画的に実施し、網野学園「これだけは(授業編)」を目指す授業ととらえて、研究を積み上げた。 ○少人数加配を中心に、「図や表を使って考え、式に表す考え方」、「みんなで分かり、ひとりでできる」「わからなさやまちがいから学ぶ」を大切にして授業づくりを進めた。 ○診断テストの弱点を分析し、課題克服のためにスキルタイムの内容を工夫したり、計算力アップ大会を実施することで全校で学習に向かう気持ちを高めたりした。 ○ＤＲＴの結果は 12 項目中、11 項目において、年度初めの平均比を上回った。
生徒指導	「いごこちのよい学級・学校」を目標にし、具現化を図る。 「みんななかよく支え合う子」	・「いごこちのよい学級にするためのアンケート」を年３回（５月、７月、12 月）実施し、教育活動を進める際の重要な資料とし、学級経営、学校経営に活かす。 ・網野学園の「これだけは」を組織的・継続的に進める。(授業規律の確立と規範意識の醸成) ・再配置３年目。「きずな」「つながる」をキーワードとして、年間を通して、すべての教育活動で取組を進める。 ・いじめや問題事象の対応は、迅速に、丁寧に組織的に行う。	○アンケート結果、学級の観察等をもとに学級実態に応じて「ルールの内在化」「豊かな人間関係づくり」を積み上げることで、年度初めに比べ満足群が 10 ポイント増え、不満足群が６ポイント減少した。 △今後、不満足群へ具体的な手立てを組織的に打ちたい。 ○企画委員会で２カ月をスパンに行動目標を設定し、総合調整後、関係分掌が取組を進めたことが攻めの学校運営につながった。 ○いじめ事象に丁寧に、組織的に取り組めた。

健康（体育）・安全	健康・体力の増進を図る。 安全の確保を図る。 「のびのび生き生きやりぬく子」	・市小学校駅伝大会で上位に入賞することも一つの目標とし、朝マラソン等、体力づくりを計画的に進める。 ・生活リズムを付ける取組を定期的に実施する。 ・　安全についての意識を高めるために、防犯教室、避難訓練や不審者訓練等を計画的に進める。	○朝マラソン、駅伝に向けての練習が、組織として計画的、継続的にできた。Ａチーム優勝、Ｂチーム４位 ○市給食研で本校レポート報告実施・日々の地道な指導「みんなが心地よく食に向かう全校ランチルーム指導」 ○保健室前掲示　防災グッズ等、暦に応じた展示内容 ○全児童出席日数 26 日（昨年度 16 日）各担任、教育相談部を中心に個の内面理解を丁寧にした。
小中一貫教育の推進	網野町域小中一貫教育の全面実施 ○「目指す子ども像」「学校教育目標」「これだけは」の推進 ○網野学園の各会議、各部会の推進	・「環境が子どもを育てる」という理念のもと、落ち着いた学校、授業を目指す。（全校が集まる場での規律等） ・授業づくりについて実践研究を深め、「これだけは」（授業編）の授業を推進する。 ・小中一貫教育の取組を自校課題解決の為に活用する。 ・児童生徒の行動連携の機会を大切にとらえ積極的に取り組む。	○網野学園で公開された授業の参観・事後研究会、自校の授業公開・事後研究等で、「これだけは」(授業編)がねらっている内容について論議し、授業づくりや児童の見方について深めることができた。 ○中学校の定期試験に合わせて「家庭学習がんばり週間」を設定し、より意識して家庭学習に取り組めた。 ○小中合同で空き缶回収の取組をした。中学生をよいモデルとしてとらえることができた。 ※空き缶約 3450 個　38.5 kg　大島中学校へ
特別支援教育	校内サポート体制の確立を図り、個の指導に活かす。	・特別支援学級（こだま学級）や通級指導教室等特別支援教育について、正しい理解と認識を育てる。 ・一人一人の児童の発達の様子、課題を明らかにし、個に応じた教育課程を編成し、基礎的な力を育てる。 ・配慮を要する児童について共通理解し、個別の指導計画等を作成し、個々の児童のニーズに応じた指導を進める。 ・より専門性の高い機関と連携を図る。	○特別支援コーディネーターが配慮児童の状況・手立ての方向性について定期的に校内研で報告することにより、全教職員が情報を共有化し、同じ方向で指導した。 ○多くの保護者面談(担任、教育相談部、管理職等複数対応)を実施し、個に応じた具体的な支援方法を検討した。その後、改善が見られた事例も多くあった。 ○ケース会議、外部の専門機関との連携を大切にした。
特色ある学校づくり	開校三年目。保護者、地域、関係機関との連携を大切に学校経営をし、「信頼してもらえる学校」を目指す。また校区の人・自然・文化について学び、まとめ、情報発信する。	・再配置による「ひずみ」については、アンテナを高く張り、日常的に柔らかく対応し改善し続ける。 ・地域学習を系統的・計画的に積み上げ、成果を地域に発信する。 ・ホームページ等、積極的な情報発信を行う。 ・網野学園としての連携組織づくりを推進する。	○再配置によるひずみであったＰＴＡ役員の選び方について、選挙規定の一部改定をし、納得しつつ役員を選出できるよう改善した。 ○学習発表会では、地域学習で学んだことを発表し、保護者・地域の方へ日常の学習の積み上げの情報を発信した。 ○ホームページ　　１日アクセス 400～500 件
次年度向けた改善の方向性	△学校便りを地域に回覧する。 △学力充実の取組　全校が一斉に、明確に取り組める内容を工夫する。 △通学路の除雪について、今年以上に保護者・地域の方に協力をして頂くための工夫をする。 △全児童出席日数を増やす。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立島津小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2　すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3　思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	○　図工科の授業研究を通して、言語活動を大切にした指導について、研究を深めることができた。 ○　年間を通し児童も教職員も共に「合言葉」をもとにした全校体制の取組ができてきた。 ○　アメリカのマンチェスター・メモリアル小との国際交流をスタートすることができた。 △　関係機関とも連携し、教育相談活動の充実を目指す。 △　給食週間や食育の日に合わせた学習はできたが、日常的に意識を高める指導が弱い。	1　全ての教育活動において、合言葉（短期目標）を位置付け、「島小システム」による学校運営を進める。 2　網野学園の教育目標、経営方針を基に、小中一貫教育の利点を生かした授業力の向上を図る。 3　いじめ・不登校等、生徒指導・教育相談の組織的な対応力を高める。 4　国際交流を通して国際理解教育実践を進展させる。 5　勤務時間縮減に努める。

評価項目	重　点　目　標	具　体　的　方　策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・網野学園の共通指導事項を踏まえた指導を通して、授業改善・学力充実の取組を進める。 ・図工科の授業研究を他教科の指導力向上に活かす。 ・網野学園の取組と連携し、学力向上プログラムを基にした取組を進める。	・網野学園推進会議の提案をもとに「これだけは！」を、全校でやりきっていく体制を作る。 ・「これだけは！」を日常的に実践し、三者会及び企画委員会による評価を返し改善を目指す。 ・朝読書、チャレンジタイムへの評価・改善により、ねらいを明確にした時間として充実させる。 ・網野学園と連動して、家庭学習がんばり週間を実施し、効果を高める。	○２ヵ月サイクルで示した「合い言葉」は、学級活動や児童会活動につながり、児童に意識させることができた。 ○「これだけは！」を基にした学習規律の指導により、朝読書やチャレンジタイムへの取り組み方（取りかかり、集中）が非常に良くなった。 ○家庭学習がんばり週間は、取組として定着し、学年にあった学習時間の児童の意識は93％と高かった。 △研究授業では熱心に論議されたが、図工の指導力を高めるまでには至らなかった。
生徒指導	・網野学園「これだけは！」の規範意識の醸成を、日常の中で実践する。 ・「島小システム」を機能させ、目標に向けて意欲的に活動する児童を育成する。 ・心の教育を充実し、自己肯定感を高める取組を進める。	・児童の活動に規律を意識させるとともに、互いに認め合う場面を作り評価していく。 ・学期毎に内部評価アンケートを実施し、指導の検証をして改善に活かす。 ・全ての計画に、短期目標「合言葉」を実践する内容を意図的に取り入れる。 ・生徒指導部を中心とする、問題事象の組織的解決の仕組みを定着させる。	○企画委員会を毎月開催とし、児童実態に即した指導目標の共有化を図った。気になる事象の減少につながり全校的に落ち着いてきた。 ○生徒指導部長を中心とした組織的な対応が迅速に行えるようになり、学校としての方針に基づく指導が通るようになった。 △児童課題に敏感に反応できる教職員の判断力を高めなければならない。

健康（体育）・安全	・網野学園家庭編に基づく取組を、他校と連携し進める。 ・健康の保持増進と体力の向上を図る。 ・安全への実践的態度の育成を図る。 ・食育の推進を図る。	・網野学園「これだけは(家庭編)」に基づき、ＰＴＡに働きかけ、家庭と連携した取組を進める。 ・朝の体力づくりの更なる充実を目指し、意欲を高める取組を進める。 ・日々の生活・活動を通して「安全」を考えさせ、実践させる場面を作る。 ・実態に合わせた指導を工夫し、食に関する学習意欲を高める。	○朝の体力づくりは計画的にマラソンや縄跳びを取り入れることにより、児童が個々の目標を持ちながら意欲的に取り組んでいる。 ○年間３回実施した生活点検では、家庭の協力もあり、児童が自分の生活を振り返り、より良くしようという意識を高めることができた。 △校内での安全な生活は指導を続けているが、廊下歩行など徹底できない課題が残っている。
小中一貫教育の推進	・網野学園の組織運営を安定化させ、効果的な指導を進める。 ・網野学園各部会の研修を基に、自校の研修充実を図る。 ・生徒会、児童会連携を計画的に進め、実践的態度を育てる。 ・保小連携を進め、円滑な接続を図る。	・学年部会の授業研究を中心としながら、指導力向上の研修を進める。 ・学園推進会議の方針を受けて自校実践を高める。 ・小中の児童会・生徒会の連携を計画的に推進し、自らが主体的に活動する場面を作る。 ・児童生徒(幼児)の交流を更に大切にする。	○中学校と連携した取組で中学生の姿に刺激を受けた６年生が、児童会活動を通じて下級生に伝える場面があった。 ○網野学園学力向上プログラムに沿ってドリル学習を進めることができた。学年末ＤＲＴでは算数の技能で正答率が全学年 80 パーセントを越えた。 △保小連携で、保育所からの参観はあったが、小学校からのアプローチが十分ではなかった。
特色ある学校づくり	・外国語活動指導力の向上を図る。 ・豊かな体験を基にした国際理解教育実践を推進する。 ・「琴引き浜」をテーマとして、積極的に地域に学習の成果を発信する。	・マンチェスター・メモリアル小学校との交流を年間計画に位置付けて、計画的に進めていく。 ・全校的な取組にすることで、外国語(英語)に接する機会を増やし、異文化体験を豊かにする。 ・「琴引き浜」学習を通して、地域の方々に「教えていただく」、「発信する」機会を積極的に設ける。	○マンチェスター・メモリアル小学校との交流は計画的に進み、日常的なメール交換が可能になった。 ○学習発表会で地域を題材とした学年発表を多く取り入れ、保護者や地域に対して発信することができた。 ○海岸清掃や白砂青松を守る取組への参加を通して、児童は「琴引き浜」や地域の自然に対して高い関心を持つことができた。
特別支援教育	・発達障害傾向の児童に対して、組織的な取組を進めるとともに、児童理解の力量を高める。 ・就学指導の充実を目指す。	・個別に配慮の必要な児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。 ・配慮の必要な児童保護者と学校が丁寧な懇談をし、指導の充実を目指す。 ・適切な就学指導を進め、該当保護者の理解を得られる取組を進める。	○特別支援教育を校内研修に取り入れ、日常的な指導に取り入れることができた。校内体制が確立しつつあり、児童の状況に応じた指導により改善が見られる。 △保護者に理解を求める取組はようやく具体的に進み始めた段階で、今後も継続して行う必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	網野学園としての取組は、評価と改善を積み上げながら本校の教育実践とリンクしてきている。保幼小中との連携を図りながら、自校だけではできない学習や活動を積極的に仕組んでいく。個々の課題に対応した特別支援教育の充実が緊急課題となる。特別支援教育コーディネーターを核とした組織体制を確立し、就学指導を含めた計画的な進行管理を行う。外国語活動研究を軸として、全ての教職員が参加できる研究体制づくりを行う。児童に付けたい力を教職員が共有し、日常的な実践を大切にして積み上げていく。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立橘小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子（知） み：みんななかよく支え合う子（徳） の：のびのび生き生きやりぬく子（体） ＊「たくましく　力と心を合わせ　はきはき何でも進んで取り組む学校」～元気・笑顔・挑戦～　の具現化を目指す。	○網野学園小中一貫教育：「これだけは！」で目指す児童に付けねばならない力に視点を当て、授業作り、生活習慣の確立、家庭への働きかけ等、教育活動に波及させることで、課題解決の取組を推進する事が出来た。 ○様々な行事、学校生活の機会を通じ、苦手なことにも果敢に「挑戦」していく児童の意欲的な姿が多く見られた。 ○学力充実月間、家庭学習頑張り週間等を設定し、家庭との連携のもとに学習習慣の定着を図ることができた。 △廊下歩行、トイレのスリッパを揃える、等のマナーとルールの徹底の面で課題が残った。	・児童の元気と笑顔があふれ、様々なことに挑戦する姿を目指し「たくましく　力と心を合わせ　はきはき　何でも進んで取り組む学校」の具現化を目指す。 た：たくましく…たくましい心と体で最後までやり抜く力を付ける。 ち：力と心を合わせて…学級の仲間と共に力と心を合わせ、様々なことに取り組む。 ば：はきはきと…自分の考えや思いをはきはきと自信をもって伝える力を育成する。 な：何でも進んで取り組む…主体的に学び、自らの目標に向かって挑戦する。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	(1)学力の充実・向上を目指し、適切な教育課程の進行管理を図る。 (2)各教科に言語活動を適切に位置付け、児童の思考力・判断力・表現力を育む。 (3)主体的な学びを育むための指導法を研究し、教師の授業力の向上を図る。	・学習意欲の向上、基礎学力の定着を図るための授業改善の取組を研究推進部・学力充実部を中心に進める。 ・重点研究の「ことば、文学」の取組を組織的に行い、児童の言語能力、表現力の育成を図る。 ・学力充実月間、家庭学習がんばり週間、校内授業強化月間等を設定し、若手を含む教員の指導力アップを目指す。 ・総合的な学習の時間、生活科をはじめとし、探究活動、主体的に学ぶ機会を充実させ課題解決能力を育む。 ・放課後補習、漢字検定に全学年で取り組む。	○どの学年も各教科において言語活動が組み込まれたペア・グループでの話し合い活動、意見発表などを行い言語力育成を目指すことができた。 ○全校で統一した取組をドリル時間等に行い、計算力、語彙力、漢字力等の定着を図ることができた。全校に実施した校内版漢字検定は合格者が93％と高い定着に繋がった。 △日常的に隣接学年で教材研究、授業法等についての相談や協議を行い、授業力を高める必要がある。
生徒指導	(1)人権尊重の観点に立ち、いじめや差別を許さない人権感覚と人権認識を培う。 (2)あたり前のことが当たり前にできる力、規範意識の醸成を図る。 (3)いじめ、不登校等の解消に向けた教育相談を充実させる。	・異年齢活動を通して、他と調和できる力、体や命を大切にできる力を育む。 ・日常の出来事を教材化し、思考力・判断力、規範意識、あたり前のことが当たり前にできる力を育てる。 ・定例の教育相談部会、生徒指導部会等を充実させ、関係機関との連携を踏まえた取組を推進する。	○異年齢活動や児童会の取組を通して、全校児童が力を合わせて一生懸命に様々な行事に取り組む事ができた。全校の絆が深まり、異年齢での仲も良い。 ○生徒指導部が月目標を設定し、具体的な学年目標に落とし込むことで規範意識の向上が図れた。 ○△要配慮児童等の教育相談を外部機関も活用し積極的に行う等、早期対応ができた。引き続き共通理解のもとに進める必要がある。

健康（体育）・安全	(1)体力作りを通して何事も最後までやり通す粘り強い心を育てる。 (2)自分や友達の体と命を大切にする児童の育成に努める。 (3)きびきびした行動様式、場に応じた行動様式を身に付けさせる。 (4)児童の危機回避能力を育む。	・年間を通した体力作りを進め、児童の体力と最後までやり抜く強い心を育てる。（朝マラソン、朝縄跳び） ・全校児童が登校できた日「100日」を目指す。 ・ＰＴＡと連携を図り『家庭力アップで学力アップ！』の目標のもとに基本的生活習慣を確立させる。 ・他機関との連携により健康や安全への意識を高める。避難訓練、防犯訓練、薬物乱用防止教室等を実施する。	○朝マラソン、朝縄跳びを通して継続する事の大切さや根気強さと共に体力作りができた。 ○計画的に様々な状況を想定した避難訓練を行う事ができ、不測の事態に備える大切さが浸透した。 ○行事と日常の生活を連動させ、きびきびとしたけじめある行動がとれるようになってきた。 ○△少しのことで休む傾向はぐんと減ったが、「欠席０」の日は２月末で63日と達成は厳しい。
小中一貫教育の推進	(1)網野学園小中一貫教育の取組を課題解決への手法に活かす。何を大事に取り組むのかを教職員が共通理解し、組織的に取組を進める。 (2) 児童生徒間の行動連携に留まらず学年会等の横の繋がりを指導力の向上に活かしていく。	・「ことば・文学」を重点研究とし、具体的な実践を追求していくことで教師の授業力向上を図る。全校的な取組とリンクさせ環境面からも児童に思考力、言語力をつける。 ・「これだけは！授業編」を各教科の指導場面で活用する。 ・学園の学年会と、本校のグループ研での学びをリンクさせ、教材研究、指導法の幅を広げる機会としていく。 ・中学校に繋がる「学力」を意識した授業改善を行う。	○国語科：説明文を中心に教材研究を進め、学園内の公開授業に臨み指導法を発信した。 ○「家庭学習頑張り週間」「学力充実月間」等を活用し校内の取組を強化した。児童・家庭の意識を高めることに繋がった。家庭学習目標時間達成 90%→92%→97% ○中学校に繋がる学力として小６や小４の学習内容の定着をより強く意識した取組を進めることができた。
特別支援教育	(1)特別支援学級設立に伴う理解教育を丁寧に行うと共に、個々のニーズに応える授業作りとユニバーサルデザインの視点を取り入れた教育の充実に努める。 (2)通常学級に在籍する支援の必要な児童への適切な支援を組織的に行う。	・ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境、教材教具、授業展開を工夫する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心にＳ・Ｓとの支援会議を定例化し、配慮を要する児童の実態を共通理解した上で校内の動きを構築していく。 ・他機関との連携のもとに個別のニーズに対応できる支援を追求する。 ・学校と保護者との連携のもとに、教育支援を行う。	○特別支援学級を中心にユニバーサルデザインの授業を展開した。学びやすさが児童の意欲に結びつき、基礎的な学力の定着を図ることができた。 ○支援会議を定例化し、個のニーズに応じた支援の在り方をＳＳと確認しながら進めた。組織化が図れた。 ○巡回相談等を活用し、個のニーズに応じた指導法を検討しながら丁寧な教育活動を進めることができた。 △理解教育のもとに、さらに個に応じた支援に努める。
開かれた学校づくり	(1)心身ともに健全な児童を育てるために学校・保護者・地域が一体となった教育活動を展開する。 (2)地域・保護者に対して学校の情報を積極的に発信する。 (3)教育アンケートを学校のＰＤＣＡサイクルに反映させていく。	・学校だより、学校ＨＰ等を活用した積極的な情報発信を工夫する。 ・地域に根差した教育の展開や丹後学を重視し地域の資源や人材を活用する。地域に誇りがもてる児童を育成する。 ・保護者・地域の思いを教育活動に反映させる。 ・児童・保護者アンケートを年間２回実施し、学校改善の取組に活かす。	○ＰＴＡの役員数や活動の見直しを行った。全会員の参画意識により、行事に対する理解と協力が多く得られた。 ○保護者アンケートは17項目中15項目が90%以上、2項目も 89%の肯定的評価と学校教育の理解が得られた。 △地域教材、地域の人材をもっと活用し、地域に対する郷土愛、愛着の心をさらに育んでいきたい。
次年度に向けた改善の方向性	網野学園が目指す教育目標、子ども像の具現化を本校の課題克服とリンクさせた学校経営を行い、「規範意識の醸成」をさらに進め、落ち着いた学習環境の中で児童の学ぶ力を育み、基礎学力の定着をはじめとする生きる力の充実を目指す。 １　小中一貫教育の手法のもとに教師の授業力を高め、児童の基礎的な学力の定着を図る。Ｃ層をＢ層へ、Ｂ層からＡ層への引き上げに努める。 ２　家庭と連携し、生活習慣の確立と学習の習慣化を図る。次年度もＰＴＡ目標である「家庭力アップで学び力アップ！」を共に目指す。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立豊栄小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて生きる子どもの育成」丹後中学校区学校教育目標の具現化を図るための学校づくりを進める。 ・「学ぶ意欲があふれる学校」をテーマに学習の楽しさを実感させ確かな学力を定着させる。その学びを活かし、考え方や見方を広げ人間的豊かな社会性を身に付けていく教育を行う。	○「図画工作科」の研究協力校として、児童と教職員とで内容のある本発表を実施することができた。 ○学習環境づくりを行うことが学習意欲に繋がった △言語活動や自己有用感を醸成する取組に力を入れる。 △一人一人の児童の基礎学力定着を図る。 △小中一貫教育の取組と関連させた家庭学習習慣を確立させる。	めざす児童像の具現化に向け、全職員が参画した組織的な教育活動を推進していく。 ・丹後中学校区（小中一貫教育）と関連付けた研究を積み上げ、授業実践力の向上と改善に努める。 ・児童同士が喜びを共感し合う学級づくりを進める。 ・行事や取組を通しながら自分や友達を大切にできる温かい人間関係を作る。 ・気付いたことは、報告・連絡・相談・確認ができる教職員集団を目指す。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	○楽しい学習体験を味わわせる。 （学力・授業力の向上） ・言語活動を重視した授業改善と学習内容の定着を目指すとともに活用していく力を伸ばす。（表現力）	○学校全体で学校課題の整理を行い、指導の共通化を図る。 ・意欲を引き出す指導、学力の向上に繋がる指導を徹底する。（授業研究・公開授業） ・各学年が学習課題の考察をもとに回復指導を行うとともに、丹後学園の取組と関連付け、保護者と協力して家庭学習の環境づくりを進める。 ・丹後学園と連携して言語活動の充実を図る。	○丹後学園研究主題と本校の研究を兼ね合わせて進め、他教科にも取り入れられた。 ○全校体制で課題領域の克服や基礎学力の底上げに向けた取組を考え行った。（ドリル等） ○丹後学園の取組と校内の取組を関連付けることが学習意欲を引き出すことへと繋がった。 △「長文を読む力・考えをまとめて書く力・発言する力」の向上を目指す。
生徒指導	○認め合いや児童の自尊感情を重視した生徒指導を進める。 ・学校生活のルールや約束を守り人間関係づくりを進める取組の実施 （いじめ・不登校への対応）	○児童と教師が一体となって、よい学習環境づくりを目指した取組を進める。 ・人権的な視点を基盤にした学級経営と諸活動を通して、児童の主体性やリーダー性を育成する。 ・支援を要する児童への個別指導を丁寧に行う。 （教育相談の充実、欠席状況の把握、諸機関との連携）	○配慮を要する児童への組織的な対応を進めることで安定した学級経営が行えた。 ○異年齢活動を行事や取組に取り入れて児童の居場所づくりを行ったことで、学校での人間関係が安定してきた。 ○関係諸機関と連携することで課題克服に向けての状況把握や取組の共有化につなげることができた。 △気になる児童の記録を残し、中学校へ繋ぐ。

健康（体育）・安全	○家庭と連携し、健康で安全な生活を営む実践力を育てる。 ・食育指導や体力つくり、基本的生活リズムを定着させる取組 ・避難訓練・事故防止・防犯指導等の実施	○日常的な活動、保健だよりや給食だより・学級だより等を活用しながら健康意識を育てる。 ・体力つくり、生活リズムや食育指導等を中心にした学級指導の徹底 ・よりよい生活環境を目指し、家庭に支援を呼び掛ける。 （学習の手引き、家庭学習頑張り週間、生活リズムの見直し、いじめアンケート、人権アンケート等の取組）	○自転車教室の実施、にこにこカーでの見回り、地域からの情報をもとに、交通安全に対しての意識も高まった。 ○よりよい生活環境づくりの取組を目指したことで、保護者の協力が得られた。 △非行防止教室・情報機器の使用状況等について学ぶことはできたが、保護者への啓発が更に必要である。
小中一貫教育の推進	○「夢と希望と創造性のあふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」という丹後中学校区の教育目標と関連づけ、本校の取組を具現化していく。	○「主体的な学び」～言語活動の充実を通して～を目指し、保幼小中学校の連携を図るとともに教職員の指導力の向上を目指す。 ・丹後中学校区の学園経営方針・学園指導の重点に対応した行動や取組・連携等、教育内容の充実に努める。 （保幼小中連携による授業研究・実践交流、土曜活用事業、小小連携を基本にした合同行事等）	○合同体験学習や合同修学旅行、中学校への行事参加等、保小・小中・小小連携行うことで学習内容の広がりが見られた。 ○校内だけではなく丹後学園としての学習や研究が進み始めた。 △保幼小中の教職員が参観等を行い交流し、児童・生徒の実態を更にていねいにつかむ。
開かれた学校づくり	○地域の自然や文化を大切にする視点を基本に学習を進め、情報を発信する。 （保護者や地域との協力・連携強化）	・郷土を愛する気持ちを育む教育活動を実践する。 （地域素材・人材との出会い、読み聞かせ、総合的な学習の時間・食育の取組、特色ある学校・児童会行事等） ・学校だより・学級だより、学習発表会、授業参観等を通し、丁寧な情報発信を行う。	○様々な行事や取組参観を呼び掛けたことで、児童の様子を知ってもらうことができた。 ○地域の方の協力で体験・見学を行い地域のよさが再認識できた。今後も地域との協力・連携を推進する。 △学校便り・学級通信・ホームページ等で更に発信する。
研修（資質向上の取組）	○児童に確かな学力と自己表現力を身につけさせるために基礎・基本（学力）の定着と言語活動（コミュニケーション能力含む）を重視した楽しく学べる授業実践の充実に努める。	・教職員の専門性、指導力の向上を図る研修を実施する。 （お互いに学び合える場を設定する） ・教職員自らがコミュニケーション能力を身に付ける。 ・外部研修に積極的参加し、表現力の向上を図るために研修で学んだことを伝達・共有するとともに、実践へとつなげていく。	○センター研修や府・局・市・丹後学園の担任会等を通して指導方法を学ぶことができ、そのことが児童の学習意欲を高めることに繋がった。 △外部講師の招聘、校内研修を通し学んだことを他教科に広げ、児童の言語活動（表現力）の向上に向けた取組を更に行う。
次年度に向けた改善の方向性	・丹後学園の研究主題「主体的な学び」を通して、「算数・数学」の授業づくりの研究を進め児童の基礎学力の向上と言語活動の充実・向上に努める。 ・丹後学園としての取組を通して更に開かれた学校づくりを推進する。 ・学校評価「学校の施設・設備、教育環境」「信頼される学校」等について、保護者・地域に協力を求め、連携しながら進めていく。 ・平成31年度の再配置に向けて間人小学校と一緒に教育計画案づくりや交流等、できることを次年度から進めていく。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立間人小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
１人権感覚を磨き、人を思いやる心を育てる。 ２読み書き、話す、計算する基本的な力を身に付ける。 ３規範意識を高め、安全安心な学校生活をさせる。 ４保護者、地域と連携・協働し信頼関係を築く。	１〇学校から子どもの学校生活の様子を HP やたより、懇談会等により情報発信できた。 〇保護者、地域の協力を得て、全児童が元気に登校できた。 ２△説得力のある文面を作成し、思いを適切に表現するところまでは至っていない。 △取組の成果を学校生活に生かす継続した指導が必要である。	１学習したことを実生活に生かすために基礎学力の定着を徹底する。 ２集団生活の中で自立する力の基盤を身に付ける指導の工夫・改善を図る。 ３保・幼・小・中学校と連携し、中学校卒業時の姿を想定した指導を充実させる。 ４教職員全体で情報を共有化し、保護者・地域との連携・協働を深める。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・授業の中で学習の具体的なねらいを設定し、わかる・できた喜びを実感させ、学力の定着を図る。	・ねらいの達成を検証し、授業改善を行う。 ・外部人材を活用し、興味関心を生かした学習を行う。 ・読書活動の推進に向けた取組を実践する。	〇基礎基本を定着させる学習が、全校で取り組むことができた。自主学習ができる児童が増えた。 〇外部講師による授業は、興味関心を高め、今後の生き方につながる学びとなった。 △学習の定着を詳細に検証し、課題分析して授業づくりにつなげる。 △読むことの大切さと楽しさを実感させる。
生徒指導	・教育活動全体をとおして人権意識を高めさせる。 ・いじめ、不登校の未然防止及び解消にむけた教育相談活動を充実させる。	・生徒指導の３機能を生かした指導をもとに、面談を重視することで情報を共有しあい、組織的な対応を行う。 ・チームでの活動をとおして、自主的・自律的に行動できる力をつける。	〇異年齢の活動をとおして、高学年はリーダーとしての意識が高まり、低学年への配慮ができた。 〇個人面談等により、児童の把握に努めた。 △友達の意見を傾聴し、自ら判断する力と子ども同士で解決できる力の育成をめざす。 △集団生活での心得や思いやる心の育成は低学年から徹底する必要がある。

健康（体育）・安全	・けが予防及び体ほぐしを行い体力の向上を図る。 ・自己健康管理能力を向上させる。	・サーキットトレーニングを継続する。 ・日常の健康観察、起床時間、朝食、就寝時間等の点検、取組を行う。	○授業開始前の準備ができ、怪我も少なく、安全な学校生活ができるようになった。 ○家庭の支援により、基本的な生活習慣が身につき遅刻することなく登校できた。 △校外でもけが予防や安全な行動ができるよう指導の継続が必要である。 △就寝時刻を早くし、意欲的な学習につなげる。
小中一貫教育の推進	・保幼小中の円滑な接続を意識した教育活動を充実させる。	・情報の共有化を行い、学力向上につながる取組を推進する。	○合同行事や授業により小小連携が進んだ。その他校種を越えて連携を行うことが、より良い接続へ繋がることを学ぶ機会となった。 △合同研修会を充実させ、保幼小中の教職員の相互理解を深める。
危機管理	3 つの安全（生活・交通・災害） ＊安心安全な学校生活ができる。	・学校支援ボランティアとの連携により安全な登校につなげる。 ・校内外の危険箇所点検を行い、適宜、修繕や報告を行い教育環境を整える。	○支援ボランティアとの連携により児童の把握ができた。また、毎朝の登校が安全にできた。 ○敷地内の危険箇所の改善ができた。（門扉の活用、注意喚起の看板設置） △災害を想定した迅速な対応ができるマニュアルの見直しが必要である。 △保護者への情報モラルに関わる啓発、情報提供を継続して行う。
研修（資質向上の取組）	・責任を果たすべく指導力量を身に付け、子どもや保護者、地域から信頼を得る。	・校内研修を充実させる。（授業研究、職場人権研修、生徒指導、服務規律等）	○教育公務員としての任務の遂行、社会人としての心がけ、マナーについて研修を進めた。（法やルールに関する教育、心がけのススメの活用、人権教育、復講習） △児童のとらえ方や指導方法の未熟さにより保護者から信頼を損なう学級経営も見られた。 △教師の専門性はもちろんこと、社会人としての良識ある言動や子どもの内面に迫る指導力の育成に全力を挙げていく必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	◎心と体を鍛え未来を拓く基盤づくりをめざす。 1　基礎学力・体力の向上、読書活動の推進 2　教育活動を通じて法やルールを学ぶ 3　思いやる心、自尊感情、自己有用感の育成		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立宇川小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1　夢と希望と創造性あふれる豊かな心をもち、未来に向けて主体的に生きる子どもを育成する。 2　宇川の地を愛し、地域の未来を広げる力をつけた、主体性ある児童を育てる。	○家庭学習の習慣化に関わる取組の充実により、宿題を確実にやり切る児童が増えた。 ○学校不適応を示す児童に対して組織的・継続的に取り組み、改善傾向が見られた。 △授業改善の必要な学級があり、どの授業でも言語活動が充実しているとは言い切れない。 △知的な刺激や緊張感・役立ち感を児童に与える指導や教育活動が少ない。児童のたくましさと主体性を育てたい。	1　目指す児童像の実現にむけて、「まなび・こころ・からだ（生活）」の３視点を設定し、各組織を機能させることにより教育活動を展開する。 2　児童が活躍している学校生活をつくる中で、主体性を育てる指導を教育活動全体で展開する。 3　小規模校の特性を踏まえながら、地域との連携を図り、宇川の地に対する児童の興味・関心を高める。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1　授業における児童の主体性を追究しながら、主体的・意欲的に学習する指導を研究実践する。 2　言語活動の充実を視点に思考・判断・表現する学習活動を充実させ、基礎的・基本的学習内容の確実な習得及び活用を図る。	1　算数科において授業における指導の在り方を研究し、考える時間、書く活動、話合いの場等の効果的な設置や指導等を追究する。 2　児童一人一人の学力課題を分析し、個の課題に応じた指導を継続して行う。 3　ドリル学習の時間、放課後、長期休業中、土曜活用時に補習や補充学習を実施する。 4　家庭学習の習慣化の取組により、家庭と連携して家庭学習の充実・向上を図る。	△授業研究は計画どおり行ったが、児童の主体性はもっと確かなものにしたい。教育活動全体でさらに研究しながら児童の主体性を育てたい。 ○学力診断テストなどの結果分析を活用し、ドリルタイムや補習での回復指導を行った。複数の教員で指導し、より個に応じて指導した。 ○家庭の協力により家庭学習の取組が一層充実した。家庭学習の点検項目達成率は、「目標時間」99%、「丁寧な字を書く」97%等ほとんどが90%以上の好結果となった。
生徒指導	1　児童の学校生活の状況や課題を的確に把握し、児童自らが課題を解決しようとする実践力を育てるとともに、個に応じた適切な教育相談活動を行う。 2　規範意識の醸成を図り、いじめ・非行の未然防止に努める。	1　児童の状況を日常的に把握し、生徒指導上の問題・課題の早期発見・早期対応に努める。 2　あいさつや基本的生活習慣の確立を図る指導を充実させる。 3　生活目標設定により、指導課題を明確にして指導する。 4　不登校傾向や不適応等個々の課題について、組織的・計画的に相談活動を進める。	△生徒指導上の問題はおおよそ早期に対応したが、家庭・地域から連絡を受けて対応したものもあった。早期発見に努め、早期対応を今後もしていきたい。 ○ほぼ全員の児童が、自分から朝のあいさつができている。他のあいさつも気持ちよくできるようになってきた。 ○生活目標達成のための努力点や結果を全校児童で共有し、児童に達成感・有用感を味わわせることができた。 ○不登校傾向やいじめ防止等については、早めに組織的に対応した。いじめは、第１段階で全て解消している。日頃の相談活動や心の声の把握も継続したい。

健康（体育）・安全	1　児童の健やかな生活づくりや健康の保持増進への関心と実践意欲を高める。 2　児童の安全に関する知識を養い、判断力や行動力を育てる。	1　体育の授業や年間を通した体力づくりの取組を設定し、長期的な視点で体力向上を図る。 2　避難訓練、防災学習、交通安全教室等の安全に関わる指導を充実させ、児童が自己の命を守るための能力を育てる。 3　登校時の指導や付き添い下校により、交通安全指導を徹底する。	○朝マラソン、縄跳び、おにごっこ等バリエーションのある朝の体力づくりを年間通してほぼ毎日行った。校内マラソン大会や駅伝競走大会でも好結果が見られた。 △校内での小さなけがが続いた。児童の危険予想能力は、さらに高める必要がある。 ○強風時や道路工事期間にも付き添い下校や立ち番等、登下校時の指導を丁寧にした。今後も、暴風時・積雪時を含め、登下校については、安全指導を徹底したい。
小中一貫教育の推進	保幼小連携・小小連携・小中連携により、中学校区のカリキュラム等に基づいて小中一貫教育を実施する。	1　授業研究において指導方法を研究し、指導に生かす。 2　目指す児童像を具体化しながら教育活動を行う。 3　「丹後学」のカリキュラムを実践し、検証する。	△丹後学園で研究したことを日頃の授業や校内での授業研究に活用することは、もっと必要であった。 ○目指す児童像の具体化を意識した教育活動が見られるようになってきた。小小間、保小間の連携も強くなった。 △通例や前年度踏襲であったり、目指す児童像の具体化の視点がなかったりした教育活動もあった。行事・取組の精選と組織運営の見直しも含め一層の改善を図りたい。 ○「丹後学」のカリキュラムを見直し、地域を学び、地域との連携を強める内容に改めた。第３学年以上で積極的に校外学習・体験学習ができ、地域の学びが増えた。
特別支援教育	1　学校全体で特別支援教育を進め、授業のユニバーサルデザイン化、児童の自立を促す指導・支援を実施する。 2　障害の状態や個の特性に応じた指導・支援を計画的・組織的に研究実践する。	1　個別の指導計画、個別の支援計画等に基づき、保護者と連携しながら個々の教育的ニーズに応じた指導・支援を行う。 2　特別支援学級における特別支援教育の在り方及び個の特性に応じた指導や授業のあり方等について中学校区や校内の研修会により学ぶ。	○計画と指導と評価のサイクルで個の教育的ニーズに合うように努めた。対象児童は徐々に力を伸ばし、できることを増やし、できないことを減らすことができた。 ○特別支援学級の研修会や丹後学園の研修会により教員が研修できた。個の特性に応じた指導の重要性と必要性を確かめ、そのあり方を探ることができた。
開かれた学校づくり	1　地域の題材等を教育活動に積極的に取り入れ、地域との連携をつくる。 2　教育活動を地域や保護者に公開し、本校の教育について理解を図る。	1　地域の施設、人材等の活用を指導計画に組み入れ、学習活動や体験活動の充実を図る。 2　教育活動の様子を保護者や民生児童委員、学校評議員等に公開し、感想を集める。 3　各種のたよりやホームページ等を用いて、学校の教育活動を情報発信する。	○地域の施設の見学や地域題材の活用が増えた。地域の協力も得られ、児童はとてもよい学習と経験をした。 △ホームページへのアップは増えたが、一部の発信に偏りがあり、量・質とも不十分だった。今後は、量を増やすところから努力したい。
次年度に向けた改善の方向性	1　へき地・小規模校教育の研究を前面に出して充実させ、家庭・地域との連携を強化しながら主体性の育成を目指して授業改善を図る。 2　自他を大切にする心を醸成しながら、コミュニケーション能力を養う。 3　挑戦・競争・楽しさがある体力づくりを継続的に取り組み、身体を鍛える方向からも児童のたくましさを育てる。 4　情報発信の方法を工夫改善し、本校の教育活動についての理解を図る。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立吉野小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
小中一貫モデルカリキュラムの活用を図り、地域の特色を生かした教育課程の編成を行い、日常の教育活動を充実させていくことで、児童が安心して主体的に学び、活動できる学校づくりと保護者・地域、関係機関との連携を大切にし、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。	○目指す授業の共有化が進み、基礎学力の定着・向上が図られた。日常における授業改善や授業実践充実の意識が高まってきた。 ○組織的・協働的な運営の意識が高まってきた。 △基礎学力の充実、学習意欲の向上に向けた取組と豊かな心の育成に向けた取組を家庭と連携して進める。 △信頼される学校づくりと特色ある学校づくりの充実のためにも、保護者・地域との連携をさらに深める。	1　基礎・基本の確実な習得と思考力・判断力・表現力の充実を図る授業づくりと学級づくりの推進 2　豊かな人間性をはぐくむ「心の教育」の推進 3　家庭・地域との連携を深め、信頼される学校づくり、特色ある学校づくりの推進 4　校種間の取組や連携を通し、就学前から中学校卒業までを見通した弥栄学園小中一貫教育の推進

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	重要な学校課題である学力の充実、向上を図る取組を推進する。 1　学習内容の定着に向けた取組を進める。 2　授業実践力、指導力を向上させる取組を行う。 3　相手を意識した表現力、コミュニケーション能力の育成を図る。	1　基礎的な学習内容の定着に向けた取組を行う。 (1)　個々や学級の児童の学力課題を明らかにし、きめ細かな指導を継続的に行う。 (2)　ねらいを明確にし、わかりやすい授業を進める。（ユニバーサルデザインの授業づくりを進める。） (3)　繰り返し学習の内容と方法を工夫する。(チャレンジタイム、補充学習等) (4)　各学期に１回以上、全校的な取組である学習指導強化月間を設定し、児童への指導や学力向上の取組を進める。また、家庭学習においても、弥栄学園の取組と連動させ、家庭学習強化週間等の取組を推進する。 2　学習指導力、授業実践力の向上に向けた取組を進める。 (1)　重点教科である国語科の授業研究を通し、教師の指導力、授業実践力を向上させる。 (2)　出前講座の活用や様々な研修の場を設定し、指導力の向上を図る。 3　教科や行事等の全ての教育活動を通して、表現力、コミュニケーション能力を育成する。特に、今年度は表現力の「書くこと」に重点を置いた指導に取り組む。	○個々や学級の学力課題を分析し、少人数のよさや実態に応じた授業づくりを進めることができ、学習の規律や態度とともに、意欲的に学習を進めようとする児童が増えてきている。 ○繰り返し学習を学校支援ボランティア、小中連携加配による学習支援も取り入れながら継続した指導を行うことで、基礎的な学力の底上げにつながった。 ○重点教科の国語科を中心に教員の指導力向上のための研修や授業改善を図るための校内研修会の充実を図り、日々の授業改善や実践に活かすことができた。 ○弥栄学園の取組（授業づくりの手引き、家庭学習等）と連動させて、校内の研究や取組を推進し、授業改善を図ることができた。 △個別課題、学級の実態に応じたきめ細かい指導を継続して行うことで一人一人の学力の向上を図る。 △ユニバーサルデザインの授業づくりを意識して行い、児童に分かる授業、指導を工夫していく。 △家庭等との連携を更に強化し、家庭学習の充実を図る。 △弥栄学園の取組と連動させて、校内の取組を更に充実させる。

生徒指導	1　良好な人間関係づくりを行い、安定した学級経営を目指す。 2　人権意識や規範意識の高揚を図る。 3　いじめや不登校の未然防止に努める。	1　児童の実態を的確に把握・分析し、全体で情報を共有化しあうことで、組織的に迅速に対応できるようにする。 2　肯定的評価を基本とし、自己肯定感を育てる。また、法やルールに関する教育の継続した指導を通し、規範意識を高める。 3　児童の内面理解に努め、家庭への連絡を密にし、連携した取組を丁寧に迅速に進める。	○日常的な異年齢集団活動を通し、高学年のリーダー性の育成とともに学年を超えた良好な人間関係づくりに向けた取組を進め、全校の一体感が深まった。 ○法やルールに関する教育や様々な事象の教材化等を通し、規範意識の高揚や心の成長がはぐくまれ、不登校0につながった。 △児童一人一人の内面理解や状況把握をきめ細かく行い、家庭への丁寧で迅速な連絡、連携を強化していく。
健康（体育）・安全	1　健康な心と体づくりの取組を進める。 2　学校事故の未然防止と登下校の安全を確保する。	1　年間を通した朝の体力づくり（マラソン、縄跳び）を実施する。また、生活点検を毎学期実施し、生活習慣づくりを進める。 2　校内安全点検を実施し、安全な施設管理を行う。また、登下校の安全指導を徹底するとともに、ＰＴＡや地域のボランティア等と連携した取組を進める。	○年間を通した体力づくりの取組を組織的に推進することができ、基礎的な体力が身に付いてきた。（マラソン、縄跳び） ○家庭と連携して毎学期生活点検を実施し、学期始めの生活習慣づくりを進めることができた。 ○ボランティアの方々と連携して安全な登下校ができ、事故0につながっている。 △安全や健康を守る意識を更に高める。
小中一貫教育の推進	就学前から中学校卒業までの10年間を見通した弥栄学園の小中一貫教育を推進する。	1　校種を超えた教職員の研修や学力、授業づくり、各部の取組を通し、教職員の実践力や資質向上を図る。 2　保育所、幼稚園、小、中学校との交流や研修を積極的に行い、連携を深め、指導の一貫性を図ることができるように努める。	○全体研修会や各部会を通し、取組の推進や教職員の意識の高揚、実践力の向上を図ることができた。 ○合同行事や交流学習等を小中だけでなく、小小、保・幼・小の連携した取組として推進することができた。 △保・幼・小、小小の連携の取組を計画的に入れていく。
特別支援教育	特別な教育支援が必要な児童の個性や能力の伸長を図るため、個別の課題に応じた指導方法の改善や指導の充実を図る。	1　障害のある児童や保護者のニーズに合わせた支援が行えるよう、取組を進める。 2　個別の指導計画・支援計画等を活用し、本人や保護者との懇談を丁寧に行い、個々の合理的配慮を明確にしながら、個に応じた指導の推進を図る。	○家庭との連携を図り、障害のある児童や保護者のニーズに合わせた支援を考え、取組を進めることができた。 ○懇談を丁寧に行い、個々の合理的配慮を明確にして個に応じた指導の推進を図ることができた。 △実態に応じた指導の充実を図る。
特色のある学校づくり	本校や地域の伝統や文化を継承した取組を充実させる。	1　米作り、吉野フェスタ等、地域の豊富な資源や人材を活用した本校独自の取組を継続して取り組む。 2　日常の取組として行っている異年齢による集団活動（チームで行う給食や掃除等）をさらに充実させる。	○地域の資源や人材を活用し、伝統となっている米作りの取組を推進することができた。 ○異年齢集団活動を日常化し、人間関係づくりや異年齢による取組を充実させることができた。 △地域人材の発掘と活用、家庭や地域への発信を更に進める。
次年度に向けた改善の方向性	1　学力充実・向上に向け、日々の授業実践力の向上と個別指導を充実させ、習熟、定着を図る取組や家庭学習の習慣化を図る取組を進める。 2　児童一人一人の内面理解に努め、きめ細かな対応や指導を継続して行い、豊かな人間関係づくりと心の教育の充実を図る。 3　弥栄こども園、弥栄小学校との連携した取組を計画的に進めるとともに、弥栄学園としての小中一貫教育の推進を図る。 4　家庭・地域との連携を密にし、信頼される学校づくりと特色ある学校づくりを更に進める。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立弥栄小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
かしこく　やさしく　たくましく ～自主・自立～ （１）言語活動の充実 （２）自己肯定感の醸成	○肯定的評価のある風土により、安定した学習環境の確立 ○小中一貫準備校として、組織運営の確立 ○地域協働による学校文化の創造 △課題解決型の授業による基礎学力・活用力の育成	１　学力の向上（授業づくり） ２　学級経営の充実（学級づくり） ３　教職員の資質向上　　４　信頼される学校づくり ５　小中一貫教育（保小・小小・小中連携）の充実

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	１　学習規律の確立 ２　言語活動の充実 「書く力」の育成 ３　学び合える授業の構成 ４　読書活動の充実 ５　家庭学習の充実	１　弥栄学園「学びのルール」の徹底指導を行う。 ２　全教科・領域の中で言語活動（特に「書くこと」）の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。 ３　安心して学び合える学習環境の中で、少人数加配の活用や指導方法を工夫し学力を定着させる。 ４　図書支援員活用やPTAと連携し、読書に親しませる。 ５　弥栄学園「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の習慣化を図る。	○学習規律が身に付き、しっかり聞き・考えることができるようになったと、90％の児童が実感している。 ○全教育活動において言語活動（特に書くこと）の重視により、表現することに抵抗がなくなった。 ○全校的に漢字テストを繰り返し実施し、３学期初日のテストでは、全校平均点が95.3点となり成果があった。 ○△学力充実加配を活用し少人数授業の実施や指導方法を工夫したが、学力の定着はすぐに結果が出ていない。 ○家庭と連携した読書指導により、全校で１万冊読破は12月に達成し、さらに３学期には記録を伸ばせた。 ○弥栄学園共通家庭学習の取組により、家庭学習が習慣化し、宿題や間違い直し等をやり切る習慣が付いた。 △様々な取組を駆使して実施しているが、個人差もあり、基礎学力及び活用力が定着したとは言い切れない。 △今後さらに、全校体制で学習に関心を持たせる取組を通して学習意欲を向上させる必要がある。
生徒指導	１　規範意識の醸成 ２　人とつながる力の育成 ３　自他を尊重する心の育成 ４　気持のよい挨拶の励行 ・挨拶・お礼・返事 ・失敗を素直に認め教材化へ	１　全校児童が公平・公正に生活するためのルールやマナーを児童自身に考えさせ、守ることで規範意識を高める。 ２　学級遊びや異年齢活動等を通して人間関係力を高める。 ３　自他のよいところを見つけ合う事を習慣化させる。 ４　PTA・地域と連携し、挨拶の心地よさを体得させる。「あいさつ・ありがとう　ごめんなさい・返事」が素直に言える心をはぐくむ。	○学校のきまりやルールを守り、自分勝手な行動が減った。人間関係も良好となり、トラブルが激減した。 ○学級や異年齢での活動で遊びを意図的に仕組むことで、自発的に外で遊ぶ児童が増えた。 ○△「いいとこメガネ」「スマイルリーダー」の取組により、少し自尊感情が高まってきたが、意欲的に取り組める積極的な児童が増えたとは言い難い。 △挨拶運動をPTAと連携し取り組んだが、声が小さい。 ○職員室へ入る時、名前と用件を言う等のマナー面では、100％の児童ができるようになった。

健康（体育）・安全	1　責任感の育成 2　体力づくりの推進 3　チャレンジ精神の育成 4　生活習慣の確立	1　係りや当番活動、委員会活動で自分の役割は責任をもってやり遂げる力を育てる。 2　マラソン・縄跳び等に目標を持って取り組ませる。 3　「ほけんだより」による保健指導や、食に関する指導、生活点検の取組により、運動や栄養・睡眠が体に大切なものであることを指導する。 4　PTA と連携し生活習慣を身に付ける為の取組を行う。	○高学年を中心とした児童会活動や委員会活動では、自主的な活動をさせることで、責任感が醸成できた。 ○98％の児童がマラソンや読書等、「自分の記録にチャレンジすることができた」と、満足している。 △PTA と協力して早寝・早起き・朝ごはんに取り組んだが、家庭での生活には課題が残る。 ○挨拶運動は、毎月 PTA と共に取り組むことができた。 △交通事故はなかったが、登下校中の不注意による怪我が多かった。注意力及び筋力に欠ける児童がいる。
小中一貫教育の推進	1　共通指導内容の徹底 2　系統的な授業スタイルの構築 3　地域への発信	1　弥栄学園で、共通して指導する内容について、調整を図りながら徹底指導する。 2　中学校を見据え、汽水域の一部教科担任制や、低学年からの系統的な授業スタイルを構築する。 3　弥栄学園の教育活動を、地域へ広める広報活動を意図的に行い、保護者・地域からの協力を得る。	○弥栄学園の重点指導事項「考えて書くこと」を、全教科で徹底指導し、書くことに抵抗のない児童が増えた。 ○△教務・加配を中心に家庭科・理科を教科担任制とし、中学校スタイルに慣れさせたが、定着は未確定である。 △PTA 総会で、弥栄学園の児童生徒交流や教職員の合同研修会を紹介したが、取組の周知には至っていない。
開かれた学校づくり	1　学校からの発信 2　地域学習や丹後学の充実 3　地域人材の積極的活用	1　弥栄学園や本校の教育活動を、保護者・地域へ発信し、理解と協力を求める。（学校だより全戸配布・HP　等） 2　広い校区の学習を積極的に取り入れ、ふるさとを愛する心情を育てる。 3　地域の方々の人材活用により、児童と地域の方を結ぶだけでなく、学校が地域の核としての役割を担う。	○ＨＰで教育活動をタイムリーに広報したことで、理解が深まった。現在１日約 500 件程度のアクセスがある。 ○生活科や丹後学により、地域学習を積極的に進めることで、故郷の良さに気付く児童が増えた。 ○地域支援ボランティアの活用により、学習効果や指導力の向上だけでなく、学校が地域の核としての役目を果たし、弥栄小地区が活性化しつつあると思われる。
特別支援教育	1　支援を要する児童理解 2　障害のある児童の教育的ニーズに応じた指導の充実 3　教育相談の充実による、不登校・いじめの未然防止	1　支援を要する全ての児童の理解に努めると共に、全児童の為にもユニバーサルデザインを意識した教室環境・授業を構築する。 2　関係機関と連携し、個に応じた指導の研修を深める。 3　全児童・全保護者が安心できる教育活動推進のために、教育相談機能を高める。	○発達障害を含む支援を要する児童理解や職員研修に努め、全学年でユニバーサルデザインを意識した学習環境や授業ができた。 ○支援学校や医療等の関係諸機関と連携すると共に、個に応じた指導方法について全教員が研修できた。 ○児童の変化を早期発見・早期対応できた。登校渋り傾向児童は、早目の保護者面談により不登校ゼロである。
次年度に向けて改善方向性	1　学校全体が落ち着き学習規律も定着してきたので、今後、全校体制で学力向上の取組をさらに進め、質の高い学力を身に付ける必要がある。 2　自尊感情を高める取組を通し、学習意欲や積極性を身に付けさせたい。 3　自他の身を守るために、危険予知能力を身に付けさせる必要がある。 4　小中一貫教育の推進について、さらに研究を深める。 5　教職員一同の協働体制をさらに強化する。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立久美浜小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
学校教育目標の達成に向け、校訓「一生懸命」を取り入れた教育活動を推進する。 1　質の高い学力をつけるための学習指導及び学習環境整備を進める。 2　質の高い学力を培う基盤として、児童同士の好ましい友人関係の構築を一層進めるとともに、社会的なマナーの確立や規範意識の醸成を図る。	○算数科を中心に、図や絵にあらわしたり、根拠をもとに説明したりする指導を進め、児童の活用力が育成されてきている。 ○家庭学習の習慣化が図られてきている。 ○児童のリーダー性の高まりや友人関係の安定が図られ、落ち着いた学校生活が送れている。 △基礎学力の定着において児童の個人差が大きい。 △集団の中での個に応じた指導や一人一人に寄り添った指導の在り方について実践力の向上が必要である。	◎「すべては久美小の子どもの成長のために」 【要約】 1　基礎的・基本的な内容の確実な定着及び、根拠をもとに自分の考えを説明・表現する力を向上させる。 2　すべての教育活動の基盤として安心して学べる学級づくりを進める。 3　一人一人の個性や特性を理解し、個のニーズに応じた指導を進めることで、子どもたちの成長をはぐくみ、その姿から家庭・地域からの信頼を得る。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1　基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための授業改善を進める。 2　話し合い活動を進めるための「聞くこと」「話すこと」の力を伸ばす。	1　1単位時間で学習した内容を定着する時間を確保するための授業展開を考え、取り組む。 2　単元ごとの評価テストについて期間をおいて実施し、学習内容を複数回振り返る。 3　学年に応じた「理解して聞く」「話し合いの仕方」を身につけさせる。	○△学習内容を定着するための授業展開の必要性は共通確認できた。今後も工夫が必要である。 △学習内容の定着に向けた複数回のテストは時間確保の面でなかなか難しかった。 ○重点研究を通じて、学年に応じた「話し合いの仕方」を追求し、ペアやグループを活用した話し合いの方法について確認することができた。ペア学習等を活用した話し合い活動では、88％の児童が考えを進んで伝えていると答えている。
生徒指導	1　気持ちよく生活できるための必要なマナーやルールを考えて行動できる力、相手を思いやる心の育成を進める。 2　「いじめ」「不登校」等の諸課題に対し、未然防止に向け日常的な指導、相談活動を充実させるとともに、「心の教育」を推進する。	1　道徳時間や法やルールに関する教育の指定校としての取組を進め、授業や日常での指導の工夫を進める。 2　豊かな人間性をはぐくむため、児童会活動を通して異年齢活動を活発にする。 3　「いじめ」アンケートや日々の子どもの様子から変化を全教職員でつかみ、組織的に共通理解して早め早めに取り組む。	○△当たり前のことが当たり前にできるように日々の授業中の指導を丁寧に進めた。一方で法やルールに関する研究指定校としての取組は弱かった。 ○久美浜小学校の伝統ある異年齢活動は今年度も積極的に進め、心の成長など大きな成果が見られた。 ○アンケートとともに子どもの変化を丁寧に見ることで、常に組織として取り組むことができた。その結果として落ち着いた学校生活につながっている。96％の児童が学校の決まりを守っていると答えている。 ○自分には良いところがあると思う児童 86%、将来の夢を持っているのも 92%であり、肯定的にとらえている。残りの 14%（16 名）、7%（8 名）の児童を丁寧に見ていく。

健康（体育）・安全	1　楽しく体を動かす習慣を身に付けさせるとともに、様々な取り組みを通じて我慢強く活動する心を育てる。 2　安全な生活を営むための対応力を育成する。	1　体育の時間の工夫で運動の楽しさを知らせ、朝マラソンや縄跳び、マラソン大会などの取組を通じて我慢強く取り組む心を育成する。 2　安全な遊び方や廊下歩行を意識させて生活できるように取り組む。	○△様々な取組を通じて、体を動かすことの楽しさを体験できている。我慢強く取り組む心の育成も進めてきているが、家庭との丁寧な連携の上での取組が更に必要である。 ○△全体的には安全に気をつけ、落ち着いて生活できている。ただし、廊下は歩いていると80%の児童が答えているものの、そう思うと自信をもって答えているのは21%であり、その児童を増やす必要がある。
小中一貫教育の推進	1　保幼小中 10 年間を見通した教育活動についての手段としての「小中一貫教育」の意図を理解する。 2　互いの文化や活動の特色を理解し、自校の取組とつなげる。	1　久美浜学園の各事業を進めるにあたり、校内での議論を通じて小中一貫教育の意図や意味を理解する。 2　久美浜学園内の保育所、こども園、小中学校の取組に積極的に参加し様子を知るとともに、肯定的に理解するように論議する。	○各事業を積極的に進め、小中一貫教育の目指すことや意義は大いに理解できてきた。 △保育所・幼稚園・小中学校それぞれの文化や指導観の違いをなかなか乗り越えることができていない。今後も追及していく課題である。
特別支援教育	1　一人一人の個性や特性を理解し、「共に生きる」ことをすべての教育活動において意識する。 2　個のニーズに応じた指導を集団の中で取り組むことを目指す。	1　すべての児童の個性や特性について把握しようと努める。 2　個別の指導計画や教育支援計画を改善していく。 3　落ち着いた学習環境を整える。 4　ユニバーサルデザインを意識した授業を進める。	○一人一人の個性や特性を丁寧に見ていこうとすることは学校として大切にすることができた。 ○特に顕著な様子を見せる児童に対してはチームを作って丁寧に検討し対応することで、より良い方向に進めることができてきている。 △誰にとっても有効な指導方法を研究し進めているが、今後も引き続き研究が必要である。
研修（資質向上の取組）	1　すべての教育活動の基盤として安心して学べる学級となる人間関係づくりの指導方法を発達年齢に応じて身につける。 2使命と責任を自覚し、豊かな人間性と広い社会性、高い専門性を目指した研修を進める。	1　校内研修の充実を図るとともに、日々の働きかけの中での学び合いを進める。 2　久美浜学園の研究テーマ【言語活動の充実】とリンクさせ、算数科を通して活用力を高める授業研究を進める。 3　学級づくりの考え方や取り組み方について、様々な機会を通じて研修を進める。	○学園の研究テーマ「言語活動の充実」について、年間を通じて授業研究をし、共通理解を図ることができた。日々の授業づくりや学級づくりに生かすことができてきている。 △今求められている多種多様な研修内容に対して、なかなか対応できていない。一人一人の経験とニーズに応じた研修が少しでも進められるようにしていく。
次年度に向けた改善の方向性	1　今年度同様、「チーム久美小」の意識を大切にし、コミュニケーションを更にとりながら、議論していく中でより良い指導方法を作り上げていく。 2　一年間を見通し、焦点化とバランスの取れた教育課程の編成を進める。その結果として、総勤務時間の縮減に努めるとともに、児童にじっくりと対応できる教育活動を推進する。 3　子どもの成長を保護者とともに確認することを通して信頼を得、そのことで更に教育活動を高めていくサイクルを意識する。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立高龍小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「意欲的な児童の育成」 1　３年目の学校課題を整理し解決する。 2　組織的対応のための校内委員会と教育相談等の充実 3　地域と連携した教育活動	・「2年目の挑戦」を目標として、児童のがんばりを一つにまとめられるようにまた、教員の思いも同方向に一体化出来るよう、学期ごとに方向を示した。それにより、目標を明確にして取り組む事ができた。 ・支援を要する児童への日々の丁寧で個に応じた指導と、保護者への連絡体制について課題が残った。	・授業の中で思考をくぐらせる場面を入れ、基礎・基本の力の充実と共に自分の考えを持ち、表現できる力を育てる。 ・改善方策をもった三者会運営と、組織的な教育活動の推進により教員の資質向上につなげる。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	○基礎的・基本的な知識技能の習得 ○授業の中で思考をくぐらせる場面の挿入 ○学力テスト分析や算数科における各学年のテストの誤答研究 ・学びの基礎を身に付ける。	・重点の算数では形成テストを作成し、ゴールを見定めた上で指導を行う。プレテストを実施し、課題把握と課題解決に向けた個別支援を実施する。(加配教員の丁寧な支援) ・反復学習を各学年で継続し、つけるべき学力を習得させる。また、活用できるよう次の段階を考え学ばせる。 ・昨年度確認してきた「高龍小これだけは」を授業で取り入れ、目標がはっきりした授業をつくりあげる。 ・思考・表現・学び合いの場面を単元を通して取り入れ、意欲的に学習に取り組める工夫をする。 ・誤答整理と分析を行い、間違いの傾向をつかみ徹底して指導に取り入れる。 ・家庭学習の内容充実と自主的な学習の進め方の確認を行う。	○授業のめあて設定をはっきりさせたこと、振り返りを入れたことで、自分の学ぶべきことをはっきり理解させて授業に参加させることができた。また、課題把握が困難な児童への個に応じた指導や、加配教員の働きかけも丁寧に行い、授業の楽しさ、わかりやすさを児童が体験し学ぶ中で、発表など自信をもって取り組めるようになってきた。 ○「自分で考える」「表現する」について全学級での取組が繰り返されることで、自分の思いを多様に考えることができる児童が出てきた。 ○「学期末テスト（漢字・計算）８割以上を！」を合言葉に自主勉強に取り組ませ、基礎定着に向けた学びを入れることで意欲的な学習につながった。
生徒指導	○個を大切にし、個性を集団の中で生かせる力を付けるとともに、お互いに気持ちの良い言語生活を送る。 ○日々の問題行動への対処は組織的に行う。	・子どもとのコミュニケーションを丁寧に行い、気持ちの良い言葉・姿勢での指導を行い、「心の声」を聞けるよう努める。 ・意欲を持って粘り強く最後まで力を出せる児童を育成するために、「協力し挑戦」する場をつくる。 ・問題行動に関して事実を正確に把握し、生徒指導部を中心とした組織的な指導を行う。また、保護者からの悩みなどの相談については丁寧に対応する。	○子どもに寄り添う思いを持っての聞き取り法で、未解決課題を解決することが増えた。心に寄り添って聞く指導ができる学校体制が大きく育った。 ○「心と体部」として生指・特活・人権・保健がタッグを組み、組織を通して話し合い、方針を出し一致して課題に対応することができた。提案後は他の教員の協力が入り全体の思いが一致した指導ができた。

健康（体育）・安全	○命の大切さを伝える ○健康な体づくりを推進する。	・下校見守りは学校全体で取組を行う。また、地域連携による登下校の見守り隊をさらに充実させる。 ・学園での学習・生活リズムの点検活動を実施し、家庭生活の様子をつかむとともに、児童・保護者への指導に活かす。（２部会での話合い） ・除去食児童対応に対する保護者との打ち合わせを、定期的に実施し、他児童の給食と交わらないように徹底する。 ・危険回避能力を身に付けさせる（安全教室・避難訓練など）訓練を行い、その大切さについて指導する。	○下校指導について登校と同様に職員も輪番で行うことができ、当番を週案にきちんと入れたことで、パトロールを充実させることができた。高龍児見守り隊と共に、児童を見守り、安全に下校させることができた。 ○体力・運動能力向上指定校を受けたことで、体力作りの内容を大きく変化させた。体力作りの時間を嫌がっていた児童が楽しく運動できるようになった。 △給食委員会・保健衛生委員会を組織する必要がある。（給食費の見通し・インフルエンザ蔓延による）
小中一貫教育の推進	○久美浜学園のめあてを重視し、児童課題を特色を生かした構想を立て、実践する。	・経営・運営・学力充実等各部会の連携を密にし、課題を明らかにし、解決に向けて具体的な計画・実践・評価の動きをつくり上げる。	○１年目の取組で、保幼小中の交流を通して理解が進んだ。組織の見直しや学力向上に向けた課題の共有など、今後の学園組織での交流や課題解決に向けた取組課題が明確になった。 ○コーディネーターが度々学校訪問し、様々な取組の写真を撮りHPにアップしたこと、総会ではDVDで取組紹介を行ったことなどは、保護者に喜ばれた。
特別支援教委育	○実態把握による支援体制の充実を行う。 ○校内委員会の設置と継続的な配慮を要する児童の指導と観察を行う。	・特別支援学級担任や通級指導担当の専門的視点での配慮を要する児童への気付きについて、定期的・継続的に交流する場を設定すると共に、その視点を大切にした指導・支援方策を全体で学び、学級での支援計画につなげ実践させる。	○校内委員会を中心に配慮を要する児童について定期的に継続的に話し合い、方針を確立できた。日々の気づき、対策を実施すると共に保護者との話し合いも継続し、現状からの一歩先を考え実践することができた。
開かれた学校づくり	○地域の魅力を探り、フィールドワーク等をとおして、故郷を知り理解を深める。	・３地区それぞれの地域の魅力について、歴史を学び、地域での体験・活動の実施により、高龍地域の一人としての自覚を高める活動を作り上げる。 ・地域の方々、講師になっていただいた方々の学びをまとめ、発信することで郷土愛を育成する。	○高龍地域の歴史と自然や施設に触れる各学年の取組は、学びと実際の訪問見学を通して児童の心に残せた。地域の講師とのふれあいを喜び楽しんで学ぶ姿を、学年ごとに多く見ることができた。
次年度に向けた改善の方向性	① 学力充実の取組…児童に一番つけていかなければならないのは「聞く力」である。ゆえに、しっかり聞かせ理解させる授業の組み立て、自力解決から交流・説明、適応題による学びまで終了する授業の創造に向け、教員一人一人の指導法改善について取り組む。 ② 学級経営の充実…児童自身学級にいることで落ち着く、安心するなど心の安定の場は大事である。しかし、児童の落ち着きは日により時間により変化があるため、担任はその思いを受け取りつつ全体を見ていく力を持たねばならない。児童一人一人の声が大事にされ、授業や遊びを通して困難なことにもみんなで取り組める学級経営を目指す。 ③ 話し合い活動…お互いを理解させたり物事を成功させたりするために、話し合いの手順や方法を学ばせる。学習や学級会、児童会や行事を通して様々な場面で、意欲をもって自治的能力が高まるような活動を仕組み、達成感を味わわせる。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立かぶと山小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
久美浜学園教育目標 ふるさとを愛し、 意欲的に学び、やさしい心をもち、 根気強く努力する子どもの育成 目指す児童像 (知) 意欲的に、質の高い学力を身につけようとする子 (徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子	○課題解決型の授業づくりに取り組み、指導力の向上を図ることができた。 ○Q-Uの実施分析を活用し配慮児童への関わり等、安定した学級経営を行うことができた。 ○特別支援教育指導員やスクールサポータ等を有効に活用することで特別支援教育の充実を図ることができた。 △学力の向上に向けた、年間を通した計画的、継続的な取組に弱さがあった。	目指す学校の姿 （1）居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成 （2）学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力（活用）を充実させる学習活動の推進 （3）家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	児童一人一人に基礎･基本や表現力、学習意欲などの「質の高い学力」を身に付けさせる。	・児童の学力実態の把握と分析に基づき、課題を明確にした学習活動の充実を図る。 ・研究推進部、学力充実部からの提起を受け、ことばの力の育成に向けた指導の充実を目指した授業に取り組む。 ・朝読書、昼ドリル、放課後補習の取組を定着させ機能化を図る。 ・図書館教育の取組を充実させ、読書活動の推進による、言語に着目した取組を進める。 ・家庭との連携を密にし、学習習慣及び生活習慣の確立に向けて取り組む。	○全国・府の診断テストの実施により学力実態の把握に努めた。年間を通した学級での指導により、年度末の診断テストではどの学年も全国平均を上回る結果を得ることができた。 ○重点研究で算数科の指導方法改善に取り組んだ。授業の中で言語活動の充実に向け研究を深めることができた。 ○昼ドリルでは算数の学習プリントに計画的に取り組み、学力の定着につなげることができた。 △読書活動については、保護者からのアンケートでも子どもの読書の実態は不十分との回答が多くあった。朝読書の充実とともに家庭での読書にもつながるように取り組んでいく。
生徒指導	安心と安定のある学級経営の充実を図る。	・生徒指導の三つの機能（自己決定の場、自己存在感、共感的人間関係）を活かした学級経営の推進により、深い信頼関係に基づく人間関係を育成する。 ・ユニバーサルデザインを取り入れた学級経営に取り組む。 ・日々の肯定的評価の積み上げにより、お互いの良さやがんばりを認め合える集団づくりを進める。 ・年３回、学級の様子を測るアンケートを実施・分析し、児童の学級における状況を的確に把握し、いじめや暴力、不登校の未然防止や改善に役立てる。	○安定した学級経営に向け、関わり方や声のかけ方が穏やかなものとなるよう取り組んできた。とりわけ、肯定的な評価に心がけることで落ちついた生活を送ることができるようになってきた。 ○校内で発生した事象については関わった者の毅然とした対応と保護者への丁寧な報告に心がけ、大きなトラブルへの発展はなかった。 ○学級の様子を測るアンケートやいじめアンケート等の実施により実態把握に努め適切な対応も行うことができた。 △引き続き生徒指導の三つの機能を活かした学級経営の推進に取り組んでいく。

H28

健康（体育）・安全	元気で規則正しい生活ができ、健康で安全な生活を送ることができる児童を育成する。	・朝の体力づくりを年間を通して計画的に実施する。 ・基本的な生活習慣の確立に向けた取組を、家庭と連携しながら進める。（全員登校の日数を昨年より多くする） ・登下校の安全に対して安全ボランティアの方々と連携した取組を進める。（付添登下校、にこにこカーによる見回り、毎月の登校指導等）	○春と秋の朝マラソンの実施、大縄大会に向けた休み時間を利用した体力づくりを進めることができた。 ○学期の初めを中心に生活習慣を見直す期間を設定し、規則正しい生活となるよう働きかけを行うことができた。全員登校の日数も昨年に比べ増加した。 ○日々の登下校の安全に安全ボランティアの方々の協力を得ながら取り組むことができた。 △ねんざや骨折などの学校事故件数の減少に取り組む必要がある。
小中一貫教育の推進	久美浜学園の一員として、学園経営方針に沿いながら教育課題の改善に向けて取り組む。 ・確かな学力の育成 ・コミュニケーション能力の育成 ・評価を見通した取組の充実	・学園共通の教育目標、目指す児童像及び共通指導事項の達成に向けた取組を進める。 ・小中一貫教育を進めるための、小中連携及び小小連携の取組の意義を理解し意識的に参加する。 ・小一スタートカリキュラムの実施、モデルカリキュラムの自校化に向けた取組を進める。 ・評価方法について研修を通して理解を深めていく。	○小中一貫教育本格実施の一年目として、学園内の小中学校及び保育所園との連携・交流が一層進んだ。 ○久美浜学園経営会議において課題の確認と解決に向けた取組について協議し、とりわけ、共通の目標の達成に向けた取組を進めることができた。 △小中学校を通して付けたい力の確認やそれに向けた取組内容をさらに進めていく。
特別支援教育	校内サポート体制の確立を図り、配慮を要する児童を中心に全ての児童に対して合理的な配慮に心がける。	・特別支援教育指導員の効果的、計画的な活用を図る。また状況に応じて柔軟な対応ができることも大切にする。 ・サポート会（低、中、高）を毎月１回持ち、情報交流、分析をして手立てを考える。 ・より専門性の高い機関と連携をとる。	○配慮を要する児童の交流を丁寧に行い、教職員間で児童理解を進めることができた。 ○中学校ＳＣ、市の臨床心理士、巡回相談等の連携活用により、児童理解が進み、適切な対応に心がけることができた。 △定期的に部会を開催することで児童の実態把握に努める。
開かれた学校づくり	学校の情報を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。	・定期的な授業参観や行事への参観、日常的な家庭訪問や電話等を使っての連絡を実施する。 ・学校や児童の様子等、学校・学級だよりやホームページ等を活用し、積極的、具体的に情報発信し理解を得る。 ・学校評価、保護者アンケート等を活用し、学校改善に生かす。 ・地域人材や学校支援ボランティアを積極的に活用する。	○行事や取組の参観や学校便り、学級通信等を通して学校の様子を知ってもらう機会をつくることができた。 △保護者アンケートの結果を分析、精査し学校改善につなげていくヒントとして有効に活用していく。 △取組に対する学校としてのねらいや考え方が的確に保護者に伝わっていないことが感じられた。ねらいや学校としての考えを理解してもらえるように伝え方など工夫していく。
次年度に向けた改善の方向性	・児童の学力の向上に向けた研究活動の活性化 ・安定した学級経営の実現に向け、生徒指導の三つの機能を踏まえた指導の継続 ・特別活動（チーム活動）を中心として児童の豊かな人間関係づくりを目指す取組の推進 ・個に応じた児童への支援のあり方を進めていくための特別支援教育の充実 ・言語能力の育成につながる日々の読書活動の取組		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立峰山中学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす学校像】 ・生徒にとっては魅力ある学校 ・家庭、地域社会にとっては開かれた学校 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】 ・確かな学力の充実・向上 ・豊かな人間性の育成 ・信頼を高める学校づくり	【小中一貫教育初年度の取組】 〇行事は、ほぼ予定どおりにすすめることができた。 〇交流事業等をとおして自己肯定感を向上させ、中学校入学への不安解消につなげる事が出来た。 △小小連携・小中連携の在り方をさらに研究する。 【確かな学力の育成】 〇京都式少人数授業を実施し、きめ細かな指導ができた。 △家庭学習習慣の定着、学習意欲向上の取組が必要である。 △教科指導についての更なる研究が必要である。 【豊かな心の育成】 〇組織的対応により不登校生徒が減少した。 〇問題事象の暴力行為が減少した。 △不登校生徒の解消と未然防止に課題を残した。 △人権意識・規範意識の醸成に課題を残した。 △個別の支援計画による生徒への具体的な指導が必要である。 【信頼を高める学校づくり】 〇学校公開や学校便り等で、積極的な情報発信を行った。	【小中一貫教育完全実施】 ・児童生徒の「自己肯定感」を更に育成する。 ・小中連携の取組内容を学園内全教職員が共通理解し、組織的・計画的に実践する。 【確かな学力の育成】 ・教師の授業実践力の向上を図る。 ・家庭学習習慣の確立を図る。 ・総合的な学習、読書活動を一層充実させる。 【豊かな心の育成】 ・道徳教育を根底にすえた教育活動を展開する。 ・人権及び規範意識の醸成を図る。 ・不登校やいじめの未然防止のための組織的計画的な取組を進める。 ・豊かな食生活を目指し食育を推進する。 【信頼を高める学校づくり】 ・学校・地域・家庭の連携を一層強化する。 ・家庭の教育力を高めるための活動を進める。

評価項目	重　点　目　標	具　体　的　方　策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・指導方法の工夫改善により学力向上と学習意欲の向上を図る。 ・学習規律を確立させると共に、家庭学習の充実を図る。	・小中一貫した学習指導方法を研究する。 ・各種テスト結果の分析に基づき、授業の在り方や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の工夫を行う。 ・週末課題や日々の宿題の充実を図り、家庭学習充実の取組を保護者と連携して取り組む。 ・少人数授業（数学・英語）を効果的に実施する。 ・校内授業研究会を実施し授業実践力を高める。	〇小中一貫教育における学習指導の取組を受け、校内授業研究会を実施し授業力の向上を図る研修ができた。 〇数学、英語の少人数授業の指導において、昨年度以上に　指導をきめ細かく実施し学力向上を図った。 〇各種テスト結果をもとに本校の学力実態を把握し、学力の回復と充実のための具体的な手立てが実施できた。 △家庭学習頑張り週間は実施できたが、年間を通しての家庭学習の指導が不十分であり改善を要する。

生徒指導	・生徒の内面に迫る指導を行い問題事象の減少を図る。 ・生徒の実態を早期に把握し、問題事象発生の未然防止を図る。 ・生徒の主体的な取組を進め自己肯定感を育てる。 ・関係諸機関との連携を進める。	・小中一貫した指導を実施する。 ・自己肯定感の向上のための指導を充実する。 ・問題事象の未然防止、規範意識の醸成のため、生徒とのふれあいの時間を確保し、毎週の生徒指導部会及び学年会で情報交流し全教職員で指導する。 ・不登校生徒については毎週の教育相談部会やケース会議で実態を把握・分析し、具体的な方針を立て行動する。 ・全校集会・学年集会の実施や、生徒会活動において、生徒の主体的な活動を組織していく。 ・警察、児童相談所等関係機関と連携を図る。	○全校集会での集合解散の状況や集会時の様子から、生徒の落ち着きが感じられる。今後も生徒の主体的な活動を組織的に進めることが大切である。 ○生徒への丁寧な関わり等から情報収集が早く、初期段階で組織的な生徒指導ができた。 ○関係機関と綿密な連携を図ることができた。 △不登校生徒や不登校傾向生徒の未然防止のため、初期段階での組織的な取組が必要である。
健康（体育）・安全	・保健教育を系統的に進める。 ・食育の推進を図る。 ・安全意識の向上を図る。 ・体力の向上を図る。	・保健学習、保健指導を計画的に進める。また、道徳・総合的な学習・特別活動との関連を図る。 ・教科等との関連を図った食に関する指導を推進する。 ・交通安全指導を徹底する。（交通教室、ＰＴＡとの連携） ・避難訓練（地震・火災）を実施し安全意識を高める。 ・教科体育指導時の安全確保を徹底させる。	○部活動の実施により体力の向上が図れた。 ○防災訓練を実施し、火災や地震及び不審者への安全意識を高めることができた。 ○保健指導により病気やケガへの予防意識が高まった。 △自転車の交通マナー向上を図る必要がある。
小中一貫教育の推進	・峰山中学校区小中一貫教育実施校（愛称「峰山学園」）の機能化を図る。 ・自己肯定感を育成する。 ・峰中中一ｷﾞｬｯﾌﾟを解消する。	・すべての小中学校が「目指す子ども像」達成に向け、学校経営方針を共通化し、指導を行う。 ・小中学校が一貫した学習指導・生徒指導等を実施する。 ・児童生徒同士・教職員同士で交流の機会を確保する。 ・児童生徒の教育支援環境を整える。	○小中一貫教育の確実な成果がアンケートの数値等に表れている。 ○一貫教育としての学力充実を図る必要があるという教員の意識が出てきた。 △初期段階から中期段階への移行を共通理解すること。
開かれた学校づくり	・地域や保護者に積極的な情報を発信する。	・教育内容、生徒の活動等を保護者や地域に発信する。 ・地域へのボランティア活動を推進する。 ・ホームページ、学校便り、学級便り等を充実する。学校だよりは地域回覧を実施する。	○学校だより、ホームページでの情報発信等、広く市民へ情報を発信することができた。 ○小中一貫教育支援協議会事務局より学園の様子の情報発信がなされた。
進路指導	・キャリア教育を計画的に推進する。 ・説明会・進路相談の充実を図る。	・体験活動に基づきｷｬﾘｱ意識の向上と啓発を進める。 ・年間計画に基づいた系統的な進路指導を進める。 ・保護者・生徒向けの進路説明会を早期から行う。 ・二者・三者面談を早期に開催し希望進路実現を図る。	○２年生職場体験の実施と立志式において、自分の将来へ　の決意を持つことができた。 ○３年生は希望進路を実現させることができた。 △学園としてのキャリア教育を推進する必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	◎峰山学園小中一貫教育が初期段階から中期段階へ向かうことを再認識し、現在までの取組の成果と課題をもとに、より一層の充実と発展を図る。 １　峰山学園の教育目標の実現と中学校独自の課題である学力向上と不登校生徒の解消、希望進路実現に向け指導の充実を図る。 ２　教師個々が授業力を向上させ、教科指導の充実を図り、生徒がわかる授業を実施することで生徒の居場所を確保し学力の充実を図る。 ３　生徒個々の状況を的確に把握し、生徒の内面を理解し、教師と生徒さらには保護者との信頼関係を築く。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1　学習意欲を高める授業づくりの充実と家庭学習の定着 2　夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 3　健康な体と豊かな心の教育の充実 4　信頼される学校づくり 5　教職員の資質能力の向上	○家庭学習習慣の確立に向けた計画立てと取組が推進できた。また、全教科で言語の力を育成するための課題を提示し、学習習慣の意識化につなげることができた。 ○生徒アンケートによる「授業評価」は 25 年度→83%、26 年度→82%、27 年度→86%と継続的に高い。 ○生徒の規範意識の涵養、自他の人権尊重、社会性の育成や自己指導力を培う取組は、生徒会活動の活性化や個々の生徒の意欲の高まりとして変容が見られ、全体的に生徒は落ち着いた学校生活が送れた。 △3 年生の不登校生徒は改善傾向であったが、家庭と一致した未来を切り拓くための意欲や自尊感情の育成には課題が見られた。 △小中の交流・連携教育活動の充実に課題を残した。	1　質の高い学力の育成を図り、学力向上に向けた取組を推進させる。 2　三年間を見通した進路学習の充実と進路を切り拓く能力の育成を図る。 3　生徒指導を組織的に展開させ規範意識の醸成と、いじめや不登校生徒の未然防止に努める。 4　健康や体力の向上に努めさせ、心豊かな人間性を育む。 5　積極的な学校公開により、信頼され、開かれた学校づくりに努める。 6　人権尊重を培う教育の推進と教職員の指導力向上に向けた研修の充実を図る。 7　小中一貫教育をはじめ、保幼・小・中・高連携の更なる推進に努める。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・組織的な学校運営の推進 ・授業規律と家庭学習習慣の確立 ・学力の実態把握と向上 ・学ぶ意欲の向上 ・思考力、判断力、表現力の育成（言語の力、活用し発表する力） ・人権教育と集団の育成を基盤とした学校生活の安定と活性化の創造 ・指導方法の研究と改善	・効果的な学校運営の推進に向け、各分掌間の連携を強化し、教育活動の充実と活性化を図る。 ・学校経営計画を基に検証し、改善に向けた具体的方策の確認を行う。 ・授業規律や学びの基礎力を徹底させる。 ・家庭学習習慣の定着に向けた取組を実施する。 ・全教科を通し、言語の力を育成するための授業づくりと週末の家庭学習に関わる課題を提示する。 ・生徒会活動の充実を図り、主体性を育む。 ・集会や特別活動を通して聞く、考える、話し合うことを重視し、生徒の生活改善と学校生活の活性化を図る。 ・指導力の向上を図る研修の充実を図る。	○教育活動全体を通し、話し合い活動や討論活動を積極的に導入し、言語活動の充実を意識した学校運営ができた。 ○校内研修を充実させるために、人権教育をはじめ道徳教育や特別支援教育など外部研修を伝達させ研究を推進し共通理解が図られた。 ○授業についての生徒評価は、「わかりやすい」が 26 年度 82%、27 年度 86%、28 年度 85%と継続して高い。また、総合的に見て「よい学校だ」と思うについても、26 年度 86%、27 年度 83%、28 年度 88%と高い数値で安定している。 △学力の定着・向上に向け、授業と連動させた家庭学習の取組や少人数授業を生かした授業改善の取組を推進してく。

生徒指導	・組織的な生徒指導体制の確立 ・学級経営の充実と好ましい人間関係の育成 ・規範意識の向上 ・不登校の未然防止	・きめ細かな指導体制の確立と具体的な方策による迅速な対応を行う。 ・生徒アンケートを実施し、状況把握と分析による教育相談活動を丁寧に行う。 ・定期的に教育相談部会を開催し、不登校生徒の未然防止と早期対応、解消に努める。	○生徒の規範意識の高揚、人権の尊重、自己有用感を培う取組は、生徒同士が「協力し合い助け合えた」26年度93%、27年度92%、28年度94%と上昇し安定している。 △「先生に気楽に相談できる」は26年度51%、27年度57%、28年度59%と低く、生徒との繋がりや教員間でのつながりを含め、相談活動を丁寧にしていく必要がある。 △不登校生徒への対応について家庭との連携をもとに個々の生徒への目標設定や計画的な支援を推進していく。
健康（体育）・安全	・安全教育の充実 ・部活動の推進	・避難訓練や交通マナーなど登下校の安全を含め、安心安全な学校生活について指導し、生徒自らの安全意識を高める。 ・異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち、活動することの楽しさを体得させるため、日々の部活指導を大切にする。	○地震・津波の避難訓練は、大宮子ども園の園児を連れて高台に避難する取組を4年間実施した。登下校路の地域清掃も行い、安全意識や豊かな心の育成につながった。 ○部活動は、「協力して目標に向かっているので楽しい」と答える生徒が26年度77%、27年度72%、28年度83%と上昇し、達成感や充実感を高めている。
小中一貫教育の推進	・人権教育総合推進地域事業の成果の継続と研究の充実 ・3会議（経営会議、運営会議、教育課程会議）、3部会（学力充実部会、人権・生徒指導部会、教育支援部会）の充実	・人権教育、学習指導、生徒指導、キャリア教育における小中連携の研究や研修を推進させる。 ・各会議や各部会の取組を通して、学園や各校の教育課題の克服を図る。 ・保護者や地域に情報を発信し、広報活動を通して理解を深める。	○完全実施2年目を終え、3会議・3部会ともに取組内容を整理しながら進めることができた。 ○一貫性と連続性を具現化するために「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成に向けた授業研や「ことばの力」については教育活動全体を通して充実を図った。 △小中一貫教育の手法を校内でさらに深める必要がある。
進路指導	・目的意識を高める指導の充実 ・学力の定着と向上 ・三年間を見通した系統的、計画的な進路指導の推進	・職場体験や講話学習を実施し、進路学習の充実を図る。 ・放課後の学習会と家庭学習の定着を図る。 ・進路情報の収集と進路資料の活用を行う。 ・計画的な二者面談、三者面談を実施する。	○外部講師を招聘し、学年に応じた進路学習の充実が図れた。また、キャリア教育のカリキュラムを継続させるとともに、指導資料の充実を図った。 △計画的に学習会は実施できたが、自主的な家庭学習の定着には不十分さを残した。
特別支援教育	・個々の生徒の的確な実態把握 ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の展開 ・特別支援教育についての理解と認識の深化 ・保護者及び関係機関との連携強化	・コーディネーターの有効活用を図る。 ・個別の指導計画や教育支援計画を加筆し、作成する。 ・定期的に教科部会を持ち、アセスメントによる個に応じた効果的な支援の手立てを図る。 ・交流学級との連携を積極的に実施する。 ・合理的配慮に関する教育内容や支援体制を確立する。 ・家庭訪問や面談等を通して保護者との共通理解を図る。	○コーディネーターを活用し、特別支援教育に関わる教職員研修会が実施でき、本校の生徒の実態・課題を明らかにしながら共通理解を図り指導にあたった。 △一人ひとりの生徒の教育的ニーズの明確化を図るため、定期的な教科部会等を開催することができなかった。 △関係機関との連携を深め、支援体制を構築していく必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	1　人権尊重を基盤とした学校運営を目指し、人権意識の涵養・心豊かな生徒の育成を目指す。 2　教育活動全体を通し、言語活動の充実を目指すとともに、質の高い学力の育成に向けた教職員研修と授業改善に取り組む。 3　不登校生徒の未然防止と早期解決に向け、学校・家庭・関係機関との連携を強化するとともに、組織的な支援体制を構築する。 4　小中一貫教育を校内でさらに浸透させ、教科指導力・学級経営力・生徒指導力の向上を目指す。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立網野中学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進 １　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 ２　すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 ３　思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 ４　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	○学力充実の前提となる授業規律が確立でき、落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることができた。 ○「考えを交流する」場面でのペア学習・グループ学習を意識した授業が増えた。 ○各種学力調査において、全国・府平均を上回る結果をあげている。 ○教職員の先を見通した指導が随所でてき、学校再配置による大きな生徒間トラブルは生じなかった。 △網野学園全体で家庭学習充実の取組を行い、取組期間中は成果があったが、まだ定着はしていない。 △中学１年生の不登校はなかったが、２・３年生の不登校生徒の解消には至らず、不登校生徒の出現率が約２％となった。	１　確かな学力の向上 （１）授業規律の確立 （２）学びスタイルの確立 （３）家庭学習の充実 （４）補充学習の充実 ２　豊かな人間性・社会性の育成 （１）生徒との信頼関係の構築 （２）組織的指導力の向上 （３）ボランティア活動の充実 ３　体力の向上 （１）積極的・意欲的な部活動への参加 （２）新体力テストの結果を踏まえた継続的指導 （３）安全教育と怪我等の未然防止

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・授業規律の確立 ・基礎基本の徹底 ・活用する力の育成 ・家庭学習の充実 ・補充学習の充実	・全教員による授業開始直後の巡回指導 ・共通指導事項「これだけは！」を意識した授業づくり ・小中相互の授業参観、事前研・事後研への参加 ・週末課題の提示と「これだけは！」家庭編の周知 ・中１ふりスタ、中２学力アップ、中３地域未来塾の充実	○学校再配置２年目を迎え、昨年度以上に落ち着いた環境の下で教育活動を進められた。 ○各種学力調査において、全国・府平均を若干上回る程度の学力が身についている。 ○小中相互の授業参観をはじめ網野高校との連携も進んだ。 ●学習意欲を高めることが今後の課題である。
生徒指導	・生徒との信頼関係の構築 ・規範意識の醸成 ・不登校の改善と未然防止 ・望ましい人間関係の育成と集団の質の向上 ・組織的指導力の向上	・あらゆる指導場面での「ほめる」「励ます」指導の継続 ・複数指導など「みんなで動く」指導体制の強化 ・生徒指導部会（いじめ対策委員会）、教育相談部会の定例化 ・必要に応じ校内ケース会議を開催 ・毎週月曜の「気づき」の発行による実態把握と指導の統一 ・関係機関との連携（麦わら、病院等）	○教職員の組織的な生徒指導により、規範意識の高まりが見られる。生徒間トラブルや交通事故も激減している。 ○●不登校生徒の出現率が昨年度の 2.1%から1.5%に下がってきてはいるものの、依然として本校の大きな課題である。 ○毎学期いじめ調査を実施し、10 件程度の報告はあるが、すべて軽微な事象で解決している。

健康（体育）・安全	・体力の向上 ・安全に対する意識の高揚 ・健康教育の推進	・積極的・意欲的な部活動への参加のための丁寧な指導 ・毎日の登下校指導、ＰＴＡ登校指導 ・交通安全教室、避難訓練の実施 ・定期的な施設・設備の安全点検 ・新体力テストの分析と活用 ・非行防止教室、性に関する指導等の実施	○意欲的に部活動に参加し、丹ブロ陸上・丹ブロ駅伝も含め、好成績を収めることができた。 ○計画通り交通安全教室や避難訓練を行い、安全・安心への意識を高めることができた。 ●ＳＮＳの課題が大きく、３学期に２度目の非行防止教室を開催した。
小中一貫教育の推進	・組織体制の再構築 ・保・幼・小・中における指導の統一 ・行動連携のさらなる充実 ・家庭、地域社会との連携	・事務局体制の整備と重要課題（学力、生徒指導・不登校）に対応した組織への改編 ・共通指導事項「これだけは！」に基づいた授業実践 ・授業研究、交流行事等の計画的な実施 ・網野小中一貫校ＰＴＡ及び網野学園教育応援会の設立	○学力向上と生徒指導（不登校も含む）を担う部会を重点的に開催し、小中学校で連携して取り組むことができた。 ○12月には本校で市教育フォーラムを実施し、小６中学校授業体験を広く市民に見ていただいた。 ○網野小中一貫校ＰＴＡでは合同交通指導、網野学園教育応援会では行事の参観などに取り組んだ。
特別支援教育	・校内体制の充実 ・障害のある生徒に対する個に応じた指導の推進	・障害者差別解消法に対応した体制や環境の整備 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした校内指導委員会の機能化 ・特別支援学級における指導体制の充実 ・通級指導教室における個に応じた指導の充実 ・個別の指導計画と支援計画の見直しと活用	○自閉情緒学級開設２年目となり、生徒のコミュニケーション能力に効果が表れてきている。 ○通級指導教室の個別指導が不登校の未然防止にもつながっている。 ●障害者差別解消法の校内研修は実施できなかったが、センター研・市特研等で研修を深めた。
開かれた学校づくり	・信頼される学校づくり ・双方向の情報交流を生かした学校改善	・区長会、民生児童委員協議会等への積極的な啓発 ・地域や保護者に対する誠実・迅速・丁寧な対応 ・ボランティア活動による地域への貢献 ・地域の教育力の活用（伝統文化体験、職場体験、外部講師の招聘等） ・学校だよりの全戸回覧やＨＰ等による情報発信	○年度当初、区長会・民生児童委員協議会・公民館長会議などに出向き、網野学園小中一貫教育について説明・啓発できた。 ○ウルトラマラソンや松の植樹ボランティアに100名以上の生徒が参加し、地域貢献できた。同時に生徒をほめる機会にもなった。 ○保護者地域アンケートで 93%が「学園は、保護者・地域への情報発信を行うことができている」の問いに、当てはまると回答している。
次年度に向けた改善の方向性	1　引き続き規範意識の醸成を網野学園の重点目標に据え、落ち着いた学校環境の中で教育活動の充実を図る。 2　小中一貫教育の手法をもとに、さらに授業改善を進め、学力の向上につなげていく。 3　不登校生徒の未然防止と解決のため、関係機関との連携を深め、組織的に継続して取り組む。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立丹後中学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
丹後中学校の開校３年目の教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校にする。 生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。	開校２年度(昨年度)は、初年度の基礎の上に、「丹後中学校としての教育」を確実にするための１年であった。生徒が主体的に学習や生活に取り組み、「本気で本物を創造する」を合言葉にして、とても良く頑張った。校風も落ち着き、しっかりしたものとなってきた。学習面での課題を更に前進させていきたい。	①開校３年目であり、教育活動の一つ一つを確認・検証しながら進めていき、生徒が輝く校風を築く。 ②小中一貫教育本実施の年であり、全教職員がその目的や目標を共有し、生徒の成長のために、具体的な取組を前進させる。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・数学の指導の研究を小学校と一緒になって進める。 ・言語活動を取り入れ、「ことばの力」の育成を図る。 ・基礎学力の定着を図る。	・小中一貫教育の重点教科として「算数・数学」の指導について研究し、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 ・全ての教科に言語活動を取り入れるようにし、「ことばの力」を育成するための授業形態を工夫し、実践する。 ・ドリルや家庭での課題学習を継続的に実施する。	○「算数・数学」を重点教科としたことにより、授業研究会での公開授業及び事後研究会が深まった。また、小学校から中学校への接続について、研修も進んだ。 ○「言語活動」を意識して授業に取り入れることにより、生徒が考えを言語化する力が高まってきた。
生徒指導	・安心できる仲間関係を築かせる。 ・新しい学校としてのルールを確認しながら定着させる。 ・ＳＮＳ等の使用について、実態を把握して指導を行う。	・授業中のみならず、生徒の休憩時間も教師が教室や廊下にいるようにして、生徒の状況を丁寧に把握すると同時に生徒との関係づくりを進める。 ・月ごとの「月目標」を定め、指導の重点を確認しながら、新しい学校としての規範作りを進める。 ・「非行防止教室」を開催する。学級での指導も進める。	○生徒一人一人に目を向け、日常的に会話を大切にして信頼関係を築くことにより、生徒の居場所もでき、良好な仲間関係を築くことができた。結果、安心して学校に登校でき、不登校はほとんどなかった。 ○非行防止教室や学級指導において、ＳＮＳについて様々な事例をもとに指導を進めることができた。
健康（体育）・安全	・体力を育てることで、忍耐力などの心の強さも鍛える。その力を学習にもつなげる。 ・安全な生活の仕方について、登下校及び学校生活の両面から指導を行う。	・学校として、部活動の指導を重視し、体育系のクラブだけでなく、文化系のクラブの生徒についても、体力作りを推奨して進めていく。 ・登下校の見守り指導及び挨拶運動を展開する。 ・学期ごとに、安全な校内生活の指導を行う。	○部活動が活発になり、生徒が意欲的に活動に向かっている。体力と合わせて、心も鍛えることができた。 ○ＰＴＡの協力も得て挨拶運動を行い、生徒会の取組と合わせ小中一貫教育の共同の取組にすることができた。挨拶への意識も向上してきた。 ○冬季の積雪時を想定して、これまでの自転車通学の状況を見直し、自転車通行が可能な歩道を通行するように指導することで交通事故を未然に防ぐことができた。

小中一貫教育の推進	・小中合同の授業研究会を開催して、指導の系統性を研究する。(重点教科：算数・数学) ・小中交流事業を通して、中学生の自覚を高める。 ・全教職員が共通理解をして、参画意識を持って取り組む。	・第Ⅱ期（小学５年～中学１年）を中心に授業研究会を開催して、小学校の授業参観・事後研究会などから、中学校として指導に生かせることを学ぶ。(算数・数学が重点教科) ・中学校の合唱祭への６年生参加や６年生部活動体験など、小学生と中学生の触れあう場面を計画的に設定して交流させる。 ・全体研修会（５月・７月・２月）などを通して、教職員の参画意識・当事者意識を高め、準備を進める。	○３小学校に中学校の教員が別れて算数の授業参観及び事後研究会に参加した。小学校から中学校への算数の授業の系統性や指導方法等について研修できた。 △中学校の定期テストの期間を小学校へ出向いて授業研究会に参加したことにより、中学校教員が成績処理等に要する時間について困難な状況が出てきた。(採点等の時間がなくなった。) 来年度は、改善する。 ○全体研修会や部会等を通して、小中一貫教育に対する教員の取組の意識や姿勢が向上してきた。
開かれた学校づくり	・保護者・地域への学校公開や授業公開を計画的に行い、丹後中学校開校３年目の教育を理解していただく機会とする。 ・学校だよりは発行回数や配付対象が限られるので、よりタイムリーな情報として学校ホームページを最大限活用して生徒の様子や学校の教育活動を発信していく。	・入学式等の儀式や合唱祭・学習発表会・部活動公開等、様々な教育活動の場面を多くの方に見ていただく機会を計画する。保護者の方だけでなく、地域の皆さんや民生委員様・学校評議員様など、多くの方に見ていただき、ご意見や感想を頂戴するようにしていく。 ・旧宇川中学校区の皆さんにも生徒の様子がよくわかるように、写真をできるだけ掲載した学校だよりやホームページの作成に心がける。 ・地域の取組に積極的に参加し、中学校の状況を伝えると同時に各小学校区の取組状況も把握するように努める。	○行事のみならず生徒の活動場面をたくさん見ていただくことができた。保護者の評価でも、学校のこの努力を評価していただく数字やことばが多く見られた。 ○小中一貫教育の完全実施の年ということもあり、「丹後学園だより」や「丹後学園ニュース」（ＨＰ用）などを多く発行して、紙面やホームページで広報することができた。 ○ホームページを見ていただくことで、学校の取組の様子のみならず、学校からのお知らせやお願いなどを広く知らせることができた。 △ホームページを閲覧できない家庭等のことを考え、紙面での広報も大切にしていかねばならない。
特別支援教育	・生徒の特性にあった支援を計画的に実践する。 ・開設２年目となる「情緒学級」の指導の充実を図る。	・個別の指導計画・支援計画に沿って、個々の課題に応じた指導・支援を行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても、適切な支援を実施する。 ・職員研修や視察などを通して、指導の充実を図り、適切な支援により、生徒の力の伸長を目指す。	○２つの学級の生徒が、元気に毎日学習に努力している状況をつくり出せた。 ○「自閉症・情緒学級」の３年生の生徒の希望進路実現のための取組を１学期当初から計画的に実施できた。 △さらに充実した指導内容を考えていく必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	①今年度、小中一貫教育完全実施となり、中学校区の保育所・こども園・小学校と一緒に取組を進めることができたので、さらに内容の充実を図るため、一つ一つの取組を振り返り、目的に沿った事業となるように、検証・実践していくことが大切であると考えている。 ②生徒の落ち着いた状況の中で、さらに「生きるための学力」をどう高めていくのかについて、研究と研修を進めていきたい。 ③保護者・地域の皆様と一緒に教育を進めるために、「丹後学園教育応援会」と連携を深めて取り組んでいきたい。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立弥栄中学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1　基礎学力の定着・活用力の育成と主体的な学習態度の養成 2　心の教育の充実による不登校の未然防止と解消 3　小中一貫教育の推進による指導の円滑な接続の実現 4　生徒指導の３機能を生かした積極的な生徒指導の展開 5　安心・安全で信頼される開かれた学校づくりの推進	1　学力 ○基礎・基本の徹底と言語活動の充実に視点を当てた授業研究等により、主体的・協働的な学習形態の広がりを見せた。 ○各種テストにおいても十分力が発揮された。 △2年生の家庭学習の定着に不十分さが残った。 2　心の教育 ○校内での情報共有と連携を徹底し、3 名の不登校生徒の改善を図ることができた。また、問題行動関係者の人数も減少した。 △2年生女子の人間関係の改善が図れなかった。 3　特別支援教育の充実 ○情緒障害の研修に重点を置き、教科担当者会を定期に実施する中で、年度後半には安定した学級経営・教科指導につなぐことができた。 △通常の学級に在籍する特別な支援を要する生徒についての指導において、不十分さが残った。	1　学力の充実 ・学年の課題に応じた取組を展開し、中学校卒業時の「夢に近づく希望進路の実現」を目指す。 ・小中一貫教育の学力・授業づくり部会の取組の徹底を図り、連続性・一貫性のある指導を充実させる。 ・言語活動を含めた学び合いを重視する学習形態の研究推進と家庭学習習慣定着の取組 2　不登校課題の改善 ・アセスの活用研究を進め、学級経営を充実させる中で生徒の居場所を安定させ不登校出現の未然防止を図る。 3　小中一貫教育実施に向けた取組の推進 ・異年齢交流活動を実施する中で、豊かな人間性の育成に努める。 4　特別支援教育の充実 ・個々の教育的ニーズに応じた指導を実践し、将来の生き方に関わる進路の実現を図る。

評価項目	重　点　目　標	具　体　的　方　策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・基礎基本の徹底と、学力の定着につながる日常的な取組の推進 ・学習規律、家庭学習習慣の確立 ・全ての教育活動を通して学力の基本となる言語力の向上 （考えて書く実践の推進） ・学び合いを重視する学習形態（ペア・グループ）の研究推進	・学び合いを重視する学習形態（ペア・グループ）等、校内・学園内授業研究会の実施と指導方法の改善 ・各種学力診断テスト等の分析と小中連携による小中共通課題の共有と改善への取組実施 ・授業アンケートと学校生活アンケートの実施と活用 ・長期休業中と土曜活用による学力向上のための全校補充学習の実施と日々の延長補充学習の実施 ・３年生による１・２年生の延長学習時間を利用した教科学習指導の実施	○弥栄学園の一貫性・連続性を重視する授業づくり研究と校内の研修をリンクさせることで、言語活動の充実を図る主体的な学習活動について教員の意識を高め、実践することができた。 ○基礎・基本を大切にする取組を展開することで、各種テストで非常に高い結果を出すことができた。 △中２調査で、家庭学習１時間以上の生徒が 49％と昨年比＋11％であったが、まだ不十分である。また、教科が好きという割合が低いので、工夫したい。

生徒指導	・生徒指導の３機能を生かした指導による問題行動の未然防止と不登校生徒出現防止 ・生徒間の信頼を高める取組の推進 ・教育相談体制の確立と関係機関との連携 ・部活動、生徒会活動における主体的な態度の育成	・生徒との信頼関係を構築するための活動の推進 ・校内教育相談体制の確立といじめアンケートの実施によるいじめや不登校の未然防止と解消 ・全教育活動における道徳教育の推進と、異年齢活動による自他を思いやる心の育成 ・行事等を通じた協働を大切にした取組の推進 ・問題事象に対する丁寧な事実関係の把握と早い対応を基本とした生徒・保護者への粘り強い指導 ・定例の教育相談部会・生徒指導部会の開催	○生徒指導・教育相談両部会の毎週開催により情報共有をして子どもたちに寄り添った指導を展開することで、問題行動の減少につながった。 ○生徒会の自主的な活動を重視する中で、自分たちを前進させようと専門部活動を活性化させることができた。 △不登校生徒について、保護者との連携がなかなか進展せず、改善が図れなかった。
健康（体育）・安全	・基本的な生活習慣の確立 ・保健教育と保健管理の徹底 ・防災意識の高揚と事故防止 ・部活動の充実	・日々の健康観察の実施と保健指導の充実 ・薬物乱用防止教室や性に関する指導等、各学年の実態に即した保健教育を実施 ・学期ごとの避難訓練の実施と自転車点検の実施 ・早朝ランニングの確立と部活動の時間確保	○日々、生徒の健康状態を的確に把握し、体調不良等が長引かないように配慮した。 ○早朝ランニングに積極的に取り組む生徒が多く、基礎体力づくりを推進できた。
小中一貫教育の推進	・表現力の育成に視点を当てた授業研究の推進 ・異年齢交流活動による自尊感情の醸成 ・連続性・協働性を高める教職員の小中一貫教育への理解 ・小中一貫教育の地域への発信	・学力授業づくり部会による学び合い・表現力の向上を重視した授業研究の推進 ・合同授業、合同部活動等、児童生徒の異年齢交流活動の実施による豊かな心の教育の充実 ・生徒指導（児童生徒交流）部会による望ましい学級づくりや問題行動防止の連携の在り方、共通指導内容の検討 ・教育相談部会による個人カルテの活用等円滑な接続の推進	○弥栄学園の学校間の距離が近いという地域性を生かし、出前授業や合同授業を展開し、小学生の中学校へのあこがれや中学生の自己有用感の醸成を図ることができた。 ○年３回の全員合同授業研究会の実施により、弥栄学園の目指す方向性を共有することができ、小中教員の協働性も高める（93.5％が肯定的回答）ことができた。
特別支援教育の充実	・情緒障害についての理解の促進 ・全教職員による組織的・計画的な指導の推進 ・保護者との連携促進	・生徒個々の教育的ニーズに応じた指導の実践 ・生徒理解・情報共有・指導方法の確認等、特別支援教育コーディネーターを中心とする組織的対応の実践 ・校内委員会の定期開催による全教職員の意識の高揚と学校全体としての支援体制の充実	○校内委員会の定例化により、生徒個々の教育的ニーズに応じた対応を適切に実施することができた。 △通常の学級に在籍する生徒に対する支援を組織的に高めることに不十分さが残った。
開かれた学校づくり	・信頼される学校づくり ・双方向の情報交流を生かした学校改善	・保護者や地域に対する誠実・迅速・丁寧な対応 ・積極的な学校公開（各種団体との連携と協働、学校だよりやＨＰ等による情報発信） ・地域の力を活用した教育の推進	△学校側からの発信は積極的に展開できたが、地域の情報を集める動きに不十分さが残った。なかなかゆっくりと構える時間が持てなかった。
次年度に向けた改善の方向性	・不登校課題の改善、自己肯定感の醸成を図るため、すべての教育活動において生徒指導の三機能を生かした指導を展開していくことが大切であると考える。小中一貫教育の推進においても、こども園・小学校と連携する中で、社会的自立を目指す視点を大切にして保護者との連携も図っていきたい。 ・来年度は１・２年生の２学年において学力課題が顕著である。夢に近づく希望進路の実現を目指して、計画的なキャリア教育を展開していきたい。そして、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す学習活動の展開を図る中で、生徒の自ら学ぶ意欲を引き出し、安定した家庭学習習慣を確立させたい。		

（別紙様式１）

平成28年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立久美浜中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
○規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。 ○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に活かし、教職員間の共通理解を丁寧に図りながら系統的に実践を積み上げる。 1　生徒の自尊感情を高め、望ましい人間関係を構築する。 2　基礎基本の定着を中心に据えた総合的な学力向上策を共通理解させ、職員みんなで取り組む。 ◇授業規律の確立 ◇小中共通の授業構造による授業改善と言語活動の充実 3　「学校・地域連携推進協議会」を立ち上げ、新たな仕組みを機能化させることで久美中教育全体を充実させる。	○学校再配置後３年が経過し、新生久美浜中学校としての学校文化を創造することができた。 ○問題事象の把握並びに指導内容や指導方法の確認等、組織的に取り組むことで対応が的確になり、みんなで動けるようになった。 ○「夏みかんの日」の取組を充実させ、生活を振り返らせたことで集団が前向きになった。 ○本校生徒会と小学児童会が協働で「あいさつ運動」に取り組み、小中連携並びに小小連携を活性化させた。 △家庭学習の習慣（１時間以上）が身に付いておらず、各種テストにおいて全国・府平均を下回っている。 △校内授業研や公開授業により、特に若手教員の授業改善意欲は一定高まったが、全体の意識の変革までは至っていない。 △特別な支援を必要とする生徒について、有効な手立て等、個別のデータは蓄積しているが、校内委員会を機能させた組織的な指導はできていない。	【法やルールに関する教育の推進】 ＝【人権教育・道徳教育・特別活動の充実】 【３つのキーワード】 「人の話を聴く」「考える」「表現する」 1　課題や具体的方策の明確化と進行管理 (1) 課題 ア　規範意識の醸成 イ　学力向上 ウ　不登校生徒の解消 (2) 指導の重点 ア　徹底した実態把握と共通理解、組織的な課題解決 イ　授業のＵＤ化と生徒指導の３機能を活かした授業改善、学習意欲の高揚 2　開かれた学校づくり (1) 地域の特性を活かした総合的な学習の時間の充実と人づくり (2) 地域や保護者への情報発信

評価項目	重　点　目　標	具　体　的　方　策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1　生徒や地域の特性を生かした教育課程の編成 2　授業実践力の向上 3　言語活動の充実 4　学習習慣の確立	◇介護体験（３年生全員）の導入、各体験学習の充実 ◇丹後学モデルカリキュラムの活用 ◇小グループ（異年齢も含む）を活用した言語活動の充実 ◇校内授業研（３回）：生徒指導の３機能を活かした授業 ◇公開授業（２回）：内１回は法やルールに関する教育 ◇家庭学習アンケート ◇家庭学習の仕方の指導 ◇久美中ドリルの工夫改善 ◇中１ふりスタ、中２学力アップ、地域未来塾の活用	○総合的な学習の時間では丹後学モデルカリキュラムを活用し、地域の特性を生かした典型をつくることができた。 （１年：地域学習　２年：職場体験学習　３年：福祉体験学習） ○授業参観週間や校内授業研を通して、言語活動に係る工夫や授業改善の意識が高まった。 ○家庭学習について、実態に応じた取組を工夫することができた。（自主学習ノートの奨励、全校２ページ学習、異年齢による教え合い学習） △２年総合に「立志式」を取り入れ、生き方に繋げる。

生徒指導	1　法やルールに関する教育の推進と人権・規範意識の醸成 2　いじめの未然防止と解消 3　自己肯定感の高揚、共感的な人間関係の育成 4　不登校・不登校傾向生徒の未然防止と解消 5　関係諸団体との連携強化	◇生徒とのふれ合い、話しこみ ◇組織的な対応：みんなで動く、複数指導 ◇徹底した事前指導：学校行事前、生徒会活動前 ◇「はあとほっとタイム」：学期１回 ◇携帯教室（情報機器の安全な取扱い）：生徒、久美浜学園ＰＴＡ ◇主要部会の定例化：生徒指導（いじめ対策）、教育相談、特別活動 ◇「気づき」「今週の気になる生徒」の発行 ◇麦わら、病院、ＳＳＷとの連携	○関係部会（生徒指導、教育相談、特別活動）を定例化し、職員全体で確認しながら丁寧に進めることで、概ね組織を意識しながら動くことができた。 ○「夏みかんの日」の取組を充実させ、生活を振り返らせることで集団が前向きになった。 ○麦わら等と連携することで、不登校生徒に自分をふり返らせることができ、学校への登校日数が増加した。 △ほっとタイムを充実させ自己肯定感を高める。
健康（体育）・安全	1　部活動の充実と達成感の享受 2　緊急時対応訓練の充実 3　食育指導の充実 4　交通安全指導の徹底と健康教育の充実	◇緊急時対応訓練 6月：火災、11月：不審者、3月：地震 ◇公開授業：食育指導と保健指導との連携 ◇自転車（安全）指導、薬物指導、生命のがん教育（7/7）性に関する教育	○命に係る指導を計画的に実施し、生徒のふり返りを促した。（食育：食の安全・朝食、生命のがん教育、薬物指導、性に関する教育、自転車安全指導、防犯教室等） ○学期に１回（7月：火災、12月：地震、2月：不審者）緊急時対応訓練を実施し、基本対応への周知を図った。
小中一貫教育の推進	1　研究組織の再構築 2　小中連携、小小連携の充実 3　行動連携の充実 4　久美浜学園ＰＴＡの連携強化	◇小グループを活用した言語活動の充実 ◇小中共通の授業構造による授業改善 ◇公開授業：「法やルールに関する教育」、教科 ◇あいさつ運動（児童生徒）：小中・小小連携の充実 ◇携帯教室（児童生徒、久美浜学園ＰＴＡ）	○「情報機器の安全な取扱い」に特化した授業を小４児童と中学生に行った。また、保護者対象講習会も実施することで、危険性の認識が深まり、トラブルが減った。 △法やルールに関する教育について、指導案づくりは一定進んだが、指導内容と方法の工夫、検証が必要である。
特別支援教育	1　校内体制の充実 2　障害のある生徒に対する個に応じた指導の推進	◇コーディネーターによる生徒支援校内委員会の機能化 ◇特別支援教室構想に基づく支援 ◇実態把握：アセスメント票、個別の指導計画・支援計画 ◇個別データの蓄積：発達障害をもつ生徒、有効な手立て ◇情緒学級等における授業内容及び指導方法の工夫改善 ◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談 ◇連携強化：保護者、教師間（教科担当等）、関係諸機関（病院等）	○定期的に授業交流等をすることで個別の課題が明確になった。また、担任と生徒・保護者との丁寧な懇談により、その時にできる手立てを講じることができた。 △特別支援教育コーディネーターの研修を充実させ、役割を明確にして校内委員会を機能化させる。 △より綿密な連携が必要である。（教科担当者間、担任と保護者、学校と関係諸機関）
開かれた学校づくり	1　信頼される学校づくり 2　双方向の情報交流を活かした学校改善	◇保護者や地域に対する誠実・迅速・丁寧な対応 ◇たより、ＨＰ等による情報発信（学校・久美浜学園） ◇学校・地域連携推進協議会の設立と機能化	○特に生徒指導では誠実・迅速・丁寧な対応と組織的な指導により、一定の信頼を得た。 ○民生児童委員会や区長会、地域活性化協議会等において、久美浜学園小中一貫教育の取組が概ね支持された。
次年度に向けた改善の方向性	◎久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に生かし、系統的に実践を積み上げる。 （１）授業改善（基礎・基本の習得・定着と言語活動の充実） （２）法やルールに関する教育の充実（授業規律の確立、道徳・人権教育の充実、情報機器の安全な取扱い） （３）望ましい人間関係の構築と自尊感情の高揚、不登校（傾向）生徒の解消		